

令和6(2024)年度 実務教育研究科 開設科目一覧

科目区分	科目コード	科目名	担当教員	DP	講義 演習	単位数	標準履 修年次	学期	備考	
基礎科目	PEPA1101L	知の理論	川山 竜二	①②	講義	2	1	前期	必修	
	PEPA1102L	社会学基礎理論	富井 久義	①②	講義	2	1	前期	CD SD共通	
	PEPA1103L	教育学基礎理論	松本 朱実	①②	講義	2	1	前期		
	PEPA1104L	人材育成の基礎	田原 祐子	①③	講義	2	1	前期		
	PEPA1105L	現代社会論	大谷 晃	①②	講義	2	1	後期	CD SD共通	
	PEPA1106L	実践研究法 I	オムニバス	①②	講義	2	1	前期	CD SD共通	
	PEPA1107S	実践研究法 II	富井 久義	①②	演習	2	1	後期	CD SD共通	
必修科目「知の理論」(2単位)を修得する。										
科目区分	科目番号	科目名	担当教員	DP	講義 演習	単位数	標準履 修年次	学期	備考	
専門基礎科目	PEPB1201L	教育社会学	齋藤 崇徳	①②	講義	2	1	後期		
	PEPB2202L	産業社会学	富井 久義	①②	講義	2	1	前期		
	PEPB1203S	組織論	坂本 文武	①③	講義	2	1	後期	CD共通	
	PEPB1204L	知識社会学	川山 竜二	①②	講義	2	1	後期		
	PEPB2206L	認知学習論	石崎 友規	②③	講義	2	1	後期		
	PEPB1212L	教育サービスの現状と未来	中川 哲	③	講義	2	1	前期		
	PEPB1214L	生涯学習の理論と発展	川山 竜二	①②	講義	2	1	前期		
	PEPB1215L	生涯学習支援論	川山 竜二	①②	講義	2	1	後期		
	PEPB0216L	社会教育経営論	荒木 貴之	①②④	講義	2	2	前期		
	PEPB1211L	教育産業と教育事業	廣政 愁一	③	演習	2	1	後期		
	PEPB0216L	心理と学習のフロンティア	本間 正人	①②	講義	2	2	後期		
専門基礎科目から4単位以上を修得する。										
科目区分	科目番号	科目名	担当教員	DP	講義 演習	単位数	標準履 修年次	学期	備考	
教育実践科目	PEPF1501S	実践教育プロジェクト	本間 正人	①③④	演習	2	1	前期		
	PEPF1502S	インストラクショナル・デザイン	北村 士朗	②③④	演習	2	1	前期		
	PEPF2503S	成人教育・学習論	北村 士朗	②③④	演習	2	2	後期		
	PEPF2504S	実務家教員のキャリア開発	北村 士朗	①③④	演習	2	2	後期		
	PEPF2505S	社会教育演習	荒木 貴之	①②④	演習	2	2	後期		
教育実践科目から4単位以上を修得する。										
科目区分	科目番号	科目名	担当教員	DP	講義 演習	単位数	標準履 修年次	学期	備考	
専門科目	知識社会	PEPC1301S	省察的实践	齋藤 崇徳	①②	演習	2	1	後期	
		PEPC2302S	実践と理論の融合	川山 竜二	②	演習	2	2	前期	
		PEPC2303L	知識・教育・社会	徳宮 俊貴	①③	講義	2	2	前期	
	組織学習	PEPC2304S	専門職教育論	齋藤 崇徳	①③	講義	2	2	後期	
		PEPC1305S	学習する組織	田原 祐子	①③	演習	2	1	後期	
		PEPC2307S	ナレッジ・マネジメント	田原 祐子	②③	演習	2	2	前期	
		PEPC2308S	現代社会と人的資本	川山 竜二	③	講義	2	2	後期	CD共通
	教育構想	PEPC2313S	コーチングとファシリテーション	本間 正人	①③	演習	2	2	前期	
		PEPC2314S	グローバル・ラーニングイノベーション	本間 正人	①②	演習	2	1	後期	
		PEPC2310S	教育コンテンツ開発	廣政 愁一	③	演習	2	2	前期	
		PEPC2311L	教育のマネジメントの理論と実践	藏田 實	①②	講義	2	2	前期	
PEPC2312S	ICTと教育	中川 哲	③	演習	2	2	後期			
専門科目から6単位以上を修得する。										
科目区分	科目番号	科目名	担当教員	DP	講義 演習	単位数	標準履 修年次	学期	備考	
展開科目	PEPD1401S	探究基礎演習	川山 竜二/荒木 貴之/齋藤 崇徳/大谷 晃	①②③④	演習	2+2	1	前期・後期	必修	
	PEPD2402S	探究演習(知識社会学)	川山 竜二	①②③④	演習	2+2	2	前期・後期	選択必修	
	PEPD2403S	探究演習(教育マネジメント)	藏田 實	①②③④	演習	2+2	2	前期・後期	選択必修	
	PEPD2405S	探究演習(産業社会学)	富井 久義	①②③④	演習	2+2	2	前期・後期	選択必修 2024年度まで開講	
	PEPD2406S	探究演習(教育学)	齋藤 崇徳	①②③④	演習	2+2	2	前期・後期	選択必修	
	PEPD2407S	探究演習(教育産業と教育事業)	廣政 愁一	①②③④	演習	2+2	2	前期・後期	選択必修	
	PEPD2408S	探究演習(組織論)	坂本 文武	①②③④	演習	2+2	2	前期・後期	選択必修 2024年度まで開講	
	PEPD2410S	探究演習(社会教育)	荒木 貴之	①②③④	演習	2+2	2	前期・後期	選択必修	
	PEPD2411S	探究演習(地域社会論)	大谷 晃	①②③④	演習	2+2	2	前期・後期	選択必修	
	PEPD2412S	探究演習(社会人教育)	北村 士朗	①②③④	演習	2+2	2	前期・後期	選択必修	
展開科目の必修科目「探究基礎演習」(4単位)、選択科目から4単位以上(8単位以内)を修得する。										

※2022年度までの入学者は教育実践科目の「実践教育プロジェクト」「実務家教員のキャリア開発」を必ず履修すること

令和6(2024)年度 実務教育研究科 時間割

前期 A	月	火	水	木	金	土
1・2限 10:30 - 12:00 12:10 - 13:40						PEPC2311L 教育のマネジメントの理論と実践 森田 寛
						PEPD1401S 探究基礎演習 川山・荒木・齋藤・大谷
3・4限 14:40 - 16:10 16:20 - 17:50						PEPD2402S 探究演習(知識社会学) 川山 竜二
	PEPA1104L 人材育成の基礎 田原 祐子	PEPB1212L 教育サービスの現状と未来 中川 哲	PEPC2302C 実践と理論の融合 川山 竜二	PEPC2303L 知識・教育・社会 徳宮 俊貴	PEPF1510S 実践教育プロジェクト 本間 正人	
5・6限 18:30 - 20:00 20:10 - 21:40	PEPC2310S 教育コンテンツ開発 廣政 悠一	PEPB2202L 産業社会学 富井 久義	PEPD1401S 探究基礎演習 川山・荒木・齋藤・大谷	PEPB0216L 社会教育経営論 荒木 貴之	PEPB1214L 生涯学習の理論と発展 川山 竜二	
		PEPD2412S 探究演習(社会人教育) 北村 士朗	PEPD2407S 探究演習(教育産業と教育事業) 廣政 悠一		PEPD2406S 探究演習(教育学) 齋藤 崇徳	
			PEPD2408S 探究演習(組織論) 坂本 文武			
前期 B	月	火	水	木	金	土
1・2限 10:30 - 12:00 12:10 - 13:40						PEPD1401S 探究基礎演習 川山・荒木・齋藤・大谷
						PEPD2411S 探究演習(地域社会学) 大谷 晃
3・4限 14:40 - 16:10 16:20 - 17:50						PEPD2403S 探究演習(教育マネジメント) 森田 寛
		PEPA1106L 実践研究法 I オムニバス	PEPA1102L 社会学基礎理論 富井 久義	PEPD1401S 探究基礎演習 川山・荒木・齋藤・大谷	PEPC2313S コーチングとアソシエーション 本間 正人	
5・6限 18:30 - 20:00 20:10 - 21:40			PEPC2307S ナレッジマネジメント 田原 祐子	PEPA1103L 探究演習(産業社会学) 富井 久義	PEPA1103L 教育学基礎理論 松本 未栄	
			PEPF1502S インストラクショナルデザイン 北村 士朗	PEPA1103L 探究演習(社会教育) 荒木 貴之		
後期 A	月	火	水	木	金	土
1・2限 10:30 - 12:00 12:10 - 13:40						PEPC1301S 省察的実践 齋藤 崇徳
						PEPD1401S 探究基礎演習 川山・荒木・齋藤・大谷
3・4限 14:40 - 16:10 16:20 - 17:50						PEPD2402S 探究演習(知識社会学) 川山 竜二
	PEPB1204L 知識社会学 川山 竜二	PEPA1107S 実践研究法 II 富井 久義	PEPF2503S 成人教育・学習論 北村 士朗	PEPA1105L 現代社会学 大谷 晃	PEPB0216L 心理と学習のコンテニア 本間 正人	
5・6限 18:30 - 20:00 20:10 - 21:40	PEPB1211L 教育産業と教育事業 廣政 悠一	PEPD2412S 探究演習(社会人教育) 北村 士朗	PEPD1401S 探究基礎演習 川山・荒木・齋藤・大谷	PEPF2505S 社会教育演習 荒木 貴之	PEPB2306L 認知学習論 石橋 友規	
	PEPC1305S 学習する組織 田原 祐子	PEPB1201L 教育社会学 齋藤 崇徳	PEPD2408S 探究演習(組織論) 坂本 文武		PEPD2406S 探究演習(教育学) 齋藤 崇徳	
			PEPD2407S 探究演習(教育産業と教育事業) 廣政 悠一			
後期 B	月	火	水	木	金	土
1・2限 10:30 - 12:00 12:10 - 13:40						PEPD1401S 探究基礎演習 川山・荒木・齋藤・大谷
						PEPD2411S 探究演習(地域社会学) 大谷 晃
3・4限 14:40 - 16:10 16:20 - 17:50						PEPD2403S 探究演習(教育マネジメント) 森田 寛
		PEPB1203S 組織論 坂本 文武	PEPF2504S 実務家教員のキャリア開発 北村 士朗	PEPD1401S 探究基礎演習 川山・荒木・齋藤・大谷	PEPC2314S グローバル・ラーニングイノベーション 本間 正人	
5・6限 18:30 - 20:00 20:10 - 21:40	PEPB1215L 生涯学習支援論 川山 竜二	PEPC2304S 専門職教育論 齋藤 崇徳	PEPD2312S ICTと教育 中川 哲	PEPD2405S 探究演習(産業社会学) 富井 久義		
				PEPD2412S 探究演習(社会教育) 荒木 貴之		

担当教員	川山 竜二	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	前期	曜日	土 B
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	必修

授業の目的

本授業の目的は、履修者が「知の理論」の内容と「知の理論」の社会的・学問的・教育的な布置を理解することにある。本授業は、社会にある「知」の多様性を認識することで、履修者の知識観の深い涵養を目指すことに重点をおく。

「知の理論 (TOK)」は、国際バカロレア (IB) においては必修科目となっている。本授業は IB の TOK の解説にとどまらず、ひろく知識論について講義する。本授業では、知識を分析するための理論を幅広く提供することで、履修者自身がもっている知識を相対化することを目指す。

「知の理論」は、それぞれの社会的文脈に応じて、知識を創造 (知識をつくりだす)・普及 (知識をつたえる)・活用 (知識をつかう) するための基本的な視座を提供する科目である。

到達目標

- ① 履修者が「知の理論」を理解し、「知の理論」のおかれている社会的・学問的・教育的布置を自ら説明することができる。
- ② 履修者が「知の理論」というメタ的観点から、自らの実践を実践知として捉えて説明することができる。
- ③ 履修者が自らの研究している領域の布置を説明し、他者にその知識の意図を伝えることができる。

授業計画

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) イントロダクション 本授業の探究の旅路を深めるとともに、「知の理論」とはいかなるものかについて概説する。	事前	シラバスを読み、参考文献リストを見て本授業の見取り図を描く (3h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h)
第 2 週	(第 2 講) 国際バカロレア (IB) とは何か (第 3 講) 国際バカロレアにおける「知の理論 (TOK)」 「知の理論」は、国際バカロレア (IB) の必修科目になっていることから、IB の思想と「知の理論」の役割について理解を深める。	事前	事前配布資料を読む (3h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)
第 3 週	(第 4 講) 知識とは何か 知識とは、いかなるものかを検討する。 (第 5 講) 知識の知識 (メタ知識) 知識を分析するための知識の構造を考究する。	事前	事前配布資料を読む (3h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)
第 4 週	(第 6 講) 科学 科学的知識とは何かを、科学哲学等の知見から概説する。 (第 7 講) 真理 「真である」とはどういうことなのかを考究する。	事前	事前配布資料を読む (3h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (1h)
第 5 週	(第 8 講) 自然・人文・社会 自然・人文・社会の 3 つの知識のカテゴリーを考察する。 (第 9 講) 政治・教育の知識	事前	事前配布資料を読む (3h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (1h)

	応用領域として政治、教育領域の知識について考察する。		
第6週	(第10講) 知識にかかわる思想1——認識論 知識にかかわる思想について、認識論から概説する。 (第11講) 知識にかかわる思想2——社会理論 知識にかかわる思想について、社会理論から概説する。	事前	事前配布資料を読む (3h) 総括討論に向けた資料探索 (2h)
		事後	総括討論に向けた資料作成 (2h) コメントペーパーの提出 (1h)
第7週	(第12講) 社会のなかの知識 知識がいかなる社会的機能を担っているかを考察する。 (第13講) 実践知 実践知や暗黙知の可能性について検討する。	事前	事前配布資料を読む (3h) 総括討論に向けた資料作成 (3h)
		事後	総括討論に向けた資料作成 (3h) コメントペーパーの提出 (1h)
第8週	(第14講) 総括討論1 (第15講) 総括討論2 履修者が対象としている研究領域がどのような知識であるのかを報告する。	事前	総括討論に向けた資料作成 (10h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義法とグループワーク法ならびにペアワーク法を用いる。本授業については、それぞれの授業週でひとつのトピックを深く考究するため、90分×2コマ連続で実施する。また、授業終了ごとにコメントペーパーを提出することを求め、履修者の関心を維持する。※リサーチワークとは、本授業内容をもとにして履修者の関心に応じて研究活動を実践することである。

教科書・参考書

教科書は指定しない。

以下、参考図書を列記する。

- ❖ Sue Bastian, Julian Kitching, Ric Sims (2020) *Theory of Knowledge for the IB Diploma: TOK for the IB Diploma (Pearson International Baccalaureate Diploma: International Editions)*, Oxford University Press.
- ❖ シェリング著／西川富雄・藤田正勝監訳 (2022) 『学問論』岩波文庫。
- ❖ 上枝美典 (2020) 『現代認識論入門——ゲティア問題から徳認識論まで』、勁草書房。
- ❖ 坂本尚志 (2022) 『バカロレアの哲学「思考の型」で自ら考え、書く』日本実業出版社。
- ❖ ジャン＝フランソワ・ブラウスタン (2022) 『グランゼコールの教科書——フランスのエリートが習得する最高峰の知性』、プレジデント社。

評価方法

以下の観点ごとに評価し、100点満点になるように換算する。60点を超えるものに単位を付与する。

1. 授業ごとにコメントを書き提出を求める「コメントペーパー」(35%)
本評価は、とくに到達目標の①と②の到達度を測るためのものである。
2. 最終授業回でのディスカッションならびに発表 (65%)
本評価は、とくに到達目標の③の到達度を測るためのものである。

その他の重要事項

詳細なシラバスや参考情報

- ❖ 基本的には、本学のLMS (Microsoft Teams) に掲載するので参照すること。

- ❖ 授業担当者の Web サイトに、授業科目などに関する情報を掲載する。

コンタクトならびにオフィスアワー

- ❖ メールではなく、Microsoft Teams のチャット機能で連絡すること。〔@r.kawayama〕
- ❖ 授業 Team のタブにオフィスアワー予約ページを作成するので、そちらから予約を取ること。

2022 年度科目との読替え

なし。

	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	○	○	—	—

授業名称	社会学基礎理論			科目コード	PEPA1102L
担当教員	富井久義	実施方法	ハイフレックス	単位数	2単位
配当年次	1・2年次	開講学期	前期	曜日	水B
年間開講数	1回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、社会学の基本的な理論や視座、発想法を理解し、社会的想像力を身につけることにある。社会課題や経営課題に取り組み、実行可能な解決策を見いだしていくためには、その課題の社会的な位置づけを見定める俯瞰的な視点や、課題を多角的にとらえる複眼的思考が求められる。「より大局的な歴史的場面を、個人ひとりひとりの内的な精神生活や外的な職業経歴によってそれがどのような意味をもっているのか」(C. W. Mills 1959=2017: 19) を考える社会的想像力を身につけることは、そうした能力を身につける一助となるだろう。

本授業では、主要な社会学理論をその射程の別に取り上げるなかで、社会的想像力の多様な発揮のしかたについて検討し、履修者の関心や課題に近い社会学理論を習得することをめざす。

到達目標

- 1 社会的想像力について理解し、みずから関心をもつ社会課題や経営課題に関連する事例に関連づけて説明することができる。
- 2 社会学の基本的な理論をもちいて、みずから関心をもつ世の中のさまざまな事象を解釈・説明することができる。
- 3 みずから関心をもつ社会課題や経営課題に関連することがらについて、社会学の理論をもちいて説明することができる。

授業計画

授業外の学習

授業計画	授業外の学習
第1週 (第1講) 社会学とはなにか (イントロダクション) ——社会学、社会的想像力、近代社会	事前 シラバスを読み課題や評価方法等についての疑問点をまとめる (1h)
	事後 コメントペーパー記入、授業内容の復習、予習・復習スケジュールの割当検討 (4h)
第2週 (第2・3講) 初期の理論家に学ぶ社会的視座 ——ウェーバー、デュルケム、マルクス	事前 フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h)
	事後 コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h)
第3週 (第4・5講) ミクロ・レベルに照準する社会学の基礎理論 ——象徴的相互作用論、相互行為、自己	事前 フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h)
	事後 コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h)
第4週 (第6・7講) メゾ・レベルに照準する社会学の基礎理論 ——官僚制、中間集団、社会関係資本、制度と文化	事前 フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h)
	事後 コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h)
第5週 (第8・9講) マクロ・レベルに照準する社会学の基礎理論 ——機能主義、顕在的機能と潜在的機能、中範囲の理論	事前 フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h)
	事後 コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h)
第6週 (第10・11講) 社会学は社会変動をいかにとらえているのか	事前 フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h)

	——葛藤理論、テクノロジーと制度、変化への意志	事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h)	
第7週	(第12・13講) 社会学は時間と空間をいかにとらえているのか ——歴史、記憶、都市	事前	フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h)	
		事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h)	
第8週	(第14・15講) 課題発表と討論 ——関心のある社会課題／経営課題についての発表と討論	事前	フィードバックコメントの確認、課題発表準備 (14h)	
		事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習、発表者へのフィードバックシート記入 (5h)	
授業の進め方と方法				
<p>本授業は、第2週目以降、2講連続で実施する。</p> <p>第2週から第7週の授業は概ね、前回のふりかえり、授業のねらいの確認、講義（話題提供）、ディスカッション（演習課題）で構成される。教員が用意するスライド資料に沿って進行する。質問は随時、発言またはチャットで受け付ける。ディスカッションは、毎週のテーマに関連する主題について、グループで検討して全体発表をする方法か、各自コメントペーパーに記入して教員が次週に紹介する方法をとる。毎週の授業終了時には、授業で学んだこと、意見・質問・感想、演習課題への貢献を記すコメントペーパーの提出を求める。コメントペーパーには教員からフィードバックのコメントを返す。このうち重要なものについては、次週の授業冒頭のふりかえりの際に紹介する。</p> <p>第8週では、関心のある社会課題／経営課題について社会学の概念をもちいた考察をする発表を各履修者に求め、相互に討論するかたちで進行する。</p>				
教科書・参考書				
<p>【教科書】 指定しない</p> <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● アンソニー・ギデンズ，2006＝2009，『社会学 第五版』而立書房。 ● 長谷川公一ほか，2019，『社会学 新版』有斐閣。 ● 田中正人編，2019，『社会学用語図鑑』プレジデント社。 				
評価方法				
<ul style="list-style-type: none"> ● コメントペーパーの内容 30% ● ディスカッションへの貢献 30% ● 第8週の課題発表の内容 40% 				
その他の重要事項				
担当教員のオフィスアワーおよび授業時間外での相談方法については、第1週の授業で説明する。				
2022年度科目との読替え				
なし。				
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	—	—

授業名称	教育学基礎理論			科目コード	PEPA1103L
担当教員	松本 朱実	実施方法	一部オンライン	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	前期	曜日	金 B
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、教育学の理論や教育に関する思想、歴史、近年の状況を理解し、教育の意義や時代に応じた教育方法、及びその課題を考察することを通じて、学校、企業、地域社会等における教育で応用可能な知識や能力を涵養することである。

では、「教育」とは何であり、人類の歴史においてどのように営まれてきただろうか？その時代において、どのような教育方法が求められ、評価をおこなってきただろうか？本授業では、「教育」を理論的な側面からとらえ、時代と共に変遷してきた諸現象や考え方について学ぶ。さらに現代社会に即した教育の課題や、未来に向けた教育の動向を学ぶ。そして、これらの学んだ教育学の概念や理論を、様々な教育場面（高等教育機関、企業、地域、家庭など）での教育実践の参考にして、自らの教育方法や内容を省察したり、新たに構築したりすることを旨とする。

到達目標

- ① 教育学の考え方や意義を説明できる。
- ② 状況に応じた効果的な教育方法を述べられる。
- ③ 授業で学ぶ教育学の概念や理論を用いて、自らの教育実践を省察し、応用を構想できる。

授業計画

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	1 講：オリエンテーション—教育学を学び、理論を学ぶということ— オンライン	事前	シラバスの精読 (1h)
		事後	ミニットペーパー作成 (2h) 授業内容の復習 (1h)
第 2 週	2・3 講：教育の本質、教育の理念と歴史—古代から中世までの西洋の教育思想— オンライン	事前	授業資料の確認 (1h) 事前課題 (2h)
		事後	ミニットペーパー作成 (2h) 授業内容の復習 (1h)
第 3 週	4・5 講：教育思想の発展と学校制度の成立—近代の教育思想・日本における教育の理念と発展— オンライン	事前	授業資料の確認 (1h) 事前課題 (2h)
		事後	ミニットペーパー作成 (2h) 授業内容の復習 (1h)
第 4 週	6・7 講：多様な教育機会の展開—成人教育、生涯学習、リカレント教育、社会教育— オンライン	事前	授業資料の確認 (1h) 事前課題 (2h)
		事後	ミニットペーパー作成 (2h) 授業内容の復習 (1h)
第 5 週	8・9 講：学習論と教育方法—科学に基づいて教育と学習を考える— ハイフレックス	事前	授業資料の確認 (1h) 事前課題 (2h)
		事後	ミニットペーパー作成 (2h) 授業内容の復習 (1h)
第 6 週	10・11 講：学力と評価方法—学力とは何か、その人の学びをどう評価するのか— ハイフレックス	事前	授業資料の確認 (1h) 事前課題 (2h)
		事後	ミニットペーパー作成 (2h) 授業内容の復習 (1h)
第 7 週	12・13 講：持続可能性に向けた教育の理論と動向—変容的な学	事前	授業資料の確認 (1h) 事前課題 (2h)

	習、エージェンシー— ハイフレックス	事後	ミニットペーパー作成 (2h) 授業内容の復習 (1h)	
第 8 週	14・15 講：まとめと振り返り—教育学の理論と実践— ハイフレックス	事前	授業資料の確認 (1h) 事前課題 (2h)	
		事後	ミニットペーパー作成 (2h) 授業内容の復習 (1h) 最終レポート作成 (14h)	
授業の進め方と方法				
<p>本授業は、第 2 週目以降、2 講 (90 分×2) 連続で実施する。上記目的・到達目標を達成するため、各授業においてその内容に応じた課題を設け、ワークやディスカッションをおこなう。講義による解説 (インプット) と、考えを表現する活動 (アウトプット) を各授業内で往還させる。前半の第 1 週～第 4 週は全員オンラインで実施し、後半の第 5 週～第 8 週は、ハイフレックスでおこなう。</p>				
教科書・参考書				
<p>本授業では教科書は指定しない。参考書は下記を例にあげる。授業内容に応じて都度文献を紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 相澤伸幸, 2015, 『教育学の基礎と展開 [第 3 版]』ナカニシヤ出版。 安彦忠彦・藤井千春・田中博之編著, 2020, 『新版よくわかる教育学原論』ミネルヴァ書房。 佐藤学, 2010, 『教育の方法』放送大学叢書。 大島純・千代西尾祐司編, 2019, 『学習科学ハンドブック』北大路書房。 				
評価方法				
<ul style="list-style-type: none"> 各回のミニットペーパー (事後学習課題) (16%) 事前学習の課題: (20%) グループワークにおける議論 (24%) 最終レポート課題 (40%) 				
その他の重要事項				
<p>授業の初回にオフィスアワーについて説明する</p> <p>遅刻や欠席をする場合は、学内のLMS (学習管理システム) を通じて事前に連絡すること</p>				
2023 年度科目との読替え				
なし				
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	-	-

授業名称	人材育成の基礎			科目コード	PEPA1104L
担当教員	田原 祐子	実施方法	オンライン	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	前期	曜日	月 A
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、人材に内在する限りない潜在能力を引き出し、モチベーション・エンゲージメント・知的生産性の高い自律型人材を育成するため、人材育成に関する理論や手法を理解・修得することである。

「人的資本経営」という言葉が示すように、人材なくして事業は成り立たず、人材は企業にとって、かけがえない貴重な資本（キャピタル）である。人生 100 年時代を迎え、人材に必要とされるスキルの変化・仕事に対する価値観や働き方の多様化によって、人材育成や人事に関する戦略も変革を求められている。加えて、ジョブ型雇用の導入・従来のピラミッド型とは対極にあるティール組織が注目されるといった時代の流れの中で、人材育成・人材マネジメントの手法も、HR テクノロジーの活用等を含め大きく変化している。

本授業では具体的に、こうした変革が進む中で、「人材育成のあり方や、しくみ・環境整備をどうすべきか」といったテーマについて、関連する理論・知見を参照しつつ検討していく。

到達目標

- ① 履修者が、転換期を迎えている今の時代に合致した、「人的資本経営」の考え方にもとづく、実践的な人材育成・人事戦略に関する理論や視点を説明できるようになる。
- ② 履修者が、モチベーション・エンゲージメントや知的生産性の高い自律型人材の育成に向けた施策について検討できるようになる。
- ③ 履修者が、修得した理論や視点をもとに、人材育成について説得的に分析できるようになる。

授業計画

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) ガイダンス: 「人的資本経営の概要」と「人材育成における課題」	事前	シラバスの精読 (0.5h) 授業での質問事項の検討 (0.5h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 講義・ディスカッションの復習 (2h)
第 2 週	(第 2 講) (第 3 講) 「企業内教育訓練」と「人材育成～基本と実践法」: 学習のメカニズム、学習モデル、学習環境デザイン、フレーム & ワークモジュールの理解と応用	事前	授業資料の確認 (1.5h) ディスカッションの準備 (1h) 参考図書該当部分の読み込み (1.5h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 講義・ディスカッションの復習 (2h)
第 3 週	(第 4 講) (第 5 講) 「人材の強みを活かす①～ヒューマン・リソース・マネジメント」: コンピテンシー、タレントマネジメント、キャリア・アンカーの理解と応用	事前	授業資料の確認 (1.5h) ディスカッションの準備 (1h) 参考図書該当部分の読み込み (1.5h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 講義・ディスカッションの復習 (2h)
第 4 週	(第 6 講) (第 7 講) 「人材の強みを活かす②～キャリアコンサルティング」: キャリア開発、ゼネラリスト vs スペシャリスト、ジョブカードの理解と応用	事前	授業資料の確認 (1.5h) ディスカッションの準備 (1h) 参考図書該当部分の読み込み (1.5h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 講義・ディスカッションの復習 (2h)
第 5 週	(第 8 講) (第 9 講) 「人材を育てモチベーションを高める、“承認”と“評価”のしくみ: 動機づけの理論、承認欲求、人事考課、考課面談、報酬、MBO (Management by Objectives) の理解と応	事前	授業資料の確認 (1.5h) ディスカッションの準備 (1h) 参考図書該当部分の読み込み (1.5h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h)

	用		講義・ディスカッションの復習 (2h)
第 6 週	(第 10 講) (第 11 講) 「組織開発・チームビルディング、チェンジマネジメント」: サーバントリーダーシップ、ティール組織、1on1 コーチングの理解と応用	事前	授業資料の確認 (1.5h) ディスカッションの準備 (1h) 参考図書該当部分の読み込み (1.5h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 講義・ディスカッションの復習 (2h)
第 7 週	(第 12 講) 「最新の人材育成戦略、および、データドリブン人事戦略」: HR Tech (ヒューマン・リソース・テクノロジー) の理解と応用 (第 13 講) 最終発表の計画立案	事前	授業資料の確認 (1.5h) ディスカッションの準備 (1h) 参考図書該当部分の読み込み (1.5h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 講義・ディスカッションの復習 (2h) 最終発表の計画立案 (5h)
第 8 週	(第 14 講) (第 15 講) 発表・プレゼンテーション～これまで学修した内容を活用し、履修者が所属する組織等を題材とした組織課題の解決、および、「効果的な人材育成」実現のためのアプローチ、講評～総合ディスカッション	事前	最終発表の準備 (2h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 講義・ディスカッションの復習 (1h) 最終発表フィードバックの復習 (1h) 最終レポート課題 (4h)

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義とディスカッション、グループワークを中心に進行する。また、履修者は、学んだ内容が自らの実務とどう関係する、どのように役立つ可能性があるか、といった事柄についてミニットペーパーに記入し、毎回の授業後の課題として提出する。

教科書・参考書

教科書は指定しない。参考書は下記の通り。

中原淳 (編著)・荒木淳子・北村士朗・長岡健・橋本論 (著), 2006, 『企業内人材育成入門』ダイヤモンド社。
田原祐子, 2017, 『マネージャーは「人」を管理しないでください』秀和システム。

ラーニングエージェンシー (著, 編集)・眞崎 大輔 (監修), 2019, 『人材育成ハンドブック 新版 いま知っておくべき 100 のテーマ』

その他、授業中に適宜参考図書を紹介する。

評価方法

- ① ミニットペーパーの提出 (15%) : 毎回の授業後、履修者の意見と、そう考える理由を記す。
- ② ディスカッション・グループワークへの貢献度 (25%)
- ③ 最終プレゼンテーション (40%)
- ④ 最終レポート課題 (800 字) (20%)

その他の重要事項

遅刻や欠席をする場合は、学内の LMS (学習管理システム) またはメール等を通じて事前に連絡すること。本授業に関する疑問点や不明点については、担当教員まで問い合わせること。

2023 年度科目との読替え

なし。

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	—	○	—

授業名称	現代社会論			科目コード	PEPA1105L
当教員	大谷 晃	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	後期	曜日	木 A
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、現代社会における教育や人材育成、コミュニケーションの位置づけを明らかにするために、社会学の主要な概念と方法をもちいて現代社会の分析をおこなうことである。

現代社会はどのような社会なのか。どのようにすれば現代社会を分析的にとらえることができるのだろうか。現代社会について理解を深めることは、私たちが生きる社会についての複眼的な視座を身につけ、解像度を高めていくことにつながる。そしてそれは、履修者各自が関心を有する社会課題や経営課題についての社会的な位置づけを明らかにする一助となる。

本授業では、グローバル化・階層と資源の分配・社会関係の変容をめぐる議論等を中心に、現代社会を論じる社会学の議論を検討することで、履修者各自が現代社会を論じる視座を身につけることをめざす。

到達目標

- ① 履修者が、現代社会を分析するための主要な概念や発想法を理解し、説明することができる。
- ② 履修者が、現代社会を分析する議論について、みずから関心をもつ社会課題や経営課題に関連づけて説明することができる。履修者が、現代社会を分析する議論について、分析視角、知見、課題を正しく読解することができる。

授業計画

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) 現代社会をとらえるための視座と方法① ——イントロダクション	事前	シラバスを読み課題や評価方法等についての疑問点をまとめる (1h)
		事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h)、予習・復習スケジュールの割当検討 (1h)
第 2 週	(第 2・3 講) 現代社会をとらえるための視座と方法② ——現代社会をめぐる理論と社会学の調査方法	事前	フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (2h)
		事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h)
第 3 週	(第 4・5 講) 地域・都市社会とコミュニティの変容 ——地域開発、住民組織、ネットワーク、まちづくり、バーチャル・コミュニティ	事前	フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (2h)
		事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h)
第 4 週	(第 6・7 講) 少子高齢化の進展と福祉国家 ——家族の戦後体制、少子化対策、資源の分配、ボランティア・NPO	事前	フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (2h)
		事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h)
第 5 週	(第 8・9 講) グローバル化と移動 ——マクドナルド化・空間の再編、観光のまなざし、世界都市仮説	事前	フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (2h)
		事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h)、課題発表文献の選択 (2h)

第6週	(第10・11講) 知識・情報とメディア、階層 ——文化資本、知識社会、格差社会	事前	フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワード の予習 (2h)
		事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、授業 内容の復習 (2h)、課題発表文献の精 読 (6h)
第7週	(第12・13講) 政治不信と民主主義 ——政治意識、政治参加、新しい社会運動、 分極化、アイデンティティ、熟議	事前	フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワード の予習 (2h)
		事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、授業 内容の復習 (2h)
第8週	(第14・15講) 現代社会論を読む——課題発表と討論	事前	フィードバックコメントの確認 (0.5h)、課題発表準備 (12h)
		事後	コメントペーパー (発表へのリアク ション含む) 記入 (3h)、授業内容の 復習 (2h)

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は担当教員による社会学理論や方法の講義に加え、履修者によるディスカッションを取り入れる形で進める。本授業は、第2週目以降、2講連続で実施する。

第2週から第7週の授業は概ね、前回のふりかえり、授業のねらいの確認、講義(話題提供)、ディスカッション(演習課題)で構成される。教員が用意するスライド資料に沿って進行する。質問は随時、発言またはチャットで受け付ける。ディスカッションは、毎週のテーマに関連する主題について、グループで検討して全体発表をする方法か、各自コメントペーパーに記入して教員が次週に紹介する方法をとる。毎週の授業終了時には、授業で学んだこと、意見・質問・感想、演習課題への貢献を記すコメントペーパーの提出を求める。コメントペーパーにはフィードバックを行い、次週の授業冒頭のふりかえりの際にいくつかを紹介する。

第8週については、各履修者の関心に近い現代社会についての論文を取り上げ、その分析視角・知見・課題等を発表し、討論をおこなうかたちで進行する。

教科書・参考書

【教科書】指定しない

【参考書】以下の文献を参照。また、それ以外にも初回および毎回の授業で参考書・参考資料を提示する。

本田由紀編(2015)『現代社会論』有斐閣。

長谷川公一ほか(2019)『社会学 新版』有斐閣。

アンソニー・ギデンズ、松尾精文・成富正信訳(2006=2009)『社会学 第五版』而立書房。

アルベルト・メルッチ、新原道信・長谷川啓介・鈴木鉄忠訳(1996=2008)『プレイング・セルフ——惑星社会における人間と意味』ハーベスト社。

評価方法

コメントペーパーの内容 30%

ディスカッションへの貢献 30%

第8週の課題発表の内容 40%

その他の重要事項

担当教員のオフィスアワーおよび授業時間外での相談方法については、第1週の授業で説明する。

* 担当教員の連絡先: 大谷晃 (akira.otani@sentankyo.ac.jp)

2022 年度科目との読替え

なし。

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	-	-

授業名称	実践研究法I			科目コード	PEPA1106L
担当教員	オムニバス	実施方法	オンライン	単位数	2単位
配当年次	1年次	開講学期	前期	曜日	火B
年間開講数	1回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、履修者が社会構想大学院大学の専門職学位課程において、修士論文相当の最終成果物を作成するにあたり必要となるアカデミック・スキルズを身につけることにある。社会人学生が大学院において効率的に実りある学びを得るためには、これまでに蓄積された学術知にアクセスし、それらを読み解き、自ら新たな知を生み出し、他者に伝達するための一連の能力を高い水準で有することが必要不可欠である。

本授業ではまず「研究」や「調査」とはいかなる営みか整理し、それらを支える思考法を学び、そのうえで文献調査の技法や、アカデミックコンテンツを読み・書き・伝える能力を身につけていく。併せて、適切な倫理性を備えた研究計画を立案するための基礎的な考え方を習得する。

到達目標

- ① 履修者が「研究」や「調査」といった概念や、その前提となる思考法・倫理について説明できるようになる。
- ③ 履修者が書籍や論文といった学術的リソースを利活用できるようになる。
- ④ 履修者がアカデミックなコンテンツを読み・書き・伝える能力を身につける。

授業計画

授業計画		授業外の学習	
第1週	(第1講/橋本純次) 研究とはなにか, 調査とはなにか: オリエンテーション	事前	シラバスの精読 (0.5h) 授業での質問事項の検討 (1h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (2h)
第2週	(第2・3講/橋本純次) 論理的思考とデザイン思考: 高度専門職業人の基礎となる世界の捉え方	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (2h)
第3週	(第4・5講/齋藤崇徳) 文献調査の技法: 学術情報を体系的に検索する方法	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (2h)
第4週	(第6・7講/齋藤崇徳) クリティカル・リーディングの基礎と実践: 文献レビューのための読書法	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (2h)
第5週	(第8・9講/大谷晃) アカデミック・ライティングの基礎	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (2h)
第6週	(第10・11講/全教員) アカデミック・ライティング演習: パラグラフ・ライティングの実践	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (6h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (2h)
第7週	(第12・13講/橋本純次) アカデミック・プレゼンテーションの基礎と実践: 研究内容を伝えるコミュニケーション	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h)

			ディスカッションの復習 (2h)		
第 8 週	(第 14・15 講/富井久義) 研究計画と研究倫理：調査依頼状に あられるリサーチ・デザインと調査倫理	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2h)		
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 授業内課題のブラッシュアップ (2h)		
授業の進め方と方法					
上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義とディスカッションを中心に進行する。併せて、アカデミックな方法論を履修者全体に内在化する観点から、いくつかのテーマでは課題へのフィードバックを全体で共有しながら授業を進める。					
教科書・参考書					
参考書として以下 3 点を挙げる。履修者の状況に応じていずれかを手元に置くことが望ましい。					
<ul style="list-style-type: none"> 戸田山和久 (2022) 『最新版 論文の教室』, NHK 出版. 鹿島茂 (2003) 『勝つための論文の書き方』, 文藝春秋. ウェイン・ブース (2018) 『リサーチの技法』, ソシム. 					
評価方法					
① 毎回の授業でのディスカッションへの貢献とコメントペーパーの提出					
② 各回で課せられる課題の提出					
③ 最終課題の提出					
以上, ① (40%), ② (30%), ③ (30%) の総合評価により判定する。					
その他の重要事項					
論文等, アカデミックな文章の執筆経験がない学生のほか, そうした技術を改めて習得したいと考える学生に履修を推奨する。各教員のオフィスアワーおよび予約の方法については初回の授業で説明する。					
本授業はすべての回をオンラインで実施する。					
成績評価教員：齋藤崇徳、大谷晃					
2022 年度科目との読替え					
なし。					
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④	
	○	○	-	-	

授業名称	実践研究法II			科目コード	PEPA1107S
担当教員	富井 久義	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	後期	曜日	火 A
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、社会調査の発想法や具体的な方法論を理解し、みずから有する課題を探究するにあたって適切な調査方法を選択し、調査の設計・実施・集計・分析・解釈・報告ができるようになることである。

とくに、研究所所属大学院生を対象とした調査票調査である学習時間調査と、修了生を対象とした大学院での学習効果にかんする聞き取り調査を題材に取り上げた演習を取り入れることで、社会調査の手法を実践的に習得することをめざす。

到達目標

- ① 調査の主要なねらいや発想法を理解し、調査にもとづく報告書や論文を適切に読み解くことができる。
- ② 社会調査の設計・実施・集計を適切な手法をもちいておこなうことができる。
- ③ 社会調査の分析・解釈・報告を適切な手法をもちいておこなうことができる。

授業計画

授業外の学習

授業計画	授業外の学習
第 1 週 (第 1 講) 社会調査とはなにか・学習時間調査のこれまで ——社会調査、調査倫理、学習時間調査、卒業生調査	事前 シラバスを読み課題や評価方法等についての疑問点をまとめる (1h)
	事後 コメントペーパー記入、選択するグループの検討 (1h)
第 2 週 (第 2・3 講) 社会調査の設計と実施方法 ——調査企画と設計、調査目的と資源、調査項目案の作成	事前 フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (2h)
	事後 コメントペーパー記入、グループでの調査計画検討 (4h)
第 3 週 (第 4・5 講) 社会調査の準備 ——調査票の作成、調査依頼文の作成	事前 フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (2h)
	事後 コメントペーパー記入、グループでの調査票・質問案検討 (4h)
第 4 週 (第 6・7 講) 社会調査の実践①——プリテストと実査	事前 フィードバックコメントの確認、グループでの調査票・質問案完成 (5h)
	事後 コメントペーパー記入、学習時間調査・聞き取り調査の実査 (9h)
第 5 週 (第 8・9 講) 調査データの整理と分析 ——記述統計量・度数分布表・クロス集計表、 トランスクリプト・ケース記録・コーディング	事前 フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (2h)
	事後 コメントペーパー記入、グループでの調査データの入力・整理 (4h)
第 6 週 (第 10・11 講) 社会調査に必要な統計学 ——統計的検定、カイ二乗検定、t 検定、相関係数	事前 フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (2h)
	事後 コメントペーパー記入、グループでの調査データの分析 (4h)
第 7 週 (第 12・13 講) 多変量解析の方法・調査報告の方法論 ——多変量解析、重回帰分析、ロジスティック回帰分析	事前 フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (2h)
	事後 コメントペーパー記入、グループでの調査データの分析 (4h)
第 8 週 (第 14・15 講) 社会調査の実践②——調査結果の報告	事前 フィードバックコメントの確認、グループでの発表準備 (5h)
	事後 コメントペーパー記入、最終レポート課題の執筆、最終レポート課題相

			互レビュー (9h)	
授業の進め方と方法				
<p>本授業は、第2週目以降、2講連続で実施する。社会調査の発想法や方法論についての講義と、調査票調査または聞き取り調査の設計・実施・集計・分析に取り組む演習の双方を取り入れて授業を進める。授業外にグループで協力して課題に取り組むことも求められる。</p> <p>毎週の授業終了時には、授業で学んだこと、意見・質問・感想、演習課題への貢献を記すコメントペーパーの提出を求める。コメントペーパーには教員からフィードバックのコメントを返す。このうち重要なものについては、次週の授業冒頭のふりかえりの際に紹介する。</p> <p>授業で取り組んだ調査結果をもとにした、大学院での学習にかんする考察を求めるグループ発表と、最終レポート課題を課す。最終レポート課題は提出期限後、履修者が相互に閲覧可能な期間を設ける。</p>				
教科書・参考書				
<p>【教科書】 指定しない</p> <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 社会調査協会, 2014, 『社会調査事典』丸善出版. ● 佐藤郁哉, 2015, 『社会調査の考え方 [上・下]』東京大学出版会. ● 大谷信介ほか編, 2013, 『新・社会調査へのアプローチ——論理と方法』ミネルヴァ書房. 				
評価方法				
<ul style="list-style-type: none"> ● コメントペーパーの内容 20% ● 演習課題への貢献 40% ● 最終レポート課題の内容 40% 				
その他の重要事項				
担当教員のオフィスアワーおよび授業時間外での相談方法については、第1週の授業で説明する。				
2022年度科目との読替え				
なし。				
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	—	—

授業名称	社会教育経営論			科目コード	PEPB0216L
担当教員	荒木貴之	実施方法	ハイフレックス	単位数	2単位
配当年次	1年次	開講学期	前期	曜日	木A
年間開講数	1回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、多様な主体と連携・協働を図りながら、自治体やさまざまなコミュニティにおける学びを基盤とした自律的・持続的な活動の促進に資する社会教育の専門性を有する社会教育人材として、社会教育事業を構想し、実現するための知識及び技能の習得を図る。

到達目標

- ① 履修者が、さまざまなコミュニティにおける、学びを基盤とした自律的・持続的な活動の促進に資するための専門性を高めることができる。
- ② 履修者が、学びを基盤とした社会教育活動をオーガナイズするための専門性を高めることができる。
- ④ 履修者が、社会教育事業を構想し、実現することができる。

授業計画

授業外の学習

授業計画	授業外の学習
第1週 (第1講) 社会教育経営論の目的と視点 社会教育経営論の目的と視点について解説する。	事前 社会関係資本に関するリサーチワーク (3h)
	事後 人的資本主義に関する検討と相互レビュー (2h)
第2週 (第2講) 社会教育経営論の理論1 (第3講) 社会教育経営論の理論2 社会教育経営論をめぐる社会教育の理論的動向を解説する。	事前 脱学校論に関するリサーチワーク (3h)
	事後 社会教育と学校教育との相違に関する検討と相互レビュー (2h)
第3週 (第4講) 社会教育行政と地域活性化1 (第5講) 社会教育行政と地域活性化2 社会教育行政と地域づくり、市民協働・住民自治について解説する。	事前 成人学習理論(アンドラゴジー)に関するリサーチワーク (3h)
	事後 市民協働・住民自治に関する検討と相互レビュー (2h)
第4週 (第6講) 社会教育行政の経営戦略1 (第7講) 社会教育行政の経営戦略2 社会教育行政の経営戦略と、社会教育計画の構造について解説する。	事前 自らが居住する自治体の社会教育行政に関するリサーチワーク (3h)
	事後 社会教育計画に関する検討と相互レビュー (2h)
第5週 (第8講) 学習課題の把握と広報戦略1 (第9講) 学習課題の把握と広報戦略2 地域課題の分析と把握、学習課題把握のための調査法とその活用について解説する。	事前 自らが所属するコミュニティの学習課題に関するリサーチワーク (3h)
	事後 社会教育の調査法の活用と相互レビュー (2h)
第6週 (第10講) 学習課題の把握と広報戦略3 (第11講) 社会教育における地域人材の育成 社会教育行政における地域広報戦略と、人材の育成・活動支援について解説する。	事前 自らが居住する自治体が行う、社会教育の広報に関するリサーチワーク (3h)
	事後 地域人材の育成・活動支援に関する検討と相互レビュー (2h)
第7週 (第12講) 学習成果の評価と活用の実際	事前 社会教育による学習成果に関するリサーチワーク (3h)

	(第13講) 社会教育を推進するネットワークの形成 学習成果の評価と活用、連携・協働の推進とネットワークの活性化について解説する。	事後	ステークホルダーのイコールパートナー精神に基づくコミュニティ構築に関する検討と相互レビュー (2h)	
第8週	(第14講) 社会教育施設の経営戦略 (第15講) 社会教育主事及び社会教育士の役割 社会教育施設の経営・ネットワーク、社会教育主事・社会教育士等の社会教育人材の役割について解説する。	事前	社会教育施設の現状把握と課題把握に関するリサーチワーク (3h)	
		事後	社会教育計画の策定 (7h)	
授業の進め方と方法				
上記目的・到達目標を達成するため、本授業は、ワークショップやグループ討議など、アクティブ・ラーニングの手法を用いた参加型による学習を適宜行う。事前学習及び事後学習として、クローズドな SNS を用いた学習者コミュニティによる意見交換や情報共有を行う。				
教科書・参考書				
教科書：浅井経子 (2020) 『社会教育経営論』, ぎょうせい 参考書：生涯学習・社会教育行政研究会 (2023) 『生涯学習・社会教育行政必携 (令和6年版)』, 第一法規、 イヴァン・イリッチ (1977) 『脱学校の社会』, 東京創元社				
評価方法				
課題、SNS での学習参画、リアクションペーパー、アンケート等 (60%) レポート「社会教育経営計画の策定」(40%)				
その他の重要事項				
オフィスアワーの予約方法：電子メールにて希望日時を調整し、研究相談を実施する。 授業実施方法の詳細など				
2022 年度科目との読替え				
なし。				
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	-	○

授業名称	心理と学習のフロンティア			科目コード	PEPB0216L
担当教員	本間正人	実施方法	オンライン	単位数	2単位
配当年次	2年次	開講学期	後期	曜日	金A
年間開講数	1回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業では、学習活動を創造性、コミュニティ、遊びという視点からとらえ、心理学や学習科学をはじめとした多様な理論に基づいて、理解することを目的とする。この3つの視点は、学校教育だけでなく、企業の人材育成、リカレント教育など様々な場面において注目されており、実務家教員として新しい教育実践を開発し展開するための手がかりを得ることを目指す。

到達目標

- 履修者が近年の心理学や学習科学などの研究知見をふまえた上で、学習活動を捉え直すにあたっての創造性、コミュニティ、遊びという3つの視点の重要性について説明することができる。
- 履修者が最新の教育実践や学習活動の特徴を、創造性、コミュニティ、遊びの視点を用いて説明することができる
- 履修者が、創造性、コミュニティ、遊びという3つの視点を用いて、自らの実務や研究の領域における学術的な発展可能性や実践的な応用可能性について述べるができる。

授業計画

授業外の学習

授業計画	授業外の学習	
第1週	事前	授業資料の確認 (1h) ディスカッション準備 (1h)
	事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (0.5h)
第2週	事前	文献の読解 (3h) ディスカッション準備 (1h)
	事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (1.5h)
第3週	事前	文献の読解と発表準備 (7h) ディスカッション準備 (1h)
	事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (1.5h)
第4週	事前	文献読解 (3h) ディスカッション準備 (1h)
	事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (1.5h)
第5週	事前	文献の読解と発表準備 (7h) ディスカッション準備 (1h)
	事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (1.5h)
第6週	事前	文献の読解 (3h) ディスカッション準備 (1h)
	事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (1.5h)

第7週	(第12講)：遊びと学習に関する研究動向1：文献発表	事前	文献の読解と発表準備 (7h) ディスカッション準備 (1h)
	(第13講)：遊びと学習に関する研究動向2：解説と議論	事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (1.5h)
第8週	(第14講)：自分自身の実践プランに関する発表のディスカッション	事前	授業資料の確認 (1h) ディスカッション準備 (2h)
	(第15講)：自分自身の実践プランに関する発表のディスカッション	事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (1.5h)

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業はまず第1週において、なぜ実務家教員にとって、心理学の素養が必要なのか考察し、コースの趣旨理解を図る。第2週以降は創造性、コミュニティ、遊びという3つの視点のそれぞれについて、学術的研究動向と、具体的な社会的実践を検討して行く。進め方としては履修者により、文献を読み、その内容・主な論点について発表を行い、ディスカッションで理解を深めていく。社会的実践の検討に関しては、当事者をゲスト講師に招き、その実践の特徴や課題を議論する。最後の回では3つの視点を融合する形で、履修者自身の実践プランに関して発表を行う。授業実施方法はオンラインで実施する。

教科書・参考書

教科書は 市川伸一 (2010) 『学ぶ意欲の心理学』(PHP) を指定するので購入すること。その他、参考文献を適宜、紹介する。代表的なものとしては、上田信之、中原淳 (2019) 『プレイフル・ラーニング』(三省堂)、ピーター・センゲ他 (2014) 『学習する学校』(英治出版)、阿部慶賀 (2019) 『創造性はどこからくるか：潜在処理、外的資源、身体性から考える (越境する認知科学 / 日本認知科学会編, 2)』共立出版。など。

評価方法

文献発表の内容 (60%)、毎回のコメントペーパー (40%) による総合評価。

その他の重要事項

オフィスアワーの予約方法など、詳しくは初回の授業で説明します。

2022年度科目との読替え

なし。

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	D	DP ②	D	DP ④
	P		P	
	①	③		
	C	○	-	-

授業名称	教育社会学			科目コード	PEPB1201L
担当教員	齋藤 崇徳	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	後期	曜日	火 A
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

「教育」は、誰もが自らの経験に基づき語ることのできるテーマである。しかしながら、社会学の視点で教育をとらえてみると、そこには様々な「社会的」な要素が埋め込まれていることが見えてくる。すなわち、社会的に教育を考察することで、教育に関わる諸事象をより客観的・複合的に解き明かすことができるとともに、教育というレンズを通して私たちを取り巻く「社会」についても理解を深めることができるのである。本授業では、履修者が教育社会学の中核的な理論や手法を習得し、教育・社会を新たな視点から読み解き、関連する様々な課題を解決していけるようになることを目指す。

到達目標

- ① 履修者が、教育社会学の基本的な理論・手法を理解し、他者に説明することができる。
- ② 履修者の関心のある様々な教育事象・社会現象について説明することができる。
- ③ 履修者が抱える、また関心のある教育課題を社会的に構造化し、その解決策を具体化できる。

授業計画

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) イントロダクション 本授業の計画を説明するとともに、教育社会学の学問的性 格、近代社会における教育のあり方について講義する。	事前	授業資料の予習 (2h) 参考書の確認 (3h)
		事後	授業の復習 (2h) ミニットペーパーの提出 (1h)
第 2 週	(第 2 講) 学校の社会学 / (第 3 講) カリキュラムの社会学 近代学校の性格および学校社会学の理論について理解する とともに、カリキュラムの社会的分析について学習する。	事前	授業資料の予習 (1h) 指定論文の確認 (5h)
		事後	授業の復習 (1h) ミニットペーパーの提出 (1h)
第 3 週	(第 4 講) 家族と教育の社会学 / (第 5 講) 性別と教育の社会学 近代家族と教育の関係、性別と教育の関係について学習す る。	事前	授業資料の予習 (1h) 指定論文の確認 (5h)
		事後	授業の復習 (1h) ミニットペーパーの提出 (1h)
第 4 週	(第 6 講) 差別と教育 / (第 7 講) ナショナリティと教育 社会的差別と教育について学習した上で、ナショナリティ、 国民国家と教育の関係について理解する。	事前	授業資料の予習 (1h) 指定論文の確認 (5h)
		事後	授業の復習 (1h) ミニットペーパーの提出 (1h)
第 5 週	(第 8 講) 社会経済的地位と教育 / (第 9 講) 学歴・資格・選抜 社会的な分析において欠かせない地位と教育の関係、ま た、これに関連するテーマである学歴・資格・選抜について理 解する。	事前	授業資料の予習 (1h) 指定論文の確認 (5h)
		事後	授業の復習 (1h) ミニットペーパーの提出 (1h)
第 6 週	(第 10 講) 経済と教育の社会学 / (第 11 講) 高等教育の社会学 教育経済学的な視座と社会学の関係について検討し、これと	事前	授業資料の予習 (1h) 指定論文の確認 (5h)
		事後	授業の復習 (1h) ミニットペーパーの提出 (1h)

	実質的に関連するテーマである高等教育の社会学的分析について学習する。			
第7週	(第12講) 教育問題の社会学 / (第13講) 教育改革の社会学 社会問題の社会学の視点から教育問題を分析するとともに、 そして教育改革を社会学的に分析する視座を検討する。	事前	授業資料の予習 (1h) 指定論文の確認 (5h)	
		事後	授業の復習 (1h) ミニットペーパーの提出 (1h)	
第8週	(第14講・第15講) 教育社会学に関するプレゼンテーション 履修者がそれぞれの関心から教育課題についての教育社会学 学的な視点に基づくプレゼンテーションを行う。	事前	プレゼンテーションの準備 (5h)	
		事後	授業の復習 (1h) ミニットペーパーの提出 (2h)	
授業の進め方と方法				
<p>上記目的・到達目標を達成するために、本授業は毎講、特定のテーマを設定した上で、以下のように進めていく。(1) 毎週、履修者は事前に指定した論文を確認する。(2) 授業では、教育社会学の理論や近年の研究動向および、事前に指定した論文について講義形式で解説する。(3) そのうえで、履修者同士でディスカッションを行う。(4) 授業後にミニットペーパーを提出する。</p> <p>さらに第8週には、それまでに習得した教育社会学の知見を活かし、各履修者が特に関心を持つ教育課題を構造化し、解決策(に関する仮説)を具体化したうえで、プレゼンテーションする機会を設ける。</p>				
教科書・参考書				
<p>教科書は指定しない。参考書として、以下に主要な教科書等を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 相澤真一・伊佐夏実・内田良・徳永智子(2023)『これからの教育社会学』, 有斐閣. ● 荻谷剛彦・濱名陽子・木村涼子・酒井朗(2023)『新・教育の社会学:〈常識〉の問い方, 見直し方』, 有斐閣. ● 酒井朗・多賀太・中村高康編(2012)『よくわかる教育社会学』, ミネルヴァ書房. ● 中村高康・松岡亮二編(2021)『現場で使える教育社会学:教職のための「教育格差」入門』, ミネルヴァ書房. ● 日本教育社会学会編(2018)『教育社会学事典』丸善. 				
評価方法				
① ミニットペーパーの内容 (30%)				
② ディスカッションへの貢献 (30%)				
③ 第8週に実施するプレゼンテーションの内容・方法 (40%)				
その他の重要事項				
担当教員のオフィスアワーおよび予約の方法については、初回の授業で説明する。				
2022年度科目との読替え				
なし。				
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	—	—

授業名称	組織論			科目コード	PEPB1203S
担当教員	坂本 文武	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	1・2 年次	開講学期	後期	曜日	火 B
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、組織というものの構成要素や構造的課題を理解することで、広報及び人材育成担当者として組織と社会との関係性を再考する。組織と社員の持続的な成長を促す観点に軸足を置いて、「どのような組織デザインが望ましいのか」、「理念や社内外のステークホルダーとの関係性をどのように設計することが望ましいのか」などの問いに応えられるよう授業を進行する。「組織は人の集合体」である以上、人を扱う担当者は、組織の本質やジレンマを俯瞰して理解する必要がある。組織とは何か、ガバナンスの意義は何か、組織は何のために存在しているのか、など本質的な問いに向き合うことで、組織と社会、組織と社員の関係性を整理できるようにすることを目指す。なお、本授業で扱う組織は、営利企業を主たる対象とする。ただし、組織の本質を理解するため、敢えて非営利組織や行政機構との共通点や相違点を確認しながら討議する。

到達目標

- ① 履修者が組織の可能性と課題を分析する基本的な視点を獲得する。
- ② 履修者が組織と社会の関係を体系的に説明することができる。
- ③ 履修者が組織を設計する際に重視すべき点について、自らの考えを述べることができる。

授業計画

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) 企業と社会の関係性導入—組織論はどこに向かっているのか	事前	シラバスの精読と授業での質問事項の検討 (0.5h)
		事後	ディスカッションの復習 (1h)
第 2 週	(第 2 講) 企業と社会の歴史的解釈—企業は人をどう扱ってきたのか、サステナビリティに至る経緯を重ねて検討する (第 3 講) 企業と社会の現代的解釈—企業は「トランスフォーメーション」できるのか、SDGs の背景を読み解く	事前	授業資料の確認 (1.5h)
		事後	ディスカッションの復習 (2h)
第 3 週	(第 4 講) 企業の基本と株式会社制度の可能性と課題—責任ある企業は幻想なのか (第 5 講) ガバナンスの考え方と意義—支援と監視のメカニズムになりうるには	事前	授業資料の確認 (1.5h)
		事後	ディスカッションの復習 (2h)
第 4 週	(第 6 講) 企業価値へのまなざし—企業は何によって評価されるべきなのか (第 7 講) 非財務価値の創出と強化—それを高めるコミュニケーションの必要と意義とは	事前	授業資料の確認 (1.5h)
		事後	ディスカッションの復習 (2h)
第 5 週	(第 8 講) 企業文化の理解と変革へのアプローチ—何をどの程度どのように変革するのか (第 9 講) 企業の社会適応能力を高める—理念浸透からダイバーシティマネジメントまで	事前	授業資料の確認 (1.5h)
		事後	ディスカッションの復習 (2h) グループで事例研究と発表準備 (22h)

第6週	(第10講) 事例研究①－履修者による事例報告とそれに基づく理想の組織に関する討議	事前	発表資料の確認 (2h)		
	(第11講) 事例研究②－前講の続き	事後	ディスカッションの復習 (2h)		
第7週	(第12講) 事例研究③－前講の続き	事前	発表資料の確認 (2h)		
	(第13講) 事例研究④－前講の続き	事後	ディスカッションの復習 (2h)		
第8週	(第14・15講) 総括討議－理想の組織論、現代社会における組織の役割と要点	事前	過去講義資料とノートの確認 (3h)		
		事後	ディスカッションの復習 (1.5h) 最終レポート課題の作成 (10h)		
授業の進め方と方法					
上記目的・到達目標を達成するため、本授業は基礎知識の習得を狙いとする講義と、派生する問いに関するディスカッションを中心に進行する。なお、重点的に取り扱う具体的なテーマについては、履修者の関心を踏まえて調整していく。第6週及び第7週は、履修者グループによる発表があるため、発表班は事前の事例調査及び分析作業が発生する予定。					
教科書・参考書					
教科書は指定しない。 参考書：佐藤真久・広石拓司（2020年）『SDGs人材からソーシャル・プロジェクトの担い手へ 持続可能な世界に向けて好循環を生み出す人のあり方・学び方・働き方』、みくに出版。					
評価方法					
① 講義中もしくは Teams でのディスカッションへの貢献 ② 最終課題の提出（文字数は3,000文字程度、提出期限は第8週後2週間程度） 以上、①（40%）、②（60%）の総合評価により判定する。					
その他の重要事項					
担当教員のオフィスアワーおよび予約の方法については、初回の授業で説明する。 ハイフレックス形式にて開講するが、教員の都合等により一部オンラインのみで開講する可能性がある。					
2022年度科目との読替え					
なし。					
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④	
	○	－	○	－	

授業名称	知識社会学			科目コード	PEPB1204L
担当教員	川山 竜二	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	後期	曜日	月 A
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、社会のなかで知識がいかにつまえているか／知識がいかに使われているのかを探究する知識社会学について理解し、また知識社会学の知見を実社会で活用することである。知識にかかわる分析手法のいくつかをトピック——科学社会学や言説分析などの周辺領域や応用領域——として扱うことで、知識基盤社会のなかでの知識の役割を再検討したい。

到達目標

- ① 履修者が知識社会学の基本的な理論や概念を理解し、自らの言葉で知識社会学を他者に対して説明することができる。
- ② 履修者が知識社会学の理論を用いて知識の相対性を理解し、知識社会学で用いる概念を一つ以上もちいてそれを自らの言葉で説明することができる。
- ③ 履修者が知識社会学やその周辺領域の理論や概念を理解し、自らの知識／研究対象を社会と関連づけて説明することができる。

授業計画

授業外の学習

授業計画	授業外の学習
第 1 週	事前 シラバスを読み、参考文献リストを見て本授業の見取り図を描く (3h)
	事後 コメントペーパーの提出 (1h)
第 2 週	事前 事前配布資料を読む (3h)
	事後 コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)
第 3 週	事前 事前配布資料を読む (3h)
	事後 コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)
第 4 週	事前 事前配布資料を読む (3h)
	事後 コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (1h)
第 5 週	事前 事前配布資料を読む (3h)
	事後 コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (1h)
第 6 週	事前 事前配布資料を読む (3h) 総括討論に向けた資料探索 (2h)
	事後 総括討論に向けた資料作成 (2h) コメントペーパーの提出 (1h)
第 7 週	事前 事前配布資料を読む (3h) 総括討論に向けた資料作成 (3h)

	知識の反省理論について考究する。とくに社会システム論の観点から知識を分析する新たな理論枠組みについて議論する。	事後	総括討論に向けた資料作成 (3h) コメントペーパーの提出 (1h)	
第 8 週	(第 14 講/第 15 講) 総括討論 「知識社会学」にかかわる様々な議論について、履修者の問題関心から報告する。	事前	総括討論に向けた資料作成 (10h)	
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)	
授業の進め方と方法				
<p>上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義法とグループワーク法ならびにペアワーク法を用いる。本授業については、それぞれの授業週でひとつのトピックを深く考究するため、90分×2コマ連続で実施する。また、授業終了ごとにコメントペーパーを提出することを求め、履修者の関心を維持する。</p> <p>※リサーチワークとは、本授業内容をもとにして履修者の関心に応じて研究活動を実践することである。</p>				
教科書・参考書				
<p>教科書は指定しない。それぞれの授業で、Lecture Notes を配布する。</p> <p>以下、参考図書を列記する。</p> <p>カール・マンハイム著/鈴木二郎訳 (1968) 『イデオロギーとユートピア』、未来社。</p> <p>ロバート・K・マートン (1961) 『社会理論と社会構造』、みすず書房。</p> <p>ピーター・L・バーガー、トーマス・ルックマン (2003) 『現実の社会的構成——知識社会学論考』、新曜社。</p> <p>ケネス・J・ガーゲン (2020) 『関係からはじまる——社会構成主義がひらく人間観』、ナカニシヤ出版。</p> <p>金森修 (2014) 『新装版 サイエンス・ウォーズ』、東京大学出版会。</p> <p>ミシェル・フーコー (2020) 『言葉と物〈新装版〉——人文科学の考古学』、新潮社。</p> <p>ニクラス・ルーマン (2009) 『社会の科学 1・2』、放送大学出版局。</p>				
評価方法				
<p>以下の観点ごとに評価し、100点満点になるように換算する。60点を超えるものに単位を付与する。</p> <p>1. 授業ごとにコメントを書き提出を求める「コメントペーパー」(35%) 本評価は、とくに到達目標の①と②の到達度を測るためのものである。</p> <p>2. 最終授業回でのディスカッションならびに発表 (65%) 本評価は、とくに到達目標の③の到達度を測るためのものである。</p>				
その他の重要事項				
<p>コンタクトならびにオフィスアワーについて</p> <p>○メールではなく、Microsoft Teams のチャット機能で連絡をすること (相談内容については問わない)。</p> <p>○授業 Team のタブにオフィスアワー予約ページを作成しているので、そちらから予約を取ること (予約優先)。</p>				
2022 年度科目との読替え				
なし。				
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	-	-

授業名称	教育産業と教育事業			科目コード	PEPB1211L
担当教員	廣政 愁一	実施方法	ハイフレックス	単位数	2単位
配当年次	1年次	開講学期	後期	曜日	月A
年間開講数	1回	授業種別	演習	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は履修者が「教育産業」の現状を理解し、「教育事業」の特殊性についての知見を深め、持続的な教育を実践できることである。

到達目標

- ① 履修者が公教育と私教育の社会的な位置付けや教育産業の歴史的展開と社会の変化により実施されてきた具体的な教育事業について体系的に列挙、分類できる。
- ② これまでの歴史を紐解けば教育事業は、採算を度外視した公益性を求められるきらいもあった。しかし、教育も一つの事業であるならば、その事業体で収益性を確保しつつ、公益性に応えなければならない。こうした教育事業特有の事情について、履修者は実務的な視座（ケーススタディ）から持続的な教育事業とはどういうものかを他者に説明できる。
- ③ 履修者が取り組む既存の教育事業をアップデートすることや、新たな教育事業をデザインできる。

授業計画

授業外の学習

授業計画	授業外の学習
第1週 （第1講）オリエンテーション 「教育産業・教育事業は教育が主か否か」 授業の進め方と授業計画の確認を行う。あわせて教育産業・教育事業についての概論を講義する。	事前 シラバスを読み、本授業の期待するところを書き出す(3h)
	事後 コメントペーパーの提出(1h)
第2週 （第2・3講）教育と教育産業の全体と歴史 教育の歴史を振り返り、公益性から徐々に産業へ広がっていく過程を「教育と社会の関係性」から講義する。あわせて、教育産業の政治的背景も見ていく。	事前 課題配布資料を読む(3h)
	事後 コメントペーパーの提出(1h) リサーチワーク(3h)
第3週 （第4・5講）教育ベンチャーの現状（1）——マーケットの限界とその規模 日本においてさまざまな教育ベンチャーが生まれてきているが、成功事例を見ながら、なぜ成功したのかを議論する。マーケティングの成功なのか、事業構造の強さなのか、マネジメントなのか。同様な成功の数々を見ながら共通項を探求する。	事前 課題配布資料を読む(3h)
	事後 コメントペーパーの提出(1h) リサーチワーク(3h)
第4週 （第6・7講）教育事業の変遷（2）——イノベーションから衰退までの過程 前回に続き、ケーススタディを扱って講義する。前回の基本的なイノベーションから衰退までの知識を前提に、さらにハイプサイクルを使ってビジネスとしてどのように対応すべきかを考える。	事前 課題配布資料を読む(3h)
	事後 コメントペーパーの提出（1h） 総括討論に向けた資料探索(1h)
第5週 （第8・9講）教育産業と教育聖域の功罪——教育は保守で	事前 課題配布資料を読む(3h)

	あるべきか革新であるべきか 学校教育をはじめとして教育には特殊性が存在する。その特殊性はどこから生まれ、どのような功罪があるかを言及する。教育の「聖域」の功罪を理解してはじめて教育全体の動きがつかめる。分かりやすい事例を出しながら、現状の教育産業のできる範囲を明解にしていく。	事後	コメントペーパーの提出(1h) 総括討論に向けた資料探索(1h)
第6週	(第10・11講) ICTの力は教育産業のどこへ向かわせるのか 教育現場では一気にICTの風が吹いてきている。しかし、その風はどこから吹いてきて、どんな意図で吹いているのか。社会の要請なのか、政治の要請なのか、それとも教育的観点からなのか。現状のICT教育を点検していく。	事前	課題配布資料を読む(3h) 総括討論に向けた資料探索(2h)
		事後	コメントペーパーの提出(1h) 総括討論に向けた資料作成(2h)
第7週	(第12・13講) 新規教育事業をデザインして革新を起こすことは可能なのか 近年、ITの発達で教育もアイデアさえあれば、事業を興すことが容易になってきた。だからこそ、取るに足らない事業の乱立で教育を混乱させている現状もある。そんな教育の混沌のなかで、王道を走る革新に迫る事業を創造する可能性を考える。	事前	課題配布資料を読む(3h) 総括討論に向けた資料作成(3h)
		事後	コメントペーパーの提出(1h) 総括討論に向けた資料作成(3h)
第8週	(第14・15講) 総括討論 これまでの授業をまとめるとともに、履修生に対して現代社会における民間教育の役割とは何かを考え、新規ビジネスを提案する。	事前	総括討論に向けた資料作成(10h)
		事後	コメントペーパーの提出(1h) リサーチワーク(3h)
授業の進め方と方法			
<p>上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義法とグループワーク法を用いる。本講義については、それぞれの授業週でひとつのトピックを深く探求するため、90分×2コマ連続で実施する。</p> <p>また、授業終了ごとにコメントペーパーを提出することを求め、履修者の関心を維持する。</p> <p>※リサーチワークとは、本授業内容をもとにして履修者の関心に応じて研究活動を実践することである。</p>			
教科書・参考書			
<p>教科書は指定しない。それぞれの授業で資料を配布する。</p> <p>以下、参考図書を列記する。</p> <p>教育政策2020研究会(2016)「公教育の市場化・産業を超えて」八月書館</p> <p>嶺井正也・中村文夫(2014)「市場化する学校」八月書館</p> <p>梅野悟(2002)「世界教育史」新評論</p> <p>川上清市(2021)「教育ビジネスの動向とカラクリがよくわかる本」秀和システム</p>			
評価方法			
<p>以下の観点ごとに評価し、100点満点になるように換算する。</p> <p>60点を超えるものに単位を付与する。</p> <p>1. 授業ごとにコメントを書き提出を求める「コメントペーパー」(35%)</p>			

本評価は、とくに到達目標の①と②の到達度を測るためのものである。

2. 最終授業回でのディスカッションならびに発表（65%）

本評価は、とくに到達目標の③の到達度を測るためのものである。

その他の重要事項

Teams のチャット機能で連絡をすること。相談内容は問わない。

2022 年度科目との読替え

なし。

	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	—	—	○	—

授業名称	教育サービスの現状と未来			科目コード	PEPB1212L
担当教員	中川 哲	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	前期	曜日	火 A
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、日本の行政や団体等が意図的計画的に行う学校教育と、教育産業が提供する教育や教材、サービスの全貌を捉え、教育サービスの各カテゴリの現状を把握し、教育サービスの全体像についての知識を身に付ける。

授業では、学校教育と学校教育を補完する教材や各種サービス、学校外教育について、それぞれの現状と問題を分析し、今後の在り方について検討する。受講者は、各種のプログラムを把握し、教育産業の未来について提案できる基盤を築くことを目指す。この講義は、将来、教育行政や教育業界に参入する企業のコンサルタントやアドバイザーをめざす授業者にとって、そのキャリアを形成する上で不可欠な知識を提供する。

到達目標

- 履修者が、教育サービスの現状について網羅的に説明することができる。
- 履修者が、現状の教育サービスの課題について説明することができる。
- 履修者が、時代の変化に対応して、今後求められる教育サービスについて自らの考えを述べるようになる。

授業計画

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) オリエンテーション (本授業の目的・到達点・授業の進め方、教育サービスの全体像把握)	事前	シラバスの精読 (1h) 到達目標についての自己設定 (2h)
		事後	リフレクション(2h)
第 2 週	(第 2・3 講) : わが国の学校教育と社会教育の変遷 キーワード: 総合教育政策、施策の柱、施策、事業	事前	本週の内容に関する学習 (2h) 発表準備(4h)
		事後	リフレクション(2h)
第 3 週	(第 4・5 講) : 初等中等教育における GIGA スクール構想 キーワード: SMAR モデル、個別最適・協働的な学び	事前	本週の内容に関する学習 (2h) 発表準備(4h)
		事後	リフレクション(2h)
第 4 週	(第 6・7 講) : 教育データ利活用 キーワード: スキル、コンピテンシー、可視化	事前	本週の内容に関する学習 (2h) 発表準備(4h)
		事後	リフレクション(2h)
第 5 週	(第 8・9 講) : AI の理解と教育利用 キーワード: 生成 AI	事前	本週の内容に関する学習 (2h) 発表準備(4h)
		事後	リフレクション(2h)
第 6 週	(第 10・11 講) : 特色ある学校とサービス キーワード: 通信制学校、コミュニティスクール、MOOC	事前	本週の内容に関する学習 (2h) 発表準備(4h)
		事後	リフレクション(2h)
第 7 週	(第 12・13 講) : 人材育成と人的資本主義 キーワード: リスキリング、ジョブ型雇用、オープンバッジ	事前	本週の内容に関する学習 (2h) 発表準備(4h)
		事後	リフレクション(2h)
第 8 週	(第 14・15 講) 課題の発表と全体ディスカッション・講評～	事前	発表準備(5h)

	授業総括	事後	リフレクション(2h)	
授業の進め方と方法				
<p>上記目的・到達目標を達成するため、本授業は授業範囲の内容を各自が事前学習することが求められる。また、第2～7週の授業では、受講者が持ち回りで授業範囲について発表を行い、全参加者でディスカッションを行う。また、各自、授業についてのリフレクションを行い、授業終了後に提出する。</p> <p>第8週の授業では、第7週までに学んだ内容をもとに課題設定と考察を行い、まとめ発表を行うものとする。なお、各会の講義内容については、受講者の既有知識や社会の情勢変化に対応して変更することがある。</p>				
教科書・参考書				
<p>教科書は使用しない。</p> <p>参考書として、「月刊先端教育」(2022年3月号)学校法人先端教育機構 ほか参考となる行政文書や書籍等については、毎回の授業で適宜提示する。</p>				
評価方法				
<ul style="list-style-type: none"> ・第2週～7週の授業での発表資料準備とその資料を用いた発表 (25%) ・第2週～7週の授業でのディスカッションへ参加や発言内容などの貢献度 (25%) ・第2週～7週の授業終了後のリフレクション (25%) ・第8週の授業での発表内容 (25%) 				
その他の重要事項				
<p>遅刻や欠席をする場合は、学内のLMS(学習管理システム)などを通じて事前に連絡すること。</p> <p>担当教員のオフィスアワーおよび予約方法については、初回の授業で説明する。</p>				
2022年度科目との読替え				
なし。				
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	—	—	○	—

授業名称	生涯学習の理論と発展			科目コード	PEPB1214L
担当教員	川山 竜二	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	1・2 年次	開講学期	前期	曜日	金 A
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、我が国における生涯学習及び社会教育の本質について理解を深めることである。そのために本授業では、生涯学習ならびに社会教育にかかわる理念・政策・制度及び理論のみならず、それらを取りまく社会や指導者の問題について探究する。

これまでの生涯学習や社会教育に関する研究から、いかに現代社会に求められる生涯学習・社会教育へのイノベーションを起こすことができるのかを履修者とともに検討していきたい。

本授業は、「社会教育主事講習等規程（昭和二六年文部省令第一二号）」にある「生涯学習概論」の授業に相当以上の科目である。

到達目標

- ① 履修者がこれまでの生涯学習研究ならびに社会教育研究の知見を踏まえて、生涯学習・社会教育の定義や社会における位置づけを生涯学習論等の基本理論から説明することができる。
- ② 履修者が生涯学習・社会教育を先導する指導者としての役割を理解し、実践することができる。
- ③ 履修者が社会構造の変化に伴い、適切な生涯学習・社会教育を構想し自身の考えを述べることができる。

授業計画

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) イントロダクション 学習のなかの生涯学習・社会教育の布置	事前	シラバスを読み、参考文献リストを見て本授業の見取り図を描く (3h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h)
第 2 週	(第 2 講) 生涯学習論 (第 3 講) 社会教育論	事前	事前配布資料を読む (3h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)
第 3 週	(第 4 講) 生涯学習をとりまく法令と制度 (第 5 講) 社会教育をとりまく法令と制度	事前	事前配布資料を読む (3h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)
第 4 週	(第 6 講) 生涯学習・社会教育の指導者は誰か (第 7 講) 社会教育主事・社会教育士とは何か	事前	事前配布資料を読む (3h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 最終課題に向けた資料探索 (1h)
第 5 週	(第 8 講) 生涯学習・社会教育の理論 (第 9 講) 生涯学習・社会教育の学習計画立案論	事前	事前配布資料を読む (3h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 最終課題に向けた資料探索 (1h)
第 6 週	(第 10 講) リカレント教育・リスクリング・学び直し 1 (第 11 講) リカレント教育・リスクリング・学び直し 2	事前	事前配布資料を読む (3h) 最終課題に向けた資料探索 (2h)
		事後	最終課題に向けた資料作成 (2h) コメントペーパーの提出 (1h)
第 7 週	(第 12 講) 社会変動と生涯学習・社会教育 (第 13 講) 生涯学習社会論・学習社会論	事前	事前配布資料を読む (3h) 最終課題に向けた資料作成 (3h)
		事後	最終課題に向けた資料作成 (3h) コメントペーパーの提出 (1h)

第 8 週	(第 14 講) 生涯学習社会の展開	事前	最終課題に向けた資料作成 (10h)		
	(第 15 講) 生涯学習の課題とイノベーション	事後	コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)		
授業の進め方と方法					
<p>上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義法とグループワーク法ならびにペアワーク法を用いる。本授業については、それぞれの授業週でひとつのトピックを深く考究するため、90分×2コマ連続で実施する。また、授業終了ごとにコメントペーパーを提出することを求め、履修者の関心を維持する。</p> <p>※リサーチワークとは、本授業内容をもとにして履修者の関心に応じて研究活動を実践することである。</p>					
教科書・参考書					
<p>教科書は指定しない。</p> <p>以下に、参考図書を列举する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生涯学習・社会教育行政研究会 編集 (2023) 『令和 6 年度版 生涯学習・社会教育行政必携』 第一法規。 市川昭午・潮木守一 編者 (1979) 『教育学講座 21 学習社会への道』 学習研究社。 ガート・ピースタ (2014) 『民主主義を学習する——教育・生涯学習・シティズンシップ』 勁草書房。 出相泰裕 編著 (2023) 『学び直しとリカレント教育』 ミネルヴァ書房。 香川正弘・鈴木眞理・永井健夫 編 (2016) 『よくわかる生涯学習 改訂版』 ミネルヴァ書房。 赤尾勝己 編 (2004) 『生涯学習理論を学ぶ人のために』 世界思想社。 					
評価方法					
<p>以下の観点ごとに評価し、100 点満点になるように換算する。60 点を超えるものに単位を付与する。</p> <p>1. 授業ごとにコメントを書き提出を求める「コメントペーパー」(35%) 本評価は、とくに到達目標の①と②の到達度を測るためのものである。</p> <p>2. 最終課題 (65%) 本評価は、とくに到達目標の③の到達度を測るためのものである。</p>					
その他の重要事項					
<p>本授業科目は、「社会教育主事養成講習」科目である。</p> <p>詳細のシラバスや参考情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ❖基本的には、本学の LMS (Microsoft Teams) に掲載するので参照すること。 ❖授業担当者の Web サイトに、授業科目などに関する情報を掲載する。 <p>コンタクトならびにオフィスアワー</p> <ul style="list-style-type: none"> ❖メールではなく、Microsoft Teams のチャット機能で連絡すること。[@r.kawayama] ❖授業 Team のタブにオフィスアワー予約ページを作成するので、そちらから予約を取ること。 					
2023 年度科目との読替え					
なし					
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④	
	○	○	—	—	

授業名称	生涯学習支援論			科目コード	PEPB1215L
担当教員	川山 竜二	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	1・2 年次	開講学期	後期	曜日	火 B
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、学習者の多様な特性に応じた学習支援に関する知識及び技能の習得を図ることである。そのため本授業では、学習者を取りまく社会環境の理解や学習者の特性を分析——とりわけ、社会人並びに高齢者に関する支援を検討する——、また学習内容や学習環境の改善についても探究する。

生涯学習は、一般には人々が生涯に行うあらゆる学習という意味で用いられることから、教育基本法第3条に定められている「自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現」に資する支援とは何かを本授業では検討する。

本授業は、「社会教育主事講習等規程（昭和二六年文部省令第一二号）」にある「生涯学習支援論」の授業に相当以上の科目である。

到達目標

- ① 履修者が生涯学習支援の定義や生涯学習の種類など、生涯学習支援に関する基本的知識について説明することができる。
- ② 履修者が生涯学習支援のための有効な学習プログラムの計画、あるいは学習環境改善の計画を作成することができる。
- ③ 履修者が生涯学習支援の現状を分析し、課題解決策について具体的に述べるすることができる。

授業計画

授業計画		授業外の学習	
第1週	(第1講) イントロダクション	事前	シラバスを読み、参考文献リストを見て本授業の見取り図を描く (3h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h)
第2週	(第2講) 知識基盤社会と学習組織論 (第3講) 学習者支援論	事前	事前配布資料を読む (3h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)
第3週	(第4講) 学習者理解1——生涯発達論 (第5講) 学習者理解2——学習ニーズ論	事前	事前配布資料を読む (3h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)
第4週	(第6講) 成人学習論1——学習支援者の教育学 (第7講) 成人学習論2——成人の特性	事前	事前配布資料を読む (3h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 最終課題に向けた資料探索 (1h)
第5週	(第8講) 教育老年学1——教育老年学とは/教育老年学理論 (第9講) 教育老年学2——高齢社会の学習	事前	事前配布資料を読む (3h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 最終課題に向けた資料探索 (1h)
第6週	(第10講) 学習内容編成論1——学習内容編成と学習課題 (第11講) 学習内容編成論2——学習プログラム開発論	事前	事前配布資料を読む (3h) 最終課題に向けた資料探索 (2h)
		事後	最終課題に向けた資料作成 (2h) コメントペーパーの提出 (1h)

第7週	(第12講) テクノロジー変化と学習	事前	事前配布資料を読む(3h) 最終課題に向けた資料作成(3h)	
	(第13講) ネットワークのなかの学習	事後	最終課題に向けた資料作成(3h) コメントペーパーの提出(1h)	
第8週	(第14講) ナラティブと暗黙知・身体知	事前	最終課題に向けた資料作成(10h)	
	(第15講) イノベーティブな学習環境の形成	事後	コメントペーパーの提出(1h) リサーチワーク(3h)	
授業の進め方と方法				
<p>上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義法とグループワーク法ならびにペアワーク法を用いる。本授業については、それぞれの授業週でひとつのトピックを深く考究するため、90分×2コマ連続で実施する。また、授業終了ごとにコメントペーパーを提出することを求め、履修者の関心を維持する。</p> <p>※リサーチワークとは、本授業内容をもとにして履修者の関心に応じて研究活動を実践することである。</p>				
教科書・参考書				
<p>教科書は指定しない。</p> <p>以下、参考図書を列記する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生涯学習・社会教育行政研究会 編集(2023)『令和6年度版 生涯学習・社会教育行政必携』第一法規。 堀薫夫(2022)『教育老年学』放送大学教育振興会。 渡邊洋子(2002)『生涯学習時代の成人教育学——学習者支援へのアドボカシー』明石書店。 清國祐二(2020)『生涯学習支援論』ぎょうせい。 香川正弘・鈴木眞理・永井健夫 編(2016)『よくわかる生涯学習 改訂版』ミネルヴァ書房。 				
評価方法				
<p>以下の観点ごとに評価し、100点満点になるように換算する。60点を超えるものに単位を付与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 授業ごとにコメントを書き提出を求める「コメントペーパー」(35%) 本評価は、とくに到達目標の①と②の到達度を測るためのものである。 最終課題(65%) 本評価は、とくに到達目標の③の到達度を測るためのものである。 				
その他の重要事項				
<p>本授業科目は、「社会教育主事養成講習」科目である。</p> <p>詳細のシラバスや参考情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ❖基本的には、本学のLMS(Microsoft Teams)に掲載するので参照すること。 ❖授業担当者のWebサイトに、授業科目などに関する情報を掲載する。 <p>コンタクトならびにオフィスアワー</p> <ul style="list-style-type: none"> ❖メールではなく、Microsoft Teamsのチャット機能で連絡すること。[@r.kawayama] ❖授業Teamのタブにオフィスアワー予約ページを作成するので、そちらから予約を取ること。 				
2022年度科目との読替え				
事務局記入				
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	—	—

授業名称	産業社会学			科目コード	PEPB2202L
担当教員	富井 久義	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	前期	曜日	火 A
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、現代社会の産業構造の変化と、その変化への企業や労働者の対応を、産業・労働社会学と関連する理論に基づいて明らかにすることをつうじて、履修者が取り組む教育・人材育成・教育事業が産業社会においてどのような位置づけを有するのかを検討することにある。

現代社会において求められる教育や人材育成、社会構想のありかたを考え、対象となる人びとの行動変容を効果的にうながすためには、人びとの活躍の場となる産業社会のありかたを理解することや、産業社会を生きる人びとの置かれる状況や主観的意味世界を理解することが大きなヒントとなる。

そこで本授業では、産業や労働に関連する多様なテーマについて、産業・労働社会学と関連する理論的視座から分析を加えることで、現代の産業社会についての理解を深めることをめざす。

到達目標

- ① 現代の産業社会の主要な特徴を理解し、説明することができる。
- ② みずから手がける教育や人材育成の位置づけを、産業・労働社会学の概念をもちいて説明することができる。
- ③ みずから手がける教育や人材育成にかんする取り組みについて、その意義を、企業・労働者・社会それぞれの立場から説明することができる。

授業計画

授業外の学習

授業計画	授業外の学習
第 1 週 (第 1 講) 産業社会学とはなにか (イントロダクション) ——産業社会学、労働社会学	事前 シラバスを読み課題や評価方法等についての疑問点をまとめる (1h)
	事後 コメントペーパー記入、授業内容の復習、予習・復習スケジュールの割当検討 (4h)
第 2 週 (第 2・3 講) 産業構造の変化と社会変動論 ——産業構造の変動、社会変動論、脱産業社会論	事前 フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h)
	事後 コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h)
第 3 週 (第 4・5 講) 技術革新と仕事・職場の変化 ——技術革新、疎外された労働、ブルシット・ジョブ	事前 フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h)
	事後 コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h)
第 4 週 (第 6・7 講) 雇用・処遇システム ——職業分類、ジョブ型雇用、日本型雇用システム	事前 フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h)
	事後 コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h)
第 5 週 (第 8・9 講) 能力開発とキャリア ——新規学卒採用、職業能力開発、キャリア	事前 フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h)
	事後 コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h)
第 6 週 (第 10・11 講) 労使関係と企業コミュニティ ——労使関係、労働組合、企業コミュニティ	事前 フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h)
	事後 コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h)

第7週	(第12・13講) 雇用の流動化と働きかたの多様化 ——雇用の柔軟性、非典型雇用、多様な働きかた	事前	フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h)
		事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h)
第8週	(第14・15講) 労働力移動と離職・転職・失業 ——労働力移動、離職・転職・失業、雇用のミスマッチ	事前	フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h)
		事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習、最終レポート課題への取り組み・執筆、最終レポート課題相互レビュー (16h)

授業の進め方と方法

本授業は、第2週目以降、2講連続で実施する。毎週の授業は概ね、前回のふりかえり、授業のねらいの確認、講義（話題提供）、ディスカッション（演習課題）で構成される。教員が用意するスライド資料に沿って進行する。質問は随時、発言またはチャットで受け付ける。ディスカッションは、毎週のテーマに関連する主題について、グループで検討して全体発表をする方法か、各自コメントペーパーに記入して教員が次週に紹介する方法をとる。毎週の授業終了時には、授業で学んだこと、意見・質問・感想、演習課題への貢献を記すコメントペーパーの提出を求める。コメントペーパーには教員からフィードバックのコメントを返す。このうち重要なものについては、次週の授業冒頭のふりかえりの際に紹介する。

このほか、自身の研究課題について産業社会学の観点から考察することを求める最終レポート課題を課す。なお、最終レポート課題は提出期限後、履修者が相互に閲覧可能な期間を設ける。

教科書・参考書

【教科書】 指定しない

【参考書】

- 松永伸太郎・園田薫・中川宗人編，2022，『21世紀の産業・労働社会学』ナカニシヤ出版。
- 小川慎一ほか，2015，『「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』有斐閣。
- 佐藤博樹・佐藤厚編，2012，『仕事の社会学 [改訂版]』有斐閣。
- 上林千恵子編，2012，『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| ● コメントペーパーの内容 | 30% |
| ● ディスカッションへの貢献 | 30% |
| ● 最終レポート課題の内容 | 40% |

その他の重要事項

担当教員のオフィスアワーおよび授業時間外での相談方法については、第1週の授業で説明する。

2022年度科目との読替え

なし。

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	-	-

授業名称	認知学習論			科目コード	PEPB2206L
担当教員	石崎 友規	実施方法	一部オンライン	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	後期	曜日	金 A
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、履修者が人間の認知メカニズムについての理解を基礎として、知識や技能の効果的な習得のためにいかなる手段が求められるか、さらに、そうした手段に適応する形での実践知の体系化はどのように可能か、といった事柄について構想する能力を身につけることにある。本授業では、教育機関におけるフォーマルな学習のみならず、あらゆる知識や技能を身につける過程の総体たる「学習」について、教授-学習論研究の知見に基づき多種多様な場面における認知メカニズムを検討することにより、現代社会における適切な学習のあり方を検討する。

到達目標

- ① 履修者が、人間の認知メカニズムの基礎について説明することができるようになる。
- ③ 履修者が、認知学習論とその周辺領域について説明することができるようになる。
- ④ 履修者が、実際に成立する多様な学習について認知学習論の視点から分析することができるようになる。

授業計画

授業外の学習

授業計画	授業外の学習
第 1 週 (第 1 講) オリエンテーション 本授業全体の授業計画を共有するとともに、「学習」の意味や本授業が扱う範囲・立場について理解する。	事前 シラバスの精読 (0.5h)
	事後 授業内容の再整理 (1h) 紹介された参考書の概観 (2h) ミニットペーパーの提出 (1h)
第 2 週 (第 2 講) 認知と思考 「認知」と「思考」の関係や「認知科学」の研究が生まれた背景を理解する。関連して、人工知能による学習の概要をつかむ。 (第 3 講) 受講者による「学習」の省察 ディスカッションを通して、自身の「学習」をとらえなおす。	事前 授業資料の確認 (1.5h)
	事後 ディスカッションの復習 (2h) 授業内容の再整理 (2h) ミニットペーパーの提出 (1h)
第 3 週 (第 4・5 講) 学びの諸理論と認知学習論の関係 古典的な学習論から現代的な学習論に至るまでの様々な理論を概観し、「学習」を再定義する。	事前 授業資料の確認 (1.5h)
	事後 授業内容の再整理 (3h) ミニットペーパーの提出 (1h)
第 4 週 (第 6・7 講) 概念学習のプロセス 「概念」の定義を整理するとともに、典型的な誤概念とその特徴、概念学習のとらえ方について理解する。	事前 授業資料の確認 (1.5h)
	事後 授業内容の再整理 (3h) ミニットペーパーの提出 (1h)
第 5 週 (第 8 講) 概念学習プログラムの作成演習 第 4 週までの内容をもとに学習プログラム案を作成してディスカッションを行い、学習論の理解を深める。 (第 9 講) 熟達化のプロセス (1) 熟達者は何を獲得しているか 熟達者は何をどのように見ているのか、それをどのように身に付けていくのかを理解する。	事前 ディスカッションの準備 (2h) 授業資料の確認 (1.5h)
	事後 ディスカッションの復習 (1h) 授業内容の再整理 (2h) ミニットペーパーの提出 (1h)

第6週	(第10講) 熟達化のプロセス (2) 認知的徒弟制 認知的徒弟制の枠組みとその各項目の要点について理解する。	事前	授業資料の確認 (1.5h)		
	(第11講) ことばの学習 母国語学習と外国語学習の特徴とその違いを取り上げ、認知学習の具体像をつかむ。	事後	授業内容の再整理 (3h) ミニットペーパーの提出 (1h)		
第7週	(第12・13講) 認知学習論からみたりカレント教育 社会人の認知学習として、メタ認知学習論を手掛かりに、受講者自身の学習を例にその特性や体系化について議論する。	事前	授業資料の確認 (1.5h)		
		事後	ディスカッションの復習 (1h) 授業内容の再整理 (2h) ミニットペーパーの提出 (1h)		
第8週	(第14・15講) 人は何を学ばよいか 自己調整学習論を概観するとともに、本授業全体を振り返り、現代的な学習のあり方について総合的な議論を行う。	事前	授業資料の確認 (1.5h)		
		事後	授業内容の再整理 (2h) ミニットペーパーの提出 (1h) 最終レポート課題 (15h)		
授業の進め方と方法					
<p>本授業は、第2週目以降、90分×2コマ連続の隔週で実施する。</p> <p>上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義とディスカッションを中心に進行し、テーマに応じてグループワーク等を取り入れる。また、履修者による学習の振り返りを重視し、毎回のミニットペーパーでの感想や質問等を次回の授業冒頭で取り上げ、教員からコメントする。</p>					
教科書・参考書					
<p>教科書は指定しない。</p> <p>参考書：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今井むつみ・野島久雄・岡田浩之 (2012) 『新・人が学ぶということ：認知学習論の視点から』, 北樹出版 ・日本認知科学会監修 (2016～) 「認知科学のススメ」シリーズ, 新曜社 ・大島純・千代西尾祐司編 (2019) 『学習科学ガイドブック』, 北大路書房 <p>その他の参考文献については、各回の授業の中で提示する。</p>					
評価方法					
<ul style="list-style-type: none"> ・ミニットペーパーの内容 (30%) ・ディスカッションへの貢献度 (20%) ※やむを得ずリアルタイムで出席できない場合は代替課題を課す。 ・最終レポート課題 (50%) 					
その他の重要事項					
<p>オフィスアワーおよび予約方法については、初回の授業で説明する。毎回の授業に対する質問は基本的にはミニットペーパーに記入することとなるが、個別の質問や相談等がある場合には初回の授業で説明する方法にて対応する。本授業は、第1～6週をハイフレックス、第7～8週をオンラインで実施する。</p>					
2022年度科目との読替え					
なし。					
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④	
	—	○	○	—	

授業名称	省察的实践			科目コード	PEPC1301S
担当教員	齋藤 崇徳	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	後期	曜日	土 A (1・2 限)
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、ドナルド・A・ショーンの『省察的实践とは何か』を輪読と討論を通じて理解することを通じて、その中心的概念である「行為の中の省察」を理論的にも実践的にも身につけることにある。「省察的实践」は教育分野のみならず、幅広い分野・職業で受容され、多数の実践や研究が行われてきた。『省察的实践とは何か』の理解を通じて、各履修者の職業人としてのあり方について再考する契機を育むとともに、その限界や応用する際の課題について検討する。

到達目標

- ① 履修者が『省察的实践とは何か』の内容、とくに「行為の中の省察」の内容や意義を理解した上で論理的に言語化・体系化し、他者に説明することができる。
- ② 履修者が『省察的实践とは何か』の専門職論等の分野における位置づけ、実践・調査上の応用の方法、およびその限界を理解し他者に説明することができる。
- ③ 履修者が自ら携わる実務や組織、産業の領域にそって「省察的实践」を行うための方法や態度、その将来像についての考え方を身につけることができる。

授業計画

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) ガイダンス・講義: 本授業の進め方と方法、なぜ『省察的实践とは何か』が重要であるのかの説明	事前	授業資料、シラバス、教科書・参考書の確認 (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (0.5h) ガイダンス・講義の復習 (2h)
第 2 週	(第 2 講) 輪読・討論: 1 章: 専門的知識に対する信頼の危機 (第 3 講) 輪読・討論: 2 章: 技術的合理性から行為の中の省察へ	事前	文献の読解 (2h) 討論準備 (1h)
		事後	コメントペーパーの提出 (0.5h) 討論の復習 (1.5h)
第 3 週	(第 4 講) 輪読・討論: 3 章: 状況との省察的な対話としての建築デザイン (第 5 講) 輪読・討論: 4 章: 精神療法	事前	文献の読解 (2h) 討論準備 (1h)
		事後	コメントペーパーの提出 (0.5h) 討論の復習 (1.5h)
第 4 週	(第 6 講) 輪読・討論: 5 章: 行為の中の省察の構造 (第 7 講) 輪読・討論: 6 章: 科学に基礎を置く専門的職業の省察的实践	事前	文献読解 (2h) 討論準備 (1h)
		事後	コメントペーパーの提出 (0.5h) 討論の復習 (1.5h)
第 5 週	(第 8 講) 輪読・討論: 7 章: 都市計画 (第 9 講) 輪読・討論: 8 章: マネジメントの〈わざ〉	事前	文献の読解 (2h) 討論準備 (1h)
		事後	コメントペーパーの提出 (0.5h) 討論の復習 (1.5h)
第 6 週	(第 10 講) 輪読・討論: 9 章: 行為の中の省察の類型と制約 (第 11 講) 輪読・討論: 10 章: 専門的職業の意味と社会における位置づけ	事前	文献の読解 (2h) 討論準備 (1h)
		事後	コメントペーパーの提出 (0.5h) 討論の復習 (1.5h)
第 7 週	(第 12 講) 輪読・討論: 『省察的实践者の教育—プロフェッション	事前	文献の読解 (2h) 討論準備 (1h)

	ヨナル・スクールの実践と理論』(部分) (第13講) 輪読・討論:『わかりやすい省察的实践—実践・学 び・研究をつなぐために』(部分)	事後	コメントペーパーの提出 (0.5h) 討論の復習 (1.5h)	
第8週	(第14講) 省察に関する個人発表①・討論 (第15講) 省察に関する個人発表②・討論	事前	発表準備 (11h) 討論準備 (1h)	
		事後	コメントペーパーの提出 (0.5h) 討論の復習 (1.5h) 学期末レポート課題 (11h)	
授業の進め方と方法				
<p>上記目的・到達目標を達成するため、本授業はまず『省察的实践とは何か』の輪読および討論を1章ずつ行う。そして、『省察的实践とは何か』を理解する上で役立つ文献についても輪読および討論を行う。輪読に際しては適宜解説を各講の冒頭で行う。各講においては、コメントペーパーを作成することにより文献の理解を深め、最後に個人発表およびレポートの提出を行うことで、履修者それぞれ携わる職業についての省察を深める。</p>				
教科書・参考書				
<p>教科書: ドナルド・A・ショーン, 柳沢昌一・三輪建二監訳 (2007)『省察的实践とは何か—プロフェッショナルの行為と思考』, 鳳書房.</p> <p>参考書: ドナルド・A・ショーン, 柳沢昌一・村田晶子監訳 (2017)『省察的实践者の教育—プロフェッショナル・スクールの実践と理論』, 鳳書房.</p> <p>三品陽平 (2017)『省察的实践は教育組織を変革するか』, ミネルヴァ書房.</p> <p>三輪建二 (2023)『わかりやすい省察的实践—実践・学び・研究をつなぐために』, 医学書院.</p>				
評価方法				
<p>① 討論への貢献・コメントペーパーの提出 (30%)</p> <p>② 輪読における発表 (30%)</p> <p>③ 個人発表 (20%)</p> <p>④ レポートの提出 (20%)</p>				
その他の重要事項				
<p>担当教員のオフィスアワーおよび予約の方法については、初回の授業で説明する。具体的な輪読の進め方・方法については、第1講において履修者数等を確認し、履修者と相談の上、決定する。</p>				
2022年度科目との読替え				
なし。				
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	-	-

授業名称	学習する組織			科目コード	PEPC1305S
担当教員	田原 祐子	実施方法	オンライン	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	後期	曜日	月 A
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、履修者が「学習する組織」に関する理論を学ぶとともに、「学習する組織」を形成するためにどのような視点や方法が必要かを理解し、自らが組織を変革するための知見を身につけることである。

上記目的を達成するため、本授業では、ピーター・M、センゲによるオリジナルの議論を端緒として、計6冊の課題図書を読み、組織のレジリエンスを育むために必要な、「学習する組織」に関連する理論を理解し、学習する組織の根幹をなす概念たるシステム思考について実践的に学修する。また、「学習する組織」を形成するために必要とされる、心理的安全性などの環境整備についての知識や、理論的素地を養うとともに、さまざまな組織に散在する課題を理解・分析・解決する方法を検討していく。

到達目標

- ① 履修者が、「学習する組織」に関連する理論や視点を説明できるようになる。
- ② 履修者が、所属する組織を「学習する組織」へと発展させるために何が必要かを理解し、実践および、課題解決のための思考法を身につけることができる。
- ③ 履修者が、修得した理論や視点をもとに、「学習する組織」について説得的に分析できるようになる。

授業計画

授業計画		授業外の学習	
第1週	(第1講) ガイダンス:「学習する組織」が必要とされる背景	事前	シラバスの精読 (0.5h) 授業での質問事項の検討 (0.5h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 講義・ディスカッションの復習 (2h)
第2週	(第2講) 「学習する組織」5つのディシプリン: システム思考、自己マスタリー、メンタル・モデル、共有ビジョン、チーム学習の理解 (第3講) 5つのディシプリンによって解決できる組織の課題 課題図書: ピーター・センゲ (2011) 『学習する組織—システム思考で未来を創造する』, 英治出版.	事前	授業資料の確認 (1.5h) ディスカッションの準備 (1h) 参考図書の読み込み (1.5h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 講義・ディスカッションの復習 (2h)
第3週	(第4講) システム思考: システム思考の概要、原因と結果、ループ図、時系列、パターン、レバレッジ・ポイントの理解 (第5講) システム思考によって解決できる組織の課題 課題図書: 枝廣淳子、小田理一郎 (2007) 『なぜあの人の解決策はいつもうまくいくのか?』, 東洋経済新報社.	事前	授業資料の確認 (1.5h) ディスカッションの準備 (1h) 参考図書の読み込み (1.5h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 講義・ディスカッションの復習 (2h)
第4週	(第6講) 変革リーダーシップ: 変わらない理由、免役システム (不安管理システム)、チェンジマネジメントの理解 (第7講) 変革リーダーシップによって解決できる組織の課題 課題図書: ロバート・キーガン他 (2013) 『なぜ人と組織は変わらないのか—ハーバード流自己変革の理論と実践』, 英治出版.	事前	授業資料の確認 (1.5h) ディスカッションの準備 (1h) 参考図書の読み込み (1.5h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 講義・ディスカッションの復習 (2h)

第5週	<p>(第8講) コミュニティによる実践学習：実践共同体、コミュニティ形成、実践学習、経験学習、実践知、集合知、ナレッジマネジメントの理解</p> <p>(第9講) コミュニティによる実践学習によって解決できる組織の課題</p> <p>課題図書：エティエンヌ・ウェンガー他著(2002)『コミュニティ・オブ・プラクティス—ナレッジ社会の新たな知識形態の実践』,翔泳社.</p>	事前	授業資料の確認(1.5h) ディスカッションの準備(1h) 参考図書の読み込み(1.5h)
		事後	ミニットペーパーの提出(1h) 講義・ディスカッションの復習(2h)
第6週	<p>(第10講) 対話(ダイアログ)とエンゲージメント：ダイアログの本質とオープンコミュニケーションの理解</p> <p>(第11講) 対話とエンゲージメントによって解決できる組織の課題</p> <p>課題図書：デビッド・ボーム(2007)『ダイアログ 対立から共生へ 議論から対話へ』,英治出版.</p>	事前	授業資料の確認(1.5h) ディスカッションの準備(1h) 参考図書の読み込み(1.5h)
		事後	ミニットペーパーの提出(1h) 講義・ディスカッションの復習(2h)
第7週	<p>(第12講) 学習力と実行力を高める組織学習：チームング、心理的安全性、失敗からの学習アプローチの理解</p> <p>(第13講) 組織学習によって解決できる組織の課題、最終発表の計画立案・準備</p> <p>課題図書：エイミー・C・エドモンドソン(2014)『チームが機能するとはどういうことか—「学習力」と「実行力」を高める実践アプローチ』,英治出版.</p>	事前	授業資料の確認(1.5h) ディスカッションの準備(1h) 参考図書の読み込み(1.5h)
		事後	ミニットペーパーの提出(1h) 講義・ディスカッションの復習(2h) 最終発表の計画立案(5h)
第8週	<p>(第14講)(第15講) 発表~プレゼンテーション：これまで学修した内容を活用し、履修者が所属する組織を題材とした組織課題の解決、および、「学習する組織」実現のためのアプローチ、講評と総合ディスカッション</p>	事前	最終発表の準備(2h)
		事後	ミニットペーパーの提出(1h) 講義・ディスカッションの復習(1h) 最終発表フィードバックの復習(1h) 最終レポート課題(4h)
授業の進め方と方法			
<p>上記目的・到達目標を達成するため、本授業は、毎回一冊の課題図書を通読してくることを求め、課題図書で議論されている内容をもとに、講義と発表、ディスカッション、グループワークを中心に進行する。</p> <p>また、履修者は、学んだ内容が自らの実務とどう関係する、どのように役立つ可能性があるか、といった事柄についてミニットペーパーに記入し、毎回の授業後の課題として提出する。</p>			
教科書・参考書			
教科書は指定しない。課題図書以外の参考書は、授業中に紹介する。			
評価方法			
<p>① ミニットペーパーの提出(15%)：毎回の授業後、履修者の意見と、そう考える理由を記す。</p> <p>② 発表・ディスカッション・グループワークへの貢献度(35%)</p> <p>③ 最終プレゼンテーション(30%)</p> <p>④ 最終レポート課題(800字)(20%)</p>			

その他の重要事項

遅刻や欠席をする場合は、学内の LMS（学習管理システム）またはメール等を通じて事前に連絡すること。
本授業に関する疑問点や不明点については、担当教員まで問合せること。

2022 年度科目との読替え

なし

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	-	○	-

授業名称	実践と理論の融合			科目コード	PEPC2302S
担当教員	川山 竜二	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	2 年次	開講学期	前期	曜日	水 A
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、専門職大学院などの制度目的にも謳われている「理論と実践の融合」について理解し、それぞれの履修者が「理論と実践の融合」について自分なりの見解をもち、実践の場において提言ができるようになることである。とくに本授業では、実践と理論をつなぐ新たな理論枠組みである「実践の理論」の確立にむけて、「理論」や「実践」を説明するための諸概念の検討をおこなう。そのうえで履修者のそれぞれの問題関心から「実践の理論化」と「理論の実践化」の往還ができるようにトピックにもとづいた考究をおこなう。

到達目標

- ① 履修者が実践と理論を捉えるための概念やモデルを理解し、自らの言葉で実践を論理的に説明することができる。
- ② 履修者が「理論」と呼ばれるものの構造や機能を理解し、理論と呼ばれるものの射程と限界を踏まえて比較検討することができる。
- ③ 履修者が「実践の理論」の基本的な概念について、自分の具体的な実務経験等と結びつけて説明することができる。

授業計画

授業外の学習

授業計画	授業外の学習
第 1 週 (第 1 講) Positioning for the Journey 本授業の探究の旅路を深めるとともに、本授業でも一つのメルクマールとなる「実践の理論」について概観する。	事前 シラバスを読み、参考文献リストを見て本授業の見取り図を描く (3h)
	事後 コメントペーパーの提出 (1h)
第 2 週 (第 2 講/第 3 講) 実践と理論をとりまく概念 暗黙知や形式知、あるいは実践知など「実践と理論の融合」をとりまく諸概念の布置について概観する。	事前 事前配布資料を読む (3h)
	事後 コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)
第 3 週 (第 4 講/第 5 講) 実践をどのように捉えるのか 実践を捉えるための技法について、省察や概念化の手法について考究する。	事前 事前配布資料を読む (3h)
	事後 コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)
第 4 週 (第 6 講/第 7 講) 理論とはなにか 理論とはいかなるものなのか、概念・構造・機能などの視点から考究する。	事前 事前配布資料を読む (3h)
	事後 コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (1h)
第 5 週 (第 8 講/第 9 講) 中範囲理論/特定状況理論 理論の一つのあり方としての中範囲理論、ある 特定の状況 のもとで 理論 として機能する 特定状況理論 について考究する。	事前 事前配布資料を読む (3h)
	事後 コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (1h)
第 6 週 (第 10 講/第 11 講) 実践の理論 実践の理論とはいかなるものかを、プラグマティズム思想から説き起こし、実践の理論について考究する。	事前 事前配布資料を読む (3h) 総括討論に向けた資料探索 (2h)
	事後 総括討論に向けた資料作成 (2h) コメントペーパーの提出 (1h)
第 7 週 (第 12 講/第 13 講) 実践と理論の往還	事前 事前配布資料を読む (3h) 総括討論に向けた資料作成 (3h)

	実践と理論を行き来することはいかにして可能となるのかを検討する。	事後	総括討論に向けた資料作成 (3h) コメントペーパーの提出 (1h)	
第 8 週	(第 14 講/第 15 講) 総括討論 「実践と理論」にかかわる様々な議論について、履修者の問題関心から報告する。	事前	総括討論に向けた資料作成 (10h)	
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)	
授業の進め方と方法				
<p>上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義法とグループワーク法ならびにペアワーク法を用いる。本授業については、それぞれの授業週でひとつのトピックを深く考究するため、90分×2コマ連続で実施する。また、授業終了ごとにコメントペーパーを提出することを求め、履修者の関心を維持する。</p> <p>※リサーチワークとは、本授業内容をもとにして履修者の関心に応じて研究活動を実践することである。</p>				
教科書・参考書				
<p>教科書は指定しない。それぞれの授業で Lecture Note を配布する。以下、参考図書を列記する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 実務家教員 COE プロジェクト (2021) 『実務家教員の理論と実践』、社会情報大学院大学出版部。 G.E.M.アンスコム (2022) 『インテンション：行為と実践知の哲学』、岩波書店。 A.F.ファーナム (2005) 『しろうと理論——日常性の社会心理学』、北大路書房。 A.クラーク (2005) 『理論心理学の方法——論理・哲学的アプローチ』、北大路書房。 市川伸一 (2004) 『科学としての心理学——理論とは何か？なぜ必要か？どう構築するか？』、培風館。 金井壽宏・楠見孝 (2012) 『実践知——エキスパートの知性』、有斐閣。 野中郁次郎・紺野登 (2003) 『知識創造の方法論——ナレッジワーカーの技法』、東洋経済新報社。 				
評価方法				
<p>以下の観点ごとに評価し、100点満点になるように換算する。60点を超えるものに単位を付与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 授業ごとにコメントを書き提出を求める「コメントペーパー」(35%) 本評価は、とくに到達目標の①と②の到達度を測るためのものである。 最終授業回でのディスカッションならびに発表 (65%) 本評価は、とくに到達目標の③の到達度を測るためのものである。 				
その他の重要事項				
<p>コンタクトならびにオフィスアワーについて</p> <p>○メールではなく、Microsoft Teams のチャット機能で連絡をすること (相談内容については問わない)。</p> <p>○授業 Team のタブにオフィスアワー予約ページを作成しているので、そちらから予約を取ること (予約優先)。</p>				
2022 年度科目との読替え				
なし。				
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	—	○	—	—

授業名称	知識・教育・社会			科目コード	PEPC2303L
担当教員	徳宮 俊貴	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	2 年次	開講学期	前期	曜日	木 A
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、現代社会における知識と教育をそれぞれの社会領域として独立の事象として捉えるのではなく、相互に作用することを理解し、知識、教育、社会に関する分析、考察、提案する能力を高めることである。社会のなかに知識や教育が存在しており、それぞれの領域が独立して存在しているわけではない。社会領域のなかでもとくに知識と教育は、密接にかかわり影響しあっている。知識と教育は社会の部分を構成しているが、社会もまた知識と教育を構成しているのである。本授業では、知識あるいは教育を構想する上で、知識・教育・社会の織り成す視線で物事をいかに捉えていくのかをいくつかのトピックを通じて考究していく。

到達目標

- ① 履修者が少なくとも現代社会における「知識」あるいは「教育」の領域において、それぞれの関心から一つのトピックを説明することができる。
- ② 履修者が「知識」や「教育」の社会領域の相互作用性を理解し、それぞれの社会領域の相互作用のメカニズムを理解する。
- ③ 履修者が本授業で得られた知見を基礎にして、重層的な視点から現代社会における知識や教育の在り方に対して提言をすることができる。

授業計画

授業外の学習

授業計画	授業外の学習
第 1 週 (第 1 講) イントロダクション:「知識・教育・社会」への社会学的アプローチ	事前 シラバスの閲読 (0.5h)
	事後 コメントペーパーの提出 (1h) 参考書および関連文献の閲読 (2h)
第 2 週 (第 2 講・第 3 講) 知識社会論／学習社会論 現代社会の一側面として知識社会あるいは学習社会の側面があることを概説する。	事前 参考書および関連文献の閲読 (2.5h)
	事後 コメントペーパーの提出 (1h) 参考書および関連文献の閲読 (2h)
第 3 週 (第 4 講・第 5 講) 現代社会における知識論 現代社会において「知識」がどのように捉えられているのかを概観する。	事前 参考書および関連文献の閲読 (2.5h)
	事後 コメントペーパーの提出 (1h) 参考書および関連文献の閲読 (2h)
第 4 週 (第 6 講・第 7 講) 知識と教育の結節点としての大学 知識制度と教育制度の結節点として大学の装置を検討する。	事前 参考書および関連文献の閲読 (2.5h)
	事後 コメントペーパーの提出 (1h) 参考書および関連文献の閲読 (2h)
第 5 週 (第 8 講・第 9 講) 能力と雇用可能性の社会学 現代社会において「能力」がどのように語られてきたのかを社会学的な観点から考究する。	事前 参考書および関連文献の閲読 (2.5h)
	事後 コメントペーパーの提出 (1h) 参考書および関連文献の閲読 (2h)
第 6 週 (第 10 講・第 11 講) 教養の変遷 現代社会における「教養」の概念がどのように変遷してきたのかを教育論的／知識論的観点から考究する。	事前 参考書および関連文献の閲読 (2.5h)
	事後 コメントペーパーの提出 (1h) 参考書および関連文献の閲読 (2h)

第7週	(第12講・第13講) 社会システムのなかの知識と教育 社会システム論の観点から、知識と教育をどのように捉えられるのかを考究する。	事前	参考書および関連文献の閲読 (2.5h)		
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 参考書および関連文献の閲読 (2h)		
第8週	(第14講・第15講) 総合討論:「知識・教育・社会」の現在と未来	事前	参考書および関連文献の閲読 (2.5h)		
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 最終レポート (14.5h)		
授業の進め方と方法					
上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義とディスカッションを中心に進行する。また履修者は、学んだ内容が自らの実務とどう関係するか、どのように役立つ可能性があるか、といった事柄についてコメントペーパーに記入し、毎回の授業後に提出する。					
教科書・参考書					
<p>[教科書] 指定しない。</p> <p>[参考書]</p> <p>リチャード・ホーフスタッター (2003)『アメリカの反知性主義』みすず書房。 村上陽一郎 (2021)『文化としての科学／技術』岩波現代文庫。 西垣通 (2013)『集合知とは何か—ネット時代の「知」のゆくえ』中公新書。 苅谷剛彦 (2014)『増補 教育の世紀—大衆教育社会の源流』ちくま学芸文庫。 竹内洋 (2016)『日本のメリトクラシー—構造と心性 増補版』東京大学出版会。 本田由紀 (2020)『教育は何を評価してきたのか』岩波新書。</p> <p>*その他、各回の関連文献を授業中に適宜紹介する。</p>					
評価方法					
コメントペーパー 40% = (講義内容の要約2点+コメント3点) ×8回					
最終レポート 60% = (課題図書 of 要約20点+論述40点)					
その他の重要事項					
担当教員のオフィスアワーおよび予約の方法については、初回の授業で説明する。					
2022年度科目との読替え					
なし。					
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④	
	○	—	○	—	

授業名称	専門職教育論			科目コード	PEPC2304S
担当教員	齋藤 崇徳	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	2 年次	開講学期	後期	曜日	水 B
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は専門職教育についてその背景となる社会や教育制度のあり方から総合的に理解することを通じて、履修者それぞれが考える専門職教育（制度）のあり方について考察を深めることである。まず、専門職教育についての基礎的知識を学習し、その歴史的・社会的な側面についての知識を深めた上で、専門職を広く政治的な側面から学習し、自ら専門職教育を実践する際の制度を構想することを目指す。

到達目標

- ① 履修者が現代の専門職教育に関する基礎的知識を理解し、他者に説明することができる。
- ② 履修者が専門職教育の歴史とその社会的条件を理解し、他者に説明することができる。
- ③ 履修者が専門職教育の総合的理解にもとづき、携わる実務や組織、産業の領域に関連する専門職教育プログラムや制度について自らの言葉で提案することができる。

授業計画

授業外の学習

授業計画	授業外の学習
第 1 週 (第 1 講) 授業の導入 本授業の主題と目標について共有し、現代日本における専門職教育の重要性を理解することを通じ授業全体を概観する。	事前 授業資料、シラバス、参考書の確認 (4h)
	事後 コメントペーパーの提出 (1h)
第 2 週 (第 2 講) 専門職の定義 / (第 3 講) 専門職をどう研究するか 専門職とは何かを考えることを通じて、本授業の対象について理解するとともに、それを研究・構想するための理論および方法論について考察する。	事前 配布資料の確認 (1h)
	事後 講義内容・討論の復習 (3h) コメントペーパーの提出 (1h)
第 3 週 (第 4 講) 職業教育の理念 / (第 5 講) 日本の職業教育 専門職教育を考える上で基礎となる職業教育の理念を一般教育との比較から理解するとともに、日本における職業教育の歴史と特徴を学ぶ。	事前 配布資料の確認 (1h)
	事後 講義内容・討論の復習 (3h) コメントペーパーの提出 (1h)
第 4 週 (第 6 講) 専門職教育の歴史 / (第 7 講) 専門職教育の比較 専門職教育が歴史的にどのように発展してきたのかを欧米の事例から学習し、国・社会による差異について理解する。	事前 配布資料の確認 (1h)
	事後 講義内容・討論の復習 (3h) コメントペーパーの提出 (1h)
第 5 週 (第 8 講) プロフェッショナル・スクール / (第 9 講) 専門職大学院と専門職大学 第 4 週から引き続き専門職教育の代表的制度であるプロフェッショナル・スクールと、日本の専門職大学院・専門職大学 (短期大学) 制度について理解する。	事前 配布資料の確認 (1h)
	事後 講義内容・討論の復習 (3h) コメントペーパーの提出 (1h)
第 6 週 (第 10 講) 専門職の政治 / (第 11 講) 専門職の量 専門職をめぐる政治について概観するとともに、専門職の量をコントロールする政治的関係について考察する。	事前 配布資料の確認 (1h)
	事後 講義内容・討論の復習 (3h) コメントペーパーの提出 (1h)

第7週	(第12講) 専門職の質 / (第13講) 専門職の創出 第6週から引き続き専門職の質にかかわる政治的関係について考察するとともに、政治的な背景を踏まえて新たな専門職を創出することについて検討する。	事前	配布資料の確認 (1h)		
		事後	講義内容・討論の復習 (3h) コメントペーパーの提出 (1h) 報告の構想 (1h)		
第8週	(第14講・第15講) 報告と討論 履修者それぞれの問題関心から専門職教育についての新しい構想あるいは現状の改革案について報告する。	事前	報告の準備 (10h)		
		事後	報告内容・討論の復習 (3h) コメントペーパーの提出 (1h) 発表者へのフィードバックペーパーの提出 (10h)		
授業の進め方と方法					
<p>各講の授業では、最初に配布資料を用いて前週の振り返りを含む講義を行い、その後、討論を実施し、さらに各履修者はコメントペーパーを作成する。これらを通じて授業の主題の理解を深めるとともに自分の中での専門職教育のあるべき像を固めていく。それを踏まえて授業の最後に履修者が専門職教育の新たな構想あるいは現状を改革するための提案について報告を行い、討論を行う。また、報告および討論を踏まえ、他の履修者の報告についてのフィードバックペーパーを提出する。</p>					
教科書・参考書					
<p>教科書は指定しない。</p> <p>参考書：内山融・伊藤武・岡山裕編 (2012) 『専門性の政治学—デモクラシーとの相克と和解』, ミネルヴァ書房。</p> <p>トム・ニコルズ (2019) 『専門知は、もういらぬのか—無知礼賛と民主主義』, みすず書房。</p> <p>橋本鉦市編 (2009) 『専門職養成の日本的構造』, 玉川大学出版部。</p> <p>橋本鉦市編 (2015) 『専門職の報酬と職域』, 玉川大学出版部。</p> <p>橋本鉦市編 (2019) 『専門職の質保証—初期研修をめぐるポリティクス』, 玉川大学出版部。</p> <p>『世界 2023年9月号 (特集2: 専門職の危機—研究者・官僚・医師・教員)』, 岩波書店。</p>					
評価方法					
<p>毎講の討論への貢献・コメントペーパーの提出 40%</p> <p>最終週での報告 30%</p> <p>フィードバックペーパーの提出 30%</p>					
その他の重要事項					
担当教員のオフィスアワーおよび予約の方法については、初回の授業で説明する。					
2022年度科目との読替え					
なし					
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④	
	○	—	○	—	

授業名称	ナレッジ・マネジメント			科目コード	PEPC2307S
担当教員	田原 祐子	実施方法	オンライン	単位数	2 単位
配当年次	2 年次	開講学期	前期	曜日	水 B
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、人・組織・企業・社会に潜む、知恵やノウハウという「暗黙知」に気づき、それらを「形式知化」しながら組織～社会でスパイラルアップしていくという、ダイナミックでエキサイティングなプロセスを通じて、実践的なナレッジ・マネジメント（Knowledge Management）の導入・活用法を理解・修得することである。さらに、2018年に公示された ISO30401（Knowledge management systems - Requirements）、SFA（Sales Force Automation）、MA（Marketing Automation）等、先端ビジネスの知識も取り入れ、ナレッジ・マネジメントを活用することで、新しい知恵やビジネスを創造する力を醸成する。

また、社会における知的資本経営の必要性と、企業価値創造における無形資産（インタンジブル・アセット）の重要性等を理解し、ナレッジを戦略的に活用する一方で、人材の流動化による知恵・知財の消滅・流出といった、人的資本と知的資本の関係性や、これらの課題への対応法も同時に修得する。

本授業では、理論と実践を融合させるため、講師がコンサルティングの現場において 20 年以上、実際にナレッジ・マネジメントを手掛けた事例、および、履修者が直面している実際の課題等を取り上げ、自らの手で職場や社会に潜在する「暗黙知を形式知化」し、研究に役立てられるよう、再現性を重視しつつ検討していく。

到達目標

- ① 履修者が、ナレッジ・マネジメントの視座から、自らの研究に結びつく課題を発見できるようになる。
- ② 履修者が、ナレッジ・マネジメントを活用して、社会における課題を取り上げ、解決案を提案できるようになる。
- ③ 履修者が、ナレッジ・知的資本を活用して、社会・業界における競争力を高める戦略を立案できるようになる。

授業計画

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) ガイダンス:「暗黙知と形式知」と「ナレッジ・マネジメント」「ISO30401」「無形資産と知的資本・人的資本」	事前	シラバスの精読 (0.5h) 授業での質問事項の検討 (0.5h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 講義・ディスカッションの復習 (2h)
第 2 週	(第 2 講) (第 3 講) 「ナレッジ・マネジメントの理論とモデル」: SECI モデル、DIKW モデル、KW モデル、暗黙知を形式知化する 7 つの Step (フレーム&ワークモジュール) の理解と応用	事前	授業資料の確認 (1.5h) ディスカッションの準備 (1h) 参考図書該当部分の読み込み (1.5h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 講義・ディスカッションの復習 (2h)
第 3 週	(第 4 講) (第 5 講) 「ケーススタディ」 I: ナレッジ・マネジメントによる、新規事業、組織開発と、チャネル、クラスター、エコシステム、ビジネスモデルの構築 ① エネルギー会社②介護施設③法律事務所の事例分析・検証	事前	授業資料の確認 (1.5h) ケーススタディ考察 (1.5h) ディスカッションの準備 (1h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 講義・ディスカッションの復習 (2h)
第 4 週	(第 6 講) (第 7 講): 「ケーススタディ」 II: ナレッジ・マネジメントによる課題解決手法	事前	授業資料の確認 (1.5h) ケーススタディ考察 (1.5h) ディスカッションの準備 (1h)

	① 営業 (SFA) ②マーケティング (MA) ③設計開発 ④人材育成・開発の事例分析・検証	事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 講義・ディスカッションの復習 (2h)
第 5 週	(第 8 講) (第 9 講) 「実践課題・演習I」: 発表計画の概要と検討 (各自の課題抽出～分析～仮説～導入計画)	事前	授業資料の確認 (1.5h) ディスカッションの準備 (1h) 発表計画立案 (1.5h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 講義・ディスカッションの復習 (2h)
第 6 週	(第 10 講) (第 11 講) 「実践課題・演習II」: 中間報告 (分析結果～仮説検証～導入計画、および、手順の確認)	事前	授業資料の確認 (1.5h) ディスカッションの準備 (1h) 発表計画修正 (1.5h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 講義・ディスカッションの復習 (2h) 最終発表の計画立案 (5h)
第 7 週	(第 12 講) (第 13 講) 発表・プレゼンテーション～これまで学修した内容を活用し、履修者が所属する組織を題材としたナレッジ・マネジメント実現のためのアプローチ、講評～総合ディスカッション	事前	最終発表の準備 (2h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 最終発表フィードバックの復習 (1h) 講義・ディスカッションの復習 (2h)
第 8 週	(第 14 講) (第 15 講) ナレッジ・マネジメントの仮想プロジェクト導入模擬体験: 導入～実践～PDCA、定着支援、スパイラルアップまでのアプローチ, AI と人間の知について	事前	授業資料の確認 (1.5h) ディスカッションの準備 (1h) 仮想プロジェクト関連の調査 (1.5h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 講義・ディスカッションの復習 (1h) 最終レポート課題 (4h)

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義とディスカッション、グループワークを中心に進行する。また、履修者は、学んだ内容が自らの実務の課題と、どのように関係し、どのように役立つ可能性があるか、といった事柄についてミニットペーパーに記入し、毎回の授業後の課題として提出する。

教科書・参考書

教科書は指定しない。参考書は以下の通り。

- 野中郁次郎・竹内弘高(2020)『知識創造企業』,東洋経済新報社.
- 入山章栄 (2019)『世界標準の経営理論』,ダイヤモンド社. その他、授業中に適宜参考図書を紹介する。

評価方法

- ミニットペーパーの提出 (15%) : 毎回の授業後、履修者の意見と、そう考える理由を記す。
- ディスカッション・グループワークへの貢献度 (25%)
- 最終プレゼンテーション (40%)
- 最終レポート課題 (800 字) (20%)

その他の重要事項

遅刻や欠席をする場合は、学内の LMS (学習管理システム) を通じて事前に連絡すること。

本授業に関する疑問点や不明点については、担当教員まで問い合わせること。

2022 年度科目との読替え

なし

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	—	○	○	—

授業名称	現代社会と人的資本			科目コード	PEPC2308S
担当教員	川山 竜二	実施方法	ハイフレックス	単位数	2単位
配当年次	2年次	開講学期	後期	曜日	土B(3・4限)
年間開講数	1回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、現代社会の潮流と人的資本の関係性について理解することである。そのために本授業では、会計学上で議論されている「人的資本」の諸説だけでなく、社会学や経済学の知見を敷衍することで複眼的な観点から「人的資本」について理解することを目指す。本授業では、人的資本そのものの議論だけでなく、人的資本から能力開発や社会的投資国家まで、人的資本という考え方がどのように社会制度に影響を与えるのかという観点もふくめて考究することを予定している。

到達目標

- ① 履修者が現代社会と人的資本の基礎的な知識を身につけており、人的資本の考え方を理解することができる。
- ② 履修者が、本授業でとりあげる現代社会と人的資本の理論枠組みを理解し、すくなくとも2つの観点から現代社会と人的資本を説明することができる。
- ③ 履修者が現代社会の潮流と人的資本の関係性を捉えた上で、自らの所属している組織あるいは我が国における人的資本政策に対する提言ができる。

授業計画

授業外の学習

授業計画	授業外の学習	
第1週	(第1講) Positioning for the Journey 本授業の探究の旅路を深めるとともに、現代社会においてなぜ人的資本が着目されるに至ったのかを検討する。	事前 シラバスを読み、参考文献リストを見て本授業の見取り図を描く (3h) 事後 コメントペーパーの提出 (1h)
	第2週	(第2講/第3講) 経済社会学 現代社会と人的資本を論ずるにあたり、社会における経済システムあるいは労働についての知識を概観する。
第3週		(第4講/第5講) 人的資本論概説 人的資本に関わる諸学説について考究し、人的資本の考え方について議論する。あわせて、文化資本・知的資本も検討する。
	第4週	(第6講/第7講) 労働経済学 人的資本を労働経済学(とりわけシグナル理論との比較)の観点から概観する。
第5週		(第8講/第9講) 教育経済学 人的資本を教育経済学の観点から概観する。あわせて認知資本主義論についても考究する。
	第6週	(第10講/第11講) 能力開発論 企業や組織における人的資本投資の一つとしての能力開発について、特にOJTとOff-JTの比較について考究する。
第7週		(第12講/第13講) 社会的投資国家

	人的資本と社会的投資国家の関係性について概観し、今後の人への投資のありようについて考究する。	事後	総括討論に向けた資料作成 (3h) コメントペーパーの提出 (1h)	
第8週	(第14講/第15講) 総括討論 人的資本にかかわる様々な議論において、履修者の問題関心から報告する。	事前	総括討論に向けた資料作成 (10h)	
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)	
授業の進め方と方法				
<p>上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義法とグループワーク法ならびにペアワーク法を用いる。本授業については、それぞれの授業週でひとつのトピックを深く考究するため、90分×2コマ連続で実施する。また、授業終了ごとにコメントペーパーを提出することを求め、履修者の関心を維持する。</p> <p>※リサーチワークとは、本授業内容をもとにして履修者の関心に応じて研究活動を実践することである。</p>				
教科書・参考書				
<p>教科書は指定しない。それぞれの授業で Lecture Note を配布する。以下、参考図書を列記する。</p> <ul style="list-style-type: none"> マーク・グラノヴェッター (2019) 『社会と経済：枠組みと原則』、ミネルヴァ書房。 伊藤邦雄編著 (2006) 『無形資産の会計』、中央経済社。 ゲーリー・ベッカー (1976) 『人的資本——教育を中心とした理論的・経験的分析』、東洋経済新報社。 猪木武徳 (2017) 『モダン・エコノミックス 24 経済思想』、岩波オンデマンドブックス。 ジョナサン・ハスケル (2020) 『無形資産が経済を支配する』、東洋経済新報社。 清家篤・風神佐知子 (2020) 『労働経済』、東洋経済新報社。 三浦まり (2018) 『社会への投資——〈個人〉を支える〈つながり〉を築く』、岩波書店。 				
評価方法				
<p>以下の観点ごとに評価し、100点満点になるように換算する。60点を超えるものに単位を付与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 授業ごとにコメントを書き提出を求める「コメントペーパー」(35%) 本評価は、とくに到達目標の①と②の到達度を測るためのものである。 最終授業回でのディスカッションならびに発表 (65%) 本評価は、とくに到達目標の③の到達度を測るためのものである。 				
その他の重要事項				
<p>コンタクトならびにオフィスアワーについて</p> <p>○メールではなく、Microsoft Teams のチャット機能で連絡をすること (相談内容については問わない)。</p> <p>○授業 Team のタブにオフィスアワー予約ページを作成しているため、そちらから予約を取ること (予約優先)。</p>				
2022年度科目との読替え				
なし。				
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	—	—	○	—

授業名称	教育コンテンツ開発			科目コード	PEPC2310S
担当教員	廣政愁一	実施方法	ハイフレックス	単位数	2単位
配当年次	2年次	開講学期	前期	曜日	月A
年間開講数	1回	授業種別	演習	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、履修者が知識を社会へと効果的に普及する新たな「教育コンテンツ」「教育サービス」を構想するための能力を身につけることにある。

教育事業や新たなスクール運営を立ち上げようとするれば、マネジメントなどの運営のみならず、何を教えようとするのか教育コンテンツや学習サービスの設計が必要となる。本授業では、塾や予備校、大学・大学院・ビジネススクール、あるいは教育ベンチャーや人材研修といった主体についての学習サービスの設計を通じて、持続可能な教育コンテンツがどのような条件で実現できるのかを検討し、独自の教育コンテンツを創造できるようにする。

到達目標

- 履修者が現代社会から生じる教育への需要を満たすことのできる「コンテンツ」を創り出せる。
- 履修者が教育コンテンツビジネスとは何かを理解し、既存の教育コンテンツがどのようなビジネスモデルになっているかを説明することができる。
- 履修者が最新の教育コンテンツを作っている主なベンチャーの動向を知り、その成否の原因を経営側から説明することができる。

授業計画

授業計画		授業外の学習	
第1週	(1講) オリエンテーション 「教育コンテンツがなぜ今大切なのか」 授業の進め方と授業計画の確認を行う。あわせて教育コンテンツについての概論を講義する。	事前	シラバスを読み、本授業の期待するところを書き出す(3h)
		事後	コメントペーパーの提出(1h)
第2週	(2・3講) 教育コンテンツ・事業の全体像概観 現在の教育事業にどのようなものがあるかを検証し、それぞれの教育事業分野がどの程度成長していく可能性があるのか、それとも飽和、あるいは衰退しているのかを議論していく。その中で、経営でもっとも大切な教育ビジネスの勘所を鍛える。	事前	課題配布資料を読む(3h)
		事後	コメントペーパーの提出(1h) リサーチワーク(3h)
第3週	(4・5講) 教育ベンチャーの現状(1)——マーケットの限界とその規模 日本においてさまざまな教育ベンチャーが生まれてきているが、成功事例を見ながら、なぜ成功したのかを議論する。マーケティングの成功なのか、事業構造の強さなのか、マネジメントなのか。同様な成功の数々を見ながら共通項を探求する。	事前	課題配布資料を読む(3h)
		事後	コメントペーパーの提出(1h) リサーチワーク(3h)
第4週	(6・7講) 教育ベンチャーの現状(2)——マーケットの可能性とその規模 前回に続き、豊富なケーススタディを扱って講義する。日本	事前	課題配布資料を読む(3h)
		事後	コメントペーパーの提出(1h) 総括討論に向けた資料探索(1h)

	においてさまざまな教育ベンチャーが生まれてきているが、前回とは反対に失敗事例を見ながら、どうして失敗したのかを議論する。マーケティングの失敗なのか、事業構造の弱さなのか、マネジメントなのか。同様な失敗の数々を見ながら共通項を探求する。		
第5週	(8・9 講) 教育業界でのマーケティング——顧客はだれなのか 教育ビジネスの中でもっとも大切なことは「顧客の対象」である。BtoBなのかBtoCなのかあるいはBtoBtoCなのか。また、塾や予備校の顧客ははたして誰なのかを議論していく。その議論は顧客を明解にした戦略を生み出す元となる。	事前	課題配布資料を読む(3h)
		事後	コメントペーパーの提出(1h) 総括討論に向けた資料探索(1h)
第6週	(10・11 講) 教育コンテンツ開発—経営戦略の基本に当てはめる 教育コンテンツの中でも大学・大学院・ビジネススクールは新たなサービス局面に入っている。そのコンテンツ戦略を議論する。	事前	課題配布資料を読む(3h) 総括討論に向けた資料探索(2h)
		事後	コメントペーパーの提出(1h) 総括討論に向けた資料作成(2h)
第7週	(12・13 講) 教育コンテンツの設計—骨太な事業計画の作り方 履修者が独自に開発する教育コンテンツをつくる際の「ヒト・モノ・カネ・情報」を検証し、現実的なものにするを教授する。	事前	課題配布資料を読む(3h) 総括討論に向けた資料作成(3h)
		事後	コメントペーパーの提出(1h) 総括討論に向けた資料作成(3h)
第8週	(14・15 講) 総括討論 これまでの授業をまとめるとともに、履修生に対して独自の新規の教育コンテンツの口頭発表を課す。	事前	総括討論に向けた資料作成(10h)
		事後	コメントペーパーの提出(1h) リサーチワーク(3h)
授業の進め方と方法			
<p>上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義法とグループワーク法を用いる。本講義については、それぞれの授業週でひとつのトピックを深く探求するため、90分×2コマ連続で実施する。</p> <p>また、授業終了ごとにコメントペーパーを提出することを求め、履修者の関心を維持する。</p> <p>※リサーチワークとは、本授業内容をもとにして履修者の関心に応じて研究活動を実践することである。</p>			
教科書・参考書			
<p>教科書は指定しない。それぞれの授業で配布する。以下、参考図書を列記する。授業中に適宜、下記のほか参考文献を紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 嶋田真貴・西村克之・松本晃・為田裕行・山田未知之・松本暁,2019,『学習塾白書』株式会社私塾界. ・ 中室牧子,2015,『学力の経済学』ディスカヴァー・トゥエンティワン. ・ 田所雅之,2017,『起業の科学』日経BP. 			
評価方法			
以下の観点ごとに評価し、100点満点になるように換算する。			

60点を超えるものに単位を付与する。

1. 授業ごとにコメントを書き提出を求める「コメントペーパー」(35%)

本評価は、とくに到達目標の①と②の到達度を測るためのものである。

2. 最終授業回でのディスカッションならびに発表(65%)

本評価は、とくに到達目標の③の到達度を測るためのものである。

その他の重要事項

Teams のチャット機能で連絡をすること。相談内容は問わない。

2022 年度科目との読替え

なし

	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	-	-	○	-

授業名称	教育のマネジメントの理論と実践			科目コード	PEPC2311L
担当教員	藏田 實	実施方法	一部ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	2 年次	開講学期	前期	曜日	土 A (1・2 限)
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、教育のマネジメントに関する議論を今日的な教育状況に即して読み解き、それに基づく国の施策や先進的な事例を検討することで、教育プログラムの質保証をそれぞれの教育関連機関の水準で担保することについて考察する。教育のマネジメントをめぐる議論の広がりや学修者本位の内在的な観念に留意し、あるべき実践的な教育のマネジメントに関する手法を修得する。本授業では、中央教育審議会が作成した高等教育における「教学マネジメント指針」についても多面的な分析を行い、教育現場からの事例報告も踏まえ、履修者が独自の教育プログラム作りに取り組み、教育のマネジメントの在り方について理解を図る。

到達目標

- ① 履修者が教育のマネジメントをめぐる主要な課題について理解し、説明することができる。
- ② 履修者が教育のマネジメントの方法論を実践の水準に落とし込む方策について提案することができる。
- ③ 履修者が教育のマネジメントの手法を用いて自らが取り組む教育プログラムを設計することができる。

授業計画

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) ガイダンス及びイントロダクション ——授業はだれのものか?	事前	シラバスの精読 (0.5h) 授業での質問事項の検討 (0.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 授業内容の整理 (2h)
第 2 週	(第 2 講) 高等教育の今日的な課題について整理する (第 3 講) 高等教育をめぐる改革を検証する	事前	授業資料の確認 (1h) ディスカッションの準備 (1h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 授業内容の整理 (2h)
第 3 週	(第 4 講) 大学の組織と運営について考える (第 5 講) 教員と学生の現状を理解する	事前	授業資料の確認 (1h) ディスカッションの準備 (1h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 授業内容の整理 (2h)
第 4 週	(第 6 講) 「教学マネジメント指針」を読み解く① ——3つのポリシー (DP・CP・AP) について (第 7 講) 「教学マネジメント指針」を読み解く② ——PDCA サイクルについて	事前	授業資料の確認 (1h) ディスカッションの準備 (1h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 授業内容の整理 (2h)
第 5 週	(第 8・9 講) 教育のマネジメントに係る教育行政の考え方 ——文部科学省前担当官からの報告 (予定)	事前	授業資料の確認 (1h) ディスカッションの準備 (1h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 授業内容の整理 (2h)
第 6 週	(第 10 講) 教育のマネジメントに係る教育現場からの先進的事例① ——大学学長からの報告 (予定) (第 11 講) 教育のマネジメントに係る教育現場からの先進的事例② ——大学教員からの報告 (予定)	事前	授業資料の確認 (1h) ディスカッションの準備 (1h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 授業内容の整理 (2h)
第 7 週	(第 12・13 講) 教育プログラムの作成① ——3つのポリシーを考える	事前	授業資料の確認 (1h) 発表の準備 (7h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 授業内容の整理 (1.5h)

			発表内容のレポート提出 (5h)	
第8週	(第14・15講) 教育プログラムの作成② ——カリキュラムツリーを作成する	事前	授業資料の確認 (1h) 発表の準備 (7h)	
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 授業内容の整理 (1.5h) 発表内容のレポート提出 (5h)	
授業の進め方と方法				
<p>本授業は、第2週目以降、2講(90分×2)連続で実施する。</p> <p>上記目的・到達目標を達成するため、本授業は、第2週～4週は担当教員による講義と履修者とのディスカッションを交えた演習方法で行う。第5・6週はゲスト講師を招聘し、実践的な内容についてディスカッションを含め実施する。第7・8週には、それまで学修した知見を生かし、各履修者が作成した教育プログラムの発表を行う。</p>				
教科書・参考書				
<p>教科書は指定しない。</p> <p>参考資料：中央教育審議会大学分科会(2020)『教学マネジメント指針』 https://www.mext.go.jp/content/20200206-mxt_daigakuc03-000004749_001r.pdf</p> <p>参考書：濱名篤(2018)『学修成果への挑戦 地方大学からの教育改革』, 東信堂。 永田恭介・山崎光悦(編著)(2021)『教学マネジメントと内部質保証の実質化』, 東信堂。</p>				
評価方法				
1 コメントペーパー (30%) 2 授業への貢献度 (30%) 3 第7・8週での発表内容及び発表レポート (40%)				
その他の重要事項				
1 担当教員のオフィスアワーおよび予約の方法については、初回の授業で説明する。 2 来校日は原則として土曜日となっており、必要に応じて授業外での相談に応じる。				
2022年度科目との読替え				
なし。				
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	—	—

授業名称	ICT と教育			科目コード	PEPC2312S
担当教員	中川 哲	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	2 年次	開講学期	後期	曜日	水 B
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、教育 ICT の取り組みに関する歴史的経緯、および教育 ICT が求められる背景や目指す教育像を理解し、受講者が ICT 教育の現状と展望について検討するための素養を身につけることにある。主に初等中等教育における ICT を用いた教育実践について学ぶとともに、それ以外の学びの場、たとえば社会人のリスキリングにおいての取り組みも俯瞰する。既存の教具や教材は、技術革新によりアップデートされ続けるものであり、「ICT を教育に適用すること」の本質を理解しない限り、目先の新技術への対応に腐心することになる。本授業では、履修者による課題報告の時間を設けることで、表層的理解を超えて、ICT 教育の未来について考える契機を提供する。

到達目標

- ① 履修者が、ICT を用いた教育の歴史的経緯、教育 ICT が求められる背景を理解し、説明できる。
- ② 履修者が、ICT を用いた初等中等教育において授業で用いる教育コンテンツを構想することができる。
- ③ 履修者が、2 を応用し、自ら構想した教育コンテンツを用いて授業を構成し、実際に大学あるいは大学院などで授業を運営できるようになる。

授業計画

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) オリエンテーション (本授業の目的・到達点・授業の進め方、教育における ICT の必要性と全体像把握) キーワード: ICT 教育の歴史的展開、教育工学	事前	シラバスの精読 (1h) 到達目標についての自己設定 (2h)
		事後	リフレクション(2h)
第 2 週	(第 2・3 講) 「ICT と教育 (初等中等教育)」の現状 キーワード: GIGA スクール構想、デジタル教科書、EdTech、プログラミング教育、	事前	本週の内容に関する学習 (2h) 発表準備(4h)
		事後	リフレクション(2h)
第 3 週	(第 4・5 講): ICT による個別最適な学びと協働的な学び キーワード: クラウド学習支援、探究学習、PBL、自由進度学習	事前	本週の内容に関する学習 (2h) 発表準備(4h)
		事後	リフレクション(2h)
第 4 週	(第 6・7 講): ICT を用いた教育のデザイン 1 キーワード: ID、ARCS モデル、ガニエ	事前	本週の内容に関する学習 (2h) 発表準備(4h)
		事後	リフレクション(2h)
第 5 週	(第 8・9): ICT を用いた教育のデザイン 2 キーワード: リフレクション、ALACT モデル、コルトハーヘン	事前	本週の内容に関する学習 (2h) 発表準備(4h)
		事後	リフレクション(2h)
第 6 週	(第 10・11 講): 「ICT と教育」に関する事例研究 ※ 受講者からの課題報告に基づき、授業を行う。	事前	本週の内容に関する学習 (2h) 発表準備(4h)
		事後	リフレクション(2h)
第 7 週	(第 12・13 講): 「ICT と教育」に関する事例研究 ※ 受講者からの課題報告に基づき、授業を行う。	事前	本週の内容に関する学習 (2h) 発表準備(4h)
		事後	リフレクション(2h)

第 8 週	(第 14・15 講) 課題の発表と全体ディスカッション・講評～授業総括	事前	発表準備(5h)		
		事後	リフレクション(2h)		
授業の進め方と方法					
<p>上記目的・到達目標を達成するため、本授業は授業範囲の内容を各自が事前学習することが求められる。また、第 2～7 週の授業では、受講者が持ち回りで授業範囲について発表を行い、全参加者でディスカッションを行う。また、各自、授業についてのリフレクションを行い、授業終了後に提出する。</p> <p>第 8 週の授業では、第 7 週までに学んだ内容をもとに課題設定と考察を行い、まとめ発表を行うものとする。なお、各会の講義内容については、受講者の既有知識や社会の情勢変化に対応して変更することがある。</p>					
教科書・参考書					
<p>教科書は指定しない。</p> <p>参考書として、日本教育工学会監修（2018）『初等中等教育における ICT 活用』ミネルヴァ書房。 鈴木克明（2016）『インストラクショナルデザインの工具箱』北大路書房 学び続ける教育者のための境界（2019）『リフレクション入門』</p> <p>ほか参考となる行政文書や書籍等については、毎回の授業で適宜提示する。</p>					
評価方法					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 2 週～7 週の授業での発表資料準備とその資料を用いた発表（25%） ・ 第 2 週～7 週の授業でのディスカッションへ参加や発言内容などの貢献度（25%） ・ 第 2 週～7 週の授業終了後のリフレクション（25%） ・ 第 8 週の授業での発表内容（25%） 					
その他の重要事項					
担当教員のオフィスアワーおよび予約方法については、初回の授業で説明する。					
2022 年度科目との読替え					
なし。					
本科目と対応するディプロマ・ポリシー		DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
		—	—	○	—

授業名称	コーチングとファシリテーション			科目コード	PEPC2313S
担当教員	本間 正人	実施方法	オンライン	単位数	2 単位
配当年次	2 年次	開講学期	前期	曜日	金 B
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、実務家教員として必要なコーチングとファシリテーションの力の基礎を身につけること。旧来型の学校教育においては、学習者の共通性を前提とした講義形式の「一斉授業（ティーチング）」が主流だったが、「個別具体的な学び」が求められる現在、個々の学生の強みや意欲を引き出すコーチとしての技能が求められている。また「協働的な学び」を実現するためには、心理的に安全な学習環境を設け、学び合いを促進するファシリテーターとしての力が不可欠である。本授業では、コーチングとファシリテーションに関する知識の習得と同時に、参加型のエクササイズを通じて、実践的な技能を体得するところに主眼を置く。

到達目標

- ① 履修者が、コーチングとファシリテーションの理論的背景や特徴について説明できる。
- ② 履修者が、傾聴・質問・承認などコーチングの基本スキルを効果的に使って、学生の指導に活用できる。
- ③ 履修者が、学習目的に合ったエクササイズを選択（開発）し、ワークショップ形式の授業を進行できる。

授業計画

授業外の学習

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) コーチングとファシリテーションの理論の概説	事前	シラバスの精読(2h)
		事後	クライアントを観察する(2h)
第 2 週	(第 2 講) コーチングの基本スキル (傾聴、質問) (第 3 講) コーチングの基本スキル (GROW モデル)	事前	教科書 A を読む(4h)
		事後	ペアでコーチング実践(4h)
第 3 週	(第 4 講) コーチングの基本スキル (観察、承認) (第 5 講) コーチングの基本スキル (目標設定、行動促進)	事前	教科書 A を読む(4h)
		事後	ペアでコーチング実践(4h)
第 4 週	(第 6 講) コーチングのロールプレイ (1) (第 7 講) コーチングのロールプレイ (2)	事前	予め解決したい課題、達成したい目標を言語化しておく(4h)
		事後	ペアでコーチング実践(4h)
第 5 週	(第 8 講) ファシリテーションの基本、グループコーチング (第 9 講) エクササイズとインストラクション	事前	教科書 B を読む(4h)
		事後	グループコーチングの実践(4h)
第 6 週	(第 10 講) ワークショップの組立て方、心理的安全性の確保 (第 11 講) 個人ワーク、ペアワーク、グループワークの活用法	事前	教科書 B を読む(4h)
		事後	自分のワークショップを設計する(4h)

第7週	(第12講) フードバックの手法、緊張のほぐし方 (第13講) ワークショップ実践 (1)	事前	自分のワークショップを準備する(4h)
		事後	自分のワークショップを振り返る(4h)
第8週	(第14講) ワークショップ実践 (2) (第15講) 全体のふりかえりとまとめ	事前	自分のワークショップを準備する(4h)
		事後	自分のワークショップを振り返る最終レポート(4h)

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業では、講義形式の時間は短く、個人ワーク、ペアワーク、グループワークを多用する。

教科書・参考書

教科書 A：本間正人他（2018）『日経文庫 コーチング入門 第2版』日本経済新聞出版社
 教科書 B：堀公俊（2018）『日経文庫 ファシリテーション入門 第2版』日本経済新聞出版社
 参考書 C：本間正人（2007）『日経文庫 グループコーチング入門』日本経済新聞出版社
 参考書 D：山田夏子（2021）『グラフィックファシリテーションの教科書』英治出版

評価方法

ワークショップ 40%（第7-8週に予定するワークショップの設計と進行を総合的に評価）
 最終レポート 60%（本授業から何を学び、どのように活かしていこうと考えているか）

その他の重要事項

オンラインで実施するので、MSTeams の扱いに慣れておくこと。個別の質問も MSTeams で行う。
 他の履修者のプライバシーに十分配慮し、守秘義務を守ること。
 履修者の専門分野や方向性に配慮し、各講の内容が前後したり、変更される場合もある。

2022 年度科目との読替え

なし。

	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	○	-	○	-

授業名称	グローバル・ラーニングイノベーション			科目コード	PEPC2314S
担当教員	本間 正人	実施方法	オンライン	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	後期	曜日	金 B
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択
授業の目的					
<p>本授業は、実務家教員として旧来型の学校教育の「常識」をアンラーン（棄却）し、日本国内および世界各地の先端的な実践事例から学び、そのイノベティブなエッセンスを履修者自らの実務家教員としての取り組みに活かすことを目的とする。具体的には、Kahn Academy やミネルバ大学、N 高、さとのば大学、など、注目を集める教育機関の実務家や、異文化感受性発達理論や多重知性理論、対話型鑑賞などの研究者をゲストに招き、最新の状況を紹介していただく。双方向の質疑応答やダイアログを通じて、個人や組織が時代・社会環境の変化にどのように対応していくかを考察し、また、その力を育む方法を編み出していく。</p>					
到達目標					
<p>① 履修者が、教育、学習のイノベーションの本質について理論的に語れる。</p> <p>② 履修者が、様々な教育実践の事例に触れることで、視野を広げ、柔軟な思考力を獲得する。</p> <p>③ 履修者が、自らの未来をイノベティブに開拓し、構想できる。</p>					
授業計画				授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) 教育のイノベーションとグローバルな視点 (概説)	事前	シラバスを精読し、本授業に期待するところを書き出す(1h)		
		事後	授業内容のふりかえり(1h)		
第 2 週	(第 2 講) 個別最適な学びと E ラーニング (第 3 講) 事例 1 Kahn Academy、N 高、ミネルバ大学	事前	資料を読む(3h)		
		事後	授業内容のふりかえり(3h)		
第 3 週	(第 4 講) 協働的な学びと探究学習 (第 5 講) 事例 2 ラーンネットグローバルスクール、探究学舎	事前	資料を読む(3h)		
		事後	授業内容のふりかえり(3h)		
第 4 週	(第 6 講) 地域課題の解決と高校魅力化 (第 7 講) 事例 3 島根県立島前高校、さとのば大学、こゆ財団	事前	資料を読む(3h)		
		事後	授業内容のふりかえり (3h)		
第 5 週	(第 8 講) 異文化感受性開発理論と国際理解教育 (第 9 講) 事例 4 Interculturalist、内閣府国際交流、UNESCO	事前	資料を読む(3h)		
		事後	授業内容のふりかえり(3h)		
第 6 週	(第 10 講) STEAM 教育と対話型鑑賞 (第 11 講) 事例 5 Social Compass、国立アトリサーチセンタ	事前	資料を読む(3h)		
		事後	授業内容のふりかえり(3h)		

	ー		個人発表に向けた準備(3h)	
第7週	(第12講) 個人発表とフィードバック(1) (第13講) 個人発表とフィードバック(2)	事前	資料を読む(3h) 個人発表に向けた準備(3h)	
		事後	個人発表のふりかえり(3h)	
第8週	(第14講) 個人発表とフィードバック(3) (第15講) 全体のふりかえりと総括	事前	資料を読む(3h) 個人発表に向けた準備(3h)	
		事後	個人発表のふりかえり(3h) 最終レポート作成(7h)	
授業の進め方と方法				
上記目的・到達目標を達成するため、本授業はイノベティブな現場の最前線で活躍するゲストを招聘し、生の声を聴く機会を多く設定する。履修者は、事前にゲストの属する機関などのHPなどで予め概要を把握し、イノベーションの本質に切り込む質問を発することを期待する。				
教科書・参考書				
教科書は使用しない。 参考書A：太刀川英輔（2020）『進化思考』海土の風 参考書B：本間正人、山本ミッシェールのぞみ（2021）『やさしい英語でSDGs』合同出版 参考書C：稲庭彩和子（編著）（2022）『こどもと大人のためのミュージアム思考』左右社 参考書D：甲野善紀、方条遼雨（2021）『上達論』PHP 研究所				
評価方法				
個人発表 40%（第7-8週に予定。本授業で獲得した知見を自分自身の未来にどう活かしていくか） 最終レポート 60%（本授業から何を学び、どのように活かしていこうと考えているか）				
その他の重要事項				
オンラインで実施するので、MSTeamsの扱いに慣れておくこと。個別の質問もMSTeamsで行う。 履修者の専門分野や方向性に配慮し、各講の内容が前後したり、変更される場合もある。				
2023年度科目との読替え				
なし。				
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	-	-

授業名称	探究基礎演習			科目コード	PEPD1401S
担当教員	川山 竜二 荒木 貴之 齋藤 崇徳 大谷 晃	実施方法	ハイフレックス	単位数	2単位・2単位
配当年次	1年次	開講学期	前期・後期	曜日	水A/木B/土A(1・2限)/土B(1・2限)
年間開講数	2回	授業種別	演習	授業区分	必修

授業の目的

本授業は、2年次に専門職学位論文を執筆するための基盤として、現代社会における知識のあり方を理解し、社会に遍在する暗黙知と学術的知見を体系化し、普及・活用するための基礎的な能力の醸成をめざす。

(川山 竜二) 川山は、知識社会学、知の理論、専門職と専門職教育を専門とし、実務家教員養成の制度設計に携わっている。担当する基礎演習では、とくに「実践の理論(自らの知見を構造化することを含む)」や職業教育の制度化や高度化、あるいは「学習社会論」やリカレント教育に関心をよせる学生の履修を主に想定している。 ※本授業の主任教員である。

(荒木 貴之) 荒木は、社会教育・生涯学習における教育工学の応用を専門としている。担当する基礎演習では、社会教育・生涯学習の視点に立ち、ICTやEdTechを用いた教育や学習の質的変革、学習者中心主義に立脚した自己調整学習、PLN(プロフェッショナル/プライベート、ラーニング・ネットワーク)における学習に関心のある学生の履修を主に想定している。

(齋藤 崇徳) 齋藤は、高等教育論、教育社会学を専門としている。担当する基礎演習では、教育社会学や教育学の立場から、高等教育の組織、制度、経営、歴史など高等教育の「仕組み」を主に実証的な調査研究により解明すること、あるいは広く教育社会学の観点から教育現象を説明することに関心のある学生の履修を主に想定している。

(大谷 晃) 大谷は、地域社会論、現代社会論、市民社会論、社会調査方法論(質的研究)を専門とし、東京郊外の団地自治会の活動に携わってきている。担当する基礎演習では、質的研究の方法をもちいて教育・人材育成にかんする調査研究や構想を検討していくこと、あるいは地域社会やそれぞれのコミュニティ内の人材育成・マネジメントに関心のある学生の履修を主に想定している。

到達目標

本授業の具体的な到達目標は、以下のとおりである。

- これから実施していく研究の社会的布置やその意義について、研究の社会的布置、自らが携わる実務や組織、産業の領域と関連づけながら他者に説明することができる。
- 研究における基本である先行研究レビューの意義を理解し、適切に実践することができる。
- 多様な研究・分析手法の特性を理解し、自らの課題にあった手法を用いて研究を進めることができる。
- 研究に関する倫理、コンプライアンス等を理解し、それらを遵守しながら研究を進めることができる。
- 自らが携わる実務や組織、産業の領域と関連2年次に執筆する専門職学位論文のプロットを作成することができる。

授業計画		授業外の学習	
【前期】 第1週	【前期】(第1講)：本演習の目的・グランドルール等の確認、前期の進め方について	事前	シラバスおよび授業資料の確認 (1h)
		事後	プログレスレポートの執筆 (2h)
第2週	(第2・3講)：入学時点における研究計画報告	事前	資料確認・ディスカッション準備 (1h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (3h)
第3週	(第4・5講)：研究計画の報告とディスカッション 1	事前	資料確認・ディスカッション準備 (1h) プログレスレポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (3h)
第4週	(第6・7講)：研究計画の報告とディスカッション 2	事前	資料確認・ディスカッション準備 (1h) プログレスレポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (3h)
第5週	(第8・9講)：研究計画の報告とディスカッション 3	事前	資料確認・ディスカッション準備 (1h) プログレスレポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (3h)
第6週	(第10・11講)：研究の進捗報告とディスカッション①-1	事前	資料確認・ディスカッション準備 (1h) プログレスレポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (3h)
第7週	(第12・13講)：研究の進捗報告とディスカッション①-2	事前	資料確認・ディスカッション準備 (1h) プログレスレポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (3h)
第8週	(第14・15講)：研究の進捗報告とディスカッション①-3		資料確認・ディスカッション準備 (1h) プログレスレポートの執筆 (2h)
			履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (3h)
			学期末レポート執筆 (6h)
【後期】 第1週	【後期】(第1講)：本演習の目的・グランドルール等の再確認、後期の進め方について	事前	シラバスおよび授業資料の確認 (1h)
		事後	プログレスレポートの執筆 (2h)
第2週	(第2・3講)：研究の進捗報告とディスカッション②-1	事前	資料確認・ディスカッション準備 (1h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (3h)
第3週	(第4・5講)：研究の進捗報告とディスカッション②-2	事前	資料確認・ディスカッション準備 (1h) プログレスレポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (3h)
第4週	(第6・7講)：研究の進捗報告とディスカッション②-3	事前	資料確認・ディスカッション準備 (1h) プログレスレポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (3h)
第5週	(第8・9講)：研究の進捗報告とディスカッション③-1	事前	資料確認・ディスカッション準備 (1h) プログレスレポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (3h)

第6週	(第10・11講)：研究の進捗報告とディスカッション③-2	事前	資料確認・ディスカッション準備 (1h) プログレスレポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (3h)
第7週	(第12・13講)：研究の進捗報告とディスカッション③-3	事前	資料確認・ディスカッション準備 (1h) プログレスレポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (3h) 1年次中間報告会提出資料(専門職学位論文のプロット)執筆 (6h)
第8週	(第14・15講)：1年間の学びのまとめとふりかえり、1年次中間報告会に向けて	事前	資料確認・ディスカッション準備 (1h) プログレスレポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) 1年次中間報告会提出資料(専門職学位論文のプロット)修正 (11h)

授業の進め方と方法

本授業は、履修者の研究テーマ及び教員の専門領域を踏まえて、履修者を担当教員ごとに割り当てた複数の少人数ゼミ形式で進めることとし、前期・後期それぞれ、第2週日以降は2講(90分×2)連続で実施する。

上記目的・到達目標を達成するため、本授業では前期の第1週から第4週までは、学術研究の基本的な考え方について具体的な事例も踏まえて解説する。その上で、第5週から第8週は代表的な研究手法を各分野における代表的な論文等を用いながら概説する。

後期は、前期のふりかえりを行った上で、第1週から第4週まで各履修者が自身の関心に基づいてリサーチ・クエスションの設定からデータの収集・分析まで行い、それに基づいて執筆した小論文を第5週から第7週にかけて発表し、担当教員及び他の履修者と討論する。第8週は、次年度に執筆する専門職学位論文のプロットを作成・発表し、2年次の研究計画を具体化する。

教科書・参考書

教科書は特に指定しない。参考書については必要に応じて適宜演習内で紹介するが、以下の文献は手元に用意することを推奨する。

- ウェイン・C・ブース (2018)『リサーチの技法』、ソシム。
- 上野千鶴子 (2018)『情報生産者になる』、筑摩書房。
- 小熊英二(2022)『基礎からわかる 論文の書き方』、講談社。

評価方法

- 毎時のディスカッションへの貢献 (30%)
- 毎時の発表内容・方法 (30%)
- プログレスレポート (20%)
- 学期末レポート[前期]、1年次中間報告会提出資料(専門職学位論文のプロット)[後期] (20%)

その他の重要事項

オフィスアワーの予約方法など、詳しくは初回の授業で説明する。

2022年度科目との読替え

なし。

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	○	○

授業名称	探究演習（知識社会学）			科目コード	PEPD2402S
担当教員	川山 竜二	実施方法	ハイフレックス	単位数	2単位・2単位
配当年次	2年次	開講学期	前期・後期	曜日	土A（3・4限）
年間開講数	2回	授業種別	演習	授業区分	選択必修

授業の目的

本授業の目的は、履修者が実務教育研究科の修了要件となっている「専門職学位論文」を執筆し完成させること（の支援・教育研究指導）である。この演習では、履修者の問題関心に基づいて議論することにくわえて、自身が実践の場において還元しようとする「実践の理論」を履修者自身の手で創造することを目指している。

想定されるテーマとしては、知識社会学、知の体系化、学習社会論、高等教育機関の構想、職業教育、リカレント教育（生涯学習や社会教育の制度）などに関するものなどは特に歓迎するが上記の限りではない。

到達目標

- 履修者が「専門職学位論文」を執筆し完成させること、また口頭試問に耐えうる知見を蓄えること。
- 履修者の「専門職学位論文」を第三者が読んだときに「この専門職学位論文の書き手は、実務教育に関する高度専門職業人である」と認識させるような実務的な研究能力を身につけていること。

授業計画

授業計画		授業外の学習	
【前期】 第1週	（第1講）前期イントロダクション 現在の問題関心や各履修者の研究構想を確認する。また、研究進捗状況の共有や1年間のスケジュールを確認する。	事前	前期研究計画書の執筆（3h）
		事後	履修生同士の相互レビュー（1h）
第2週	（第2講／第3講）専門職学位論文の研究計画 各履修者の研究計画をレビューし、今後の研究の方向性について討議する。	事前	プログレスレポートの執筆（3h）
		事後	履修者同士の相互レビュー（1h） リサーチワーク（4h）
第3週	（第4講／第5講）先行研究レビュー1 各履修者の問題関心に応じて、一編の論文・報告書（それに相当する書籍の1章分相当）を読み、発表する。	事前	プログレスレポートの執筆（3h）
		事後	履修者同士の相互レビュー（1h） リサーチワーク（4h）
第4週	（第6講／第7講）先行研究レビュー2 各履修者の問題関心に応じて、一編の論文・報告書（それに相当する書籍の1章分相当）を読み、討議する。	事前	プログレスレポートの執筆（3h）
		事後	履修者同士の相互レビュー（1h） リサーチワーク（4h）
第5週	（第8講／第9講）専門職学位論文のスケルトン1 各履修者の専門職学位論文のスケルトンを発表し、論文の構造をより精緻なものにするために討議する。	事前	プログレスレポートの執筆（3h）
		事後	履修者同士の相互レビュー（1h） リサーチワーク（4h）
第6週	（第10講／第11講）専門職学位論文のスケルトン2 各履修者の専門職学位論文のスケルトンを発表し、論文の構造をより精緻なものにするために討議する。	事前	プログレスレポートの執筆（3h）
		事後	履修者同士の相互レビュー（1h） リサーチワーク（4h）
第7週	（第12講／第13講）主要仮説の検討1 専門職学位論文における主要な仮説を整理し、その妥当性について議論する。	事前	プログレスレポートの執筆（3h）
		事後	履修者同士の相互レビュー（1h） リサーチワーク（4h）
第8週	（第14講／第15講）主要仮説の検討2	事前	プログレスレポートの執筆（3h）

	専門職学位論文における主要な仮説を整理し、その妥当性について議論する。	事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (4h)
【後期】 第1週	(第1講) 後期イントロダクション 夏季休暇や中間報告会などでの助言を踏まえ、研究成果を共有する。	事前	後期研究計画書の執筆 (3h)
		事後	履修生同士の相互レビュー (1h)
第2週	(第2講/第3講) 専門職学位論文のスケルトン再検討1 各履修者の専門職学位論文のスケルトンについての変更状況について検討する。	事前	プロGRESSレポートの執筆 (3h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (4h)
第3週	(第4講/第5講) 専門職学位論文のスケルトン再検討2 各履修者の専門職学位論文のスケルトンについての変更状況について検討する。	事前	プロGRESSレポートの執筆 (3h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (4h)
第4週	(第6講/第7講) 専門職学位論文指導1 各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように論文に落とし込むのかを検討する。	事前	プロGRESSレポートの執筆 (3h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (4h)
第5週	(第8講/第9講) 専門職学位論文指導2 各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように論文に落とし込むのかを検討する。	事前	プロGRESSレポートの執筆 (3h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (4h)
第6週	(第10講/第11講) 専門職学位論文指導3 各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように論文に落とし込むのかを検討する。	事前	プロGRESSレポートの執筆 (3h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (4h)
第7週	(第12講/第13講) 専門職学位論文指導4 各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように論文に落とし込むのかを検討する。	事前	プロGRESSレポートの執筆 (3h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (4h)
第8週	(第14講/第15講) 研究発表準備 口頭発表練習を通じて、1年間の成果を確認しつつ、自身の研究を他者に伝える。	事前	プロGRESSレポートの執筆 (3h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (4h)

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業はそれぞれの履修者の関心にあわせた研究の進捗状況の管理と助言指導が主となる。前期は、履修者の発表にくわえて、毎回30分程度の「研究手法」に関する話題提供をおこなう。専門職学位論文は、演習に出席すれば自動的に完成するものではなく履修者が自律的に執筆するものである。履修者の人数により変動はあるものの、前期・後期を通じて9回は発表することになる。

初回授業で詳しく述べるが、授業ごとにプロGRESSレポート (A4サイズ 1~2枚) を作成することを求める。また、自身の発表だけでなく、他者の発表に対してもコメントをすることが求められる。くわえて演習の進行は、履修者が行う。課外指導として、月1回30分の研究指導日を設ける。

教科書・参考書

教科書は指定しない。以下、研究手法や論文執筆についての参考図書を列記する。

- ウェイン・C・ブースら (2018) 『リサーチの技法』、ソシム。

- デビッド・コフラン（2021）『実践アクションリサーチ』、碩学舎。
- 松浦年男・田村早苗（2022）『日本語パラグラフ・ライティング入門』、研究社。
- 小熊英二（2022）『基礎からわかる 論文の書き方』、講談社現代新書。
- 近江幸治（2022）『学術論文の作法 第3版』、成文堂。
- スティーヴン・ヴァン・エヴェラ（2009）『政治学のリサーチ・メソッド』、勁草書房。
- 川崎剛（2010）『社会科学系のための「優秀論文」作成術——プロの学術論文から卒論まで』、勁草書房。

評価方法

「専門職学位論文」にあわせた研究、執筆について評価をする。前期の評価については、発表時に用意したレジюмеに基づいて評価する。精確（精密で的確）なレジюмеを評価する。

- 報告担当週の報告内容・方法（30%）
- プロGRESSレポート（20%）
- 授業中のディスカッションへの貢献（20%）
- 各報告会・審査会時点での専門職学位論文の完成度（30%）

その他の重要事項

コンタクトならびにオフィスアワーについて

- メールではなく、Microsoft Teams のチャット機能で連絡をすること（相談内容については問わない）。
- 授業 Team のタブにオフィスアワー予約ページを作成しているので、そちらから予約を取ること（予約優先）。
- 授業担当者の Web ページなどでも情報提供をおこなう。

2022 年度科目との読替え

なし。

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	○	○

授業名称	探究演習（教育マネジメント）			科目コード	PEPD2403S
担当教員	藏田 實	実施方法	一部ハイフレックス	単位数	2単位・2単位
配当年次	2年次	開講学期	前期・後期	曜日	土B（1・2限）
年間開講数	2回	授業種別	演習	授業区分	選択必修

授業の目的

今日、学習指導要領の大幅な改訂をはじめ、高大接続システム改革の実施や専門職大学制度の導入など、教育改革がこれまでにないスピードで進行している。これに対応し、教育に関するマネジメント（「教育マネジメント」）にも大胆な変革が求められている。このことは、初等・中等教育や高等教育のみならず、多様な教育プログラムに取り組んでいる教育関連機関にも、大胆な発想の転換や新たな制度設計が必要となっている。

本授業の目的は、教育方針の策定やカリキュラムの開発、組織の管理・運営、地域との連携など「教育マネジメント」に関する今日的な諸課題を考察し、その在り方を探究する。

学履修者一人ひとり、それぞれの課題テーマに基づく「教育マネジメント」をデザインしながら研究を進め、専門職学位論文にまとめる。

到達目標

- ① 履修者が「教育マネジメント」の諸課題について理解し、説明できる。
- ② 履修者が今日的な「教育マネジメント」をデザインすることができる。
- ③ 履修者が専門職学位論文を執筆し、完成させることができる。

授業計画

授業計画		授業外の学習	
【前期】 第1週	(第1講) ガイダンス：本演習の位置付け	事前	シラバスの精読 (0.5h) 授業での質問事項の検討 (0.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 授業内容の整理 (2h)
第2週	(第2・3講) 「リサーチペーパー」の発表とディスカッション	事前	発表準備 (2h) ディスカッションの準備 (1h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 発表内容の整理 (2h)
第3週	(第4・5講) 研究論文の手法と論文執筆のプロセス	事前	授業資料の確認 (2h) ディスカッションの準備 (1h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 授業内容の整理 (2h)
第4週	(第6・7講) 研究構想の発表とディスカッション①	事前	発表準備 (2h) ディスカッションの準備 (1h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 発表内容の整理 (2h)
第5週	(第8・9講) 研究構想の発表とディスカッション②	事前	発表準備 (2h) ディスカッションの準備 (1h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 発表内容の整理 (2h)
第6週	(第10・11講) 専門職学位論文のテーマ・構成の発表とディスカッション①	事前	発表準備 (2h) ディスカッションの準備 (1h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 発表内容の整理 (2h)
第7週	(第12・13講) 専門職学位論文のテーマ・構成の発表とディスカッション②	事前	発表準備 (2h) ディスカッションの準備 (1h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 発表内容の整理 (2h)

第 8 週	(第 14・15 講) 中間報告会に向けての相互レビュー	事前	中間報告会発表資料の作成 (10h) ディスカッションの準備 (1h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 授業内容の整理 (2h) 中間報告会発表資料整理 (6h)
【後期】 第 1 週	(第 1 講) 中間報告会のリフレクションと研究内容の確認	事前	リフレクションの整理 (1h) 研究内容の検討 (2h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 授業内容の整理 (2h)
第 2 週	(第 2・3 講) 研究内容の整理と進捗状況の発表とディスカッション①	事前	発表準備 (2h) ディスカッションの準備 (1h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 発表内容の整理 (2h)
第 3 週	(第 4・5 講) 研究内容の整理と進捗状況の発表とディスカッション②	事前	発表準備 (2h) ディスカッションの準備 (1h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 発表内容の整理 (2h)
第 4 週	(第 6・7 講) 専門職学位論文執筆の進捗報告とディスカッション①	事前	発表準備 (2h) ディスカッションの準備 (1h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 授業内容の整理 (2h)
第 5 週	(第 8・9 講) 専門職学位論文執筆の進捗報告とディスカッション②	事前	発表準備 (2h) ディスカッションの準備 (1h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 授業内容の整理 (2h)
第 6 週	(第 10・11 講) 専門職学位論文執筆の進捗報告とディスカッション③	事前	発表準備 (2h) ディスカッションの準備 (1h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 授業内容の整理 (2h)
第 7 週	(第 12・13 講) 専門職学位論文執筆の進捗報告とディスカッション④	事前	発表準備 (2h) ディスカッションの準備 (1h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 授業内容の整理 (2h)
第 8 週	(第 14・15 講) 最終審査会に向けての研究発表とディスカッション	事前	発表準備 (2h) ディスカッションの準備 (1h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 授業内容の整理 (2h) 最終審査会発表資料整理 (12h)

授業の進め方と方法

本授業は、前期・後期それぞれ、第 2 週目以降は 2 講 (90 分×2) 連続で実施する。上記目的・到達目標を達成するため、本授業は、第 2 週で 1 年次の「リサーチペーパー」学修成果をもとに、各履修者の研究のねらいを共有化する。第 3 週では、論文執筆にあたって基本的な留意事項について、具体的な事例をもとに解説する。第 4 週以降は、専門職学位論文執筆に向けた研究の取組みについて各履修者が発表を行い、それをもとに担当教員および他の履修者とのディスカッションにより授業を進める。要望があれば、授業時間外に個別指導を実施する。

教科書・参考書

教科書は指定しない。履修者の研究テーマにより参考文献を紹介する。

参考書：本岡愛実・末富芳編著 (2015)『新・教育の制度と経営』、学事出版

永田恭介・山崎光悦編著 (2021)『教学マネジメントと内部質保証の実質化』、東信堂

評価方法

- 報告担当週の報告内容・方法 30%
- 授業中のディスカッションへの貢献 20%
- 授業後・授業外に書き込んだコメントの内容 20%
- 各報告会・審査会時点での専門職学位論文の完成度 30%

その他の重要事項

- 1 担当教員のオフィスアワーおよび予約の方法については、初回の授業で説明する。
- 2 受講者の人数や論文執筆の進捗状況に応じて、授業形態・授業スケジュールを変更することもある。
- 3 来校日は原則として土曜日となっており、必要に応じて授業外での相談に応じる。

2022 年度科目との読替え

なし。

	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	○	○	○	○

授業名称	探究演習（産業社会学）			科目コード	PEPD2405S
担当教員	富井 久義	実施方法	ハイフレックス	単位数	2単位・2単位
配当年次	2年次	開講学期	前期・後期	曜日	木B
年間開講数	2回	授業種別	演習	授業区分	選択必修

授業の目的

本授業の目的は、履修者が産業社会学の理論や社会学的思考などの関連する諸領域における知見を理解し、みずからが有する課題に応用して専門職学位論文を執筆するための能力を身につけることにある。

各履修者の問題関心に基ついた報告とそれにかんする討論をおこなう演習に取り組むことで、みずからの実践が産業社会においてどのような社会的位置づけを有するのかを明らかにするとともに、専門職学位論文の執筆のために必要な産業社会学および周辺領域の知識や批判的分析の方法を身につけることをめざす。

到達目標

- ① 実現可能で具体的な研究計画を立てることができる。
- ② 適切な先行研究や先行事例を挙げ、内在的に読み解いたうえで批判的に検討することができる。
- ③ 適切な手法、分析枠組みを用いて調査や実践をおこなうことができる。
- ④ 産業社会学の理論や社会学的思考にもとづき、調査や実践の社会的位置づけやそのもつ意味を解釈することができる。
- ⑤ 専門職学位論文を論理的に構成して書くことができる。
- ⑥ 他者の報告を内在的に読み、討論することができる。

授業計画

授業外の学習

授業計画	授業外の学習
第1週 (第1講) 現代における産業社会学と社会学的思考の応用可能性 (イントロダクション)	事前 春休みの研究成果のとりまとめ (3h)
	事後 前期の研究計画の立案 (1h)
第2週 (第2・3講) 履修者の研究計画・進捗共有と討論	事前 報告資料の準備 (3h)
	事後 履修者間の相互レビュー (1h)、調査研究・論文執筆の進行 (3h)
第3週 (第4・5講) 課題設定と専門職学位論文の構成 1	事前 報告準備または調査研究・論文執筆の進行 (3h)、報告資料の予習 (1h)
	事後 履修者間の相互レビュー (1h)、調査研究・論文執筆の進行 (3h)
第4週 (第6・7講) 課題設定と専門職学位論文の構成 2	事前 報告準備または調査研究・論文執筆の進行 (3h)、報告資料の予習 (1h)
	事後 履修者間の相互レビュー (1h)、調査研究・論文執筆の進行 (3h)
第5週 (第8・9講) 研究計画の進捗報告 1	事前 報告準備または調査研究・論文執筆の進行 (3h)、報告資料の予習 (1h)
	事後 履修者間の相互レビュー (1h)、調査研究・論文執筆の進行 (3h)
第6週 (第10・11講) 研究計画の進捗報告 2	事前 報告準備または調査研究・論文執筆の進行 (3h)、報告資料の予習 (1h)
	事後 履修者間の相互レビュー (1h)、調査研究・論文執筆の進行 (3h)
第7週 (第12・13講) 2年次中間報告会へ向けた相互レビュー 1	事前 報告準備または調査研究・論文執筆の進行 (3h)、報告資料の予習 (1h)
	事後 履修者間の相互レビュー (1h)、

			調査研究・論文執筆の進行 (3h)
第 8 週	(第 14・15 講) 2 年次中間報告会へ向けた相互レビュー2	事前	報告準備または調査研究・論文執筆の進行 (3h)、報告資料の予習 (1h)
		事後	履修者間の相互レビュー (1h)、調査研究・論文執筆の進行 (3h)
第 9 週	(第 16 講) 2 年次中間報告会のレビューと進捗共有	事前	夏休みの研究成果のとりまとめ (3h)
		事後	後期の研究計画の立案 (1h)
第 10 週	(第 17・18 講) 研究進捗状況と批判的検討 1	事前	報告準備または調査研究・論文執筆の進行 (3h)、報告資料の予習 (1h)
		事後	履修者間の相互レビュー (1h)、調査研究・論文執筆の進行 (3h)
第 11 週	(第 19・20 講) 研究進捗状況と批判的検討 2	事前	報告準備または調査研究・論文執筆の進行 (3h)、報告資料の予習 (1h)
		事後	履修者間の相互レビュー (1h)、調査研究・論文執筆の進行 (3h)
第 12 週	(第 21・22 講) 専門職学位論文の進捗報告 ——自身の課題と社会的布置 1	事前	報告準備または調査研究・論文執筆の進行 (3h)、報告資料の予習 (1h)
		事後	履修者間の相互レビュー (1h)、調査研究・論文執筆の進行 (3h)
第 13 週	(第 23・24 講) 専門職学位論文の進捗報告 ——自身の課題と社会的布置 2	事前	報告準備または調査研究・論文執筆の進行 (3h)、報告資料の予習 (1h)
		事後	履修者間の相互レビュー (1h)、調査研究・論文執筆の進行 (3h)
第 14 週	(第 25・26 講) 専門職学位論文の進捗報告 ——産業社会へのインパクト 1	事前	報告準備または調査研究・論文執筆の進行 (3h)、報告資料の予習 (1h)
		事後	履修者間の相互レビュー (1h)、調査研究・論文執筆の進行 (3h)
第 15 週	(第 27・28 講) 専門職学位論文の進捗報告 ——産業社会へのインパクト 2	事前	報告準備または調査研究・論文執筆の進行 (3h)、報告資料の予習 (1h)
		事後	履修者間の相互レビュー (1h)、調査研究・論文執筆の進行 (3h)
第 16 週	(第 29・30 講) 最終審査会に向けた相互レビュー	事前	報告準備または調査研究・論文執筆の進行 (3h)、報告資料の予習 (1h)
		事後	履修者間の相互レビュー (1h)、調査研究・論文執筆の進行 (3h)

授業の進め方と方法

本授業は、第 1 週と第 9 週をのぞき、2 講連続で実施する。

第 1 週については、社会学的な調査研究の方法論や論文執筆の発想法・具体的な方法論についての話題提供を担当教員がおこない、それにもとづく討論を行う。

第 2 週目以降は、履修者による専門職学位論文執筆に向けた計画や成果についての報告と、それについての他の履修者および担当教員をまじえた討論によって進行する。討論のなかで、社会学的な理論や調査研究の方法の解説を適宜担当教員がおこなう。履修者にたいしては、標準的には 2 週につき 1 回の報告を求める。

毎週の授業終了時には、他の履修者の報告へのコメントと、授業全体へのコメントの書き込みを求める。

教科書・参考書

【教科書】 指定しない

【参考書】 履修者の調査研究や実践の課題に即して、適宜文献を紹介する

* 調査研究や構想を進める方法に関連する参考書

- 荻谷剛彦・石澤麻子，2019，『教え学ぶ技術』筑摩書房.
 - 上野千鶴子，2018，『情報生産者になる』筑摩書房.
 - 小熊英二，2022，『基礎からわかる論文の書き方』講談社.
- *産業社会と実践に関連する参考書
- 永田大輔・松永伸太郎，2022，『産業変動の労働社会学』晃洋書房.
 - 大倉季久，2017，『森のサステイナブル・エコノミー』晃洋書房.

評価方法

● 報告担当週の報告内容・方法	30%
● 授業中のディスカッションへの貢献	20%
● 授業後・授業外に書き込んだコメントの内容	20%
● 各報告会・審査会時点での専門職学位論文の完成度	30%

その他の重要事項

担当教員のオフィスアワーおよび授業時間外での相談方法については、第1週の授業で説明する。

2022年度科目との読替え

なし。

	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	○	○	○	○

授業名称	探究演習（教育学）			科目コード	PEPD2406S
担当教員	齋藤 崇徳	実施方法	ハイフレックス	単位数	4 単位
配当年次	2 年次	開講学期	前期・後期	曜日	金 A
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択必修

授業の目的

本授業の目的は、教育学に関連する理論や研究方法論、実践例、研究例を学ぶこと、さらに論文執筆上の作法について習得することである。授業の過程で、各履修者の研究テーマ、進捗状況に関して、履修者同士での討論を通じて、互いの研究の優れている点や改善点、課題を主体的、批判的に発見する能力、及び学術上の討論の技法等を習得することを目指す。さらに論文の構成内容や執筆方法、分析方法について習得することを通じて、学術的に、社会的に水準の高い教育学に関連する専門職学位論文を執筆できるようになることを目指す。

到達目標

- ① 履修者が教育学に関連する理論や研究方法論について説明することができる。
- ② 履修者が自らの研究テーマについて教育学に関連する理論や研究方法論を用いて説明することができる。
- ③ 履修者が論文執筆のルールを守り、読み手に説得的に伝わりやすい専門職学位論文を執筆し、完成させることができる。

授業計画

授業外の学習

授業計画	授業外の学習	
【前期】 第 1 週	事前 (第 1 講) 本授業の方針およびスケジュールに関する説明、履修者の関心の共有	事前 シラバス、参考書の確認 (1h)
		事後 授業内容の復習 (3h)
第 2 週	(第 2・3 講) 研究計画の報告と討論	事前 報告準備作業 (4h)
		事後 授業内容の復習 (1h) 論文構想作成作業 (3h)
第 3 週	(第 4 講) 論文執筆方法 / (第 5 講) 教育学の研究方法論	事前 論文構想作成作業 (1h) 文献の確認 (2h)
		事後 授業内容の復習 (1h) 論文構想作成作業 (4h)
第 4 週	(第 6・7 講) :教育学分野での研究例の紹介と討論	事前 論文構想作成作業 (1h) 文献の確認 (2h)
		事後 授業内容の復習 (1h) 論文構想作成作業 (4h)
第 5 週	(第 8・9 講) :専門職学位論文構想報告①—リサーチクエスションをつくる	事前 論文構想作成作業 (3h)
		事後 授業内容の復習 (1h) 論文構想作成作業 (4h)
第 6 週	(第 10・11 講) :専門職学位論文構想報告②—研究の背景・先行研究を執筆する	事前 論文構想作成作業 (3h)
		事後 授業内容の復習 (1h) 論文構想作成作業 (4h)
第 7 週	(第 12・13 講) :中間報告会に向けた相互レビューと討論①	事前 論文構想作成作業 (3h)
		事後 授業内容の復習 (1h) 論文構想作成作業 (4h)
第 8 週	(第 14・15 講) :中間報告会に向けた相互レビューと討論②	事前 論文構想作成作業 (3h)
		事後 授業内容の復習 (1h) 論文構想作成作業 (4h)

【後期】 第1週	(第1講):中間報告会の振り返りと今後の研究方針の策定	事前	中間報告会振り返り(2h)
		事後	授業内容の復習(2h)
第2週	(第2・3講):専門職学位論文執筆の進捗報告と討論①	事前	論文作成及び発表準備作業(3h)
		事後	授業内容の復習(1h) 論文執筆作成作業(4h)
第3週	(第4・5講):専門職学位論文執筆の進捗報告と討論②	事前	論文作成及び発表準備作業(3h)
		事後	授業内容の復習(1h) 論文執筆作成作業(4h)
第4週	(第6・7講):専門職学位論文執筆の進捗報告と討論③	事前	論文作成及び発表準備作業(3h)
		事後	授業内容の復習(1h) 論文執筆作成作業(4h)
第5週	(第8・9講):専門職学位論文執筆の進捗報告と討論④	事前	論文作成及び発表準備作業(3h)
		事後	授業内容の復習(1h) 論文執筆作成作業(4h)
第6週	(第10・11講):専門職学位論文執筆の進捗報告と討論⑤	事前	論文作成及び発表準備作業(3h)
		事後	授業内容の復習(1h) 論文執筆作成作業(4h)
第7週	(第12・13講):専門職学位論文執筆の進捗報告と討論⑥	事前	論文作成及び発表準備作業(3h)
		事後	授業内容の復習(1h) 論文執筆作成作業(4h)
第8週	(第14・15講):最終審査会に向けた研究発表と討論	事前	論文作成及び発表準備作業(3h)
		事後	最終審査会準備(5h)

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、まず第2週において、履修者の研究計画の報告および討論を行う。第3週では、指定した文献をもとに論文執筆の手法についての講義、解説を行い、そのうえで討論を行う。第4週では指定した教育学の文献について解説の上、討論を行う。

第5週以降は教育学の研究方法論や理論の習得をふまえ、履修者の研究テーマの選定等の作業に入る。各週の報告担当者を事前に決定し、報告担当者には専門職学位論文執筆に向けたレジюмеを作成してもらおう。各週では報告をふまえ、履修生同士での討論を行い、担当教員からもコメントを行う。

なお、必要に応じて授業時間外にも研究に関する相談に応じる。

教科書・参考書

教科書は指定しない。適宜、履修者の研究関心にあわせ、個別に書籍や論文等を紹介する。

参考書：耳塚寛明監修・中西啓喜編集(2021)『教育を読み解くデータサイエンス：データ収集と分析の論理』、ミネルヴァ書房。

関口靖広(2013)『教育研究のための質的研究法講座』、北大路書房。

佐渡島紗織・坂本麻裕子・大野真澄(2015)『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド』、大修館書店。

松浦年男・田村早苗(2022)『日本語パラグラフ・ライティング入門：読み手を迷わせないための書く』

技術』, 研究社.

評価方法

報告担当週の報告内容・方法 30%

授業中のディスカッションへの貢献 20%

授業後・授業外に書き込んだコメントの内容 20%

各報告会・審査会時点での専門職学位論文の完成度 30%

その他の重要事項

担当教員のオフィスアワーおよび予約の方法については、初回の授業で説明する。

受講者の人数や興味関心に応じて、授業スケジュールは変更する可能性がある。

2022年度科目との読替え

なし。

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	○	○

授業名称	探究演習（教育産業と教育事業）			科目コード	PEPD2407S
担当教員	廣政愁一	実施方法	ハイフレックス	単位数	2単位・2単位
配当年次	2年次	開講学期	前期・後期	曜日	水A
年間開講数	2回	授業種別	演習	授業区分	選択必修

授業の目的

本授業の目的は、履修者が「実務教育学修士（専門職）」を授与されるにふさわしい専門職学位論文を完成させることにある。専門職大学院において説得力のある専門職学位論文を作成するにあたり、本授業では、教育事業と教育産業にまつわる発想や視点を提供する。

実現可能かつ持続可能な教育事業を展開するためには、当該領域に関連する教育産業の正確な把握が必要不可欠である。そこで本授業の序盤では、履修者各自が構想している新たな教育事業について、先行事例や産業動向の分析を通じて理解を深める機会を設ける。

到達目標

- ① 履修者が先行事例や産業動向の分析を行うことができる。
- ② 履修者が 実現可能性・持続可能性の担保された教育事業を構想することができる。
- ③ 履修者が専門職学位論文を執筆し、完成させることができる。

授業計画

授業外の学習

授業計画	授業外の学習	
【前期】 第1週	事前	シラバスの精読（0.5h） 「リサーチペーパー」の内容をもとにした発表準備（1.5h）
	事後	参考書の精読（4h）
第2週	事前	教育事業と教育産業に関する事前学習（2h）
	事後	フィードバック事項の整理（1h） 参考書の精読（3h）
第3週	事前	先行事例に関する事前学習（2h）
	事後	フィードバック事項の整理（1h） 参考書の精読（3h）
第4週	事前	発表資料の準備（2h） 他のゼミ生資料の事前確認（1h）
	事後	フィードバック事項の整理（1h） 参考書の精読（3h）
第5週	事前	発表資料の準備（2h） 他のゼミ生資料の事前確認（1h）
	事後	フィードバック事項の整理（1h）

第 6 週	(10・11 講)：中間報告会に向けた準備とディスカッションI	事前	発表資料の準備 (2h) 他のゼミ生資料の事前確認 (1h)
		事後	フィードバック事項の整理 (3h)
第 7 週	(12・13 講)：中間報告会に向けた準備とディスカッションII	事前	発表資料の準備 (2h) 他のゼミ生資料の事前確認 (1h)
		事後	ディスカッション内容の整理 (1h)
第 8 週	(14・15 講)：模擬報告会・後期に向けたガイダンス 8 月に実施される中間報告会に向けて、模擬プレゼンテーションを行う。	事前	模擬報告会の準備 (4h)
		事後	フィードバック事項の整理 (2h) 夏休み中の研究計画作成・共有 (2h) 中間報告会に向けた最終調整 (2h)
【後期】 第 1 週	(1 講) オリエンテーション 中間報告会・夏季休暇を経て履修者が研究した事柄について全体で共有するとともに、専門職学位論文の執筆スケジュールを検討する。	事前	研究成果の発表準備 (2h)
		事後	フィードバック事項の整理 (4h)
第 2 週	(2・3 講) 教育事業の実現可能性に関するディスカッションI	事前	研究発表の準備 (4h)
		事後	フィードバック事項の整理 (4h)
第 3 週	(4・5 講) 教育事業の実現可能性に関するディスカッションII これまでに履修者各自が検討してきた教育事業について内容および実現可能性、さらには持続可能性を精査し、それを専門職学位論文に落とし込むための方法についてディスカッションを行う。	事前	研究発表の準備 (4h)
		事後	これまでのフィードバック事項を踏まえた専門職学位論文執筆 (4h)
第 4 週	(6・7 講) 模擬中間審査 11 月に実施される中間審査会に向けて、模擬審査を行う。	事前	模擬中間審査の準備 (4h)
		事後	学位論文の執筆・検討 (4h)
第 5 週	(8・9 講) 専門職学位論文 執筆指導I 履修者からの進捗報告をもとに、専門職学位論文の完成に向けたディスカッションを行う。	事前	調査・研究の遂行 (4h)
		事後	学位論文の執筆 (7h)
第 6 週	(10・11 講) 専門職学位論文 執筆指導II	事前	調査・研究の遂行 (4h)
		事後	学位論文の執筆・検討 (7h)
第 7 週	(12・13 講) 専門職学位論文 執筆指導III	事前	調査・研究の遂行 (4h)
		事後	学位論文の執筆・検討 (9h)
第 8 週	(14・15 講) 模擬最終審査 2 月に実施される最終審査会に向けて、模擬審査を行う。	事前	模擬最終審査の準備 (3h)
		事後	フィードバック事項の整理 (3h)
授業の進め方と方法			

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は、第 3 週までの時間を使って、履修者各自の研究テーマに関連する事例研究を行う。その後、第 4 週からは、研究の進捗状況に関する各自の発表に基づき、全体でのディスカッションにより進行する。また、報告会・審査会の直前には模擬審査を実施することで、研究発表のクオリティを担保する。本授業は、前期・後期とも第 2 週目以降は 2 講（90 分×2）連続で実施する。

教科書・参考書

教科書は指定しない。

参考書：小熊英二（2022）『論文の書き方』、講談社現代新書

評価方法

- 報告担当週の報告内容・方法 30%
- 授業中のディスカッションへの貢献 20%
- 授業後・授業外に書き込んだコメントの内容 20%
- 各報告会・審査会時点での専門職学位論文の完成度 30%

その他の重要事項

担当教員のオフィスアワーおよび予約の方法については、初回の授業で説明する。

2022 年度科目との読替え

なし。

	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	○	○	○	○

授業名称	探究演習（組織論）			科目コード	PEPD2408S
担当教員	坂本 文武	実施方法	オンライン	単位数	2単位・2単位
配当年次	2年次	開講学期	前期・後期	曜日	水A
年間開講数	1回	授業種別	演習	授業区分	選択必修

授業の目的

本授業は、2年次生を対象として、履修者自らが選定したテーマに関して、教員による個別の指導・助言のもと、専門職学位論文の作成に向けた個別研究を推進することを目的とする。指導対象とする主な研究領域は、組織内での人材育成や組織学習、組織変革などである。また、行政や非営利組織等、営利組織以外の主体組織に関する研究も歓迎する。

到達目標

- ① 履修者が研究者として必要な批判的思考を獲得し、自らおよび他者に対して行使することができる。
- ② 履修者が選定したテーマに関して研究を自律的に推進する手法を理解し、活用できるようになる。
- ③ 履修者が専門職学位論文を執筆し、完成することができる。

授業計画

授業外の学習

授業計画	授業外の学習
第1週	（第1講）研究の意義と進め方—リサーチペーパーをもとに社会人が研究することの意義と論文の役割、今後の進め方の基礎を確認する。また今後一読を期待したい参考図書を提示する。
	事前 シラバスの精読および授業の準備 (1h) 事後 参考図書の精読 (6h)
第2週	（第2・3講）研究課題の構造化—論理的で客観的に課題を構造化するための思考法を、履修者の研究テーマに関する発表をもとに確認、獲得する
	事前 研究テーマに関する発表準備 (2h) 事後 フィードバック事項の整理 (1h) 参考図書の精読 (6h)
第3週	（第4・5講）批判的思考の涵養—意味や論理展開の課題を見極め、思考を深める問いかけを生み出す思考術に関して、演習目的の題材にて議論し確認する
	事前 演習テーマに関する事前学習 (2h) 事後 参考図書の精読 (6h)
第4週	（第6・7講）リサーチクエスチョンを磨く—履修者によるリサーチクエスチョンの発表を通して、リサーチクエスチョンの本質とそこに至るための視点を獲得する
	事前 リサーチクエスチョンに関する発表準備 (2h) 事後 フィードバック事項の整理 (1h) 参考図書の精読 (6h)
第5週	（第8・9講）問題意識の背景説明—論文第1章で扱うであろう問題意識の背景にある事象を整理、分析する方法に関して、履修者による発表を通して確認する
	事前 問題意識の背景説明に関する発表準備 (3h) 事後 フィードバック事項の整理 (1h)
第6週	（第10・11講）先行研究のレビューI—論文第2章で扱うであろう先行研究のレビューの意義や手法、注意点に関して、履修者による発表を通して検討する
	事前 先行研究レビューに関する発表準備 (5h) および他のゼミ生資料の事前確認 (2h) 事後 フィードバック事項の整理と再構築 (3h)
第7週	（第12・13講）先行研究のレビューII—前週に引き続き発表を通して考察を深める
	事前 ゼミ生の発表資料の事前確認および指摘の準備 (2h) 事後 ディスカッション内容の整理 (1h)
第8週	（第14・15講）調査設計—夏休み以降に実施する可能性のある
	事前 調査設計に関する発表準備 (6h)

	定量および定性調査に関して、履修者の発表を通して設計の注意点等を確認する	事後	フィードバック事項の整理 (2h) 夏休み中の研究計画作成と Teams での共有 (2h)
第 9 週	(第 16 講) 研究成果の共有—中間報告会以降の研究の進捗および成果に関して発表し、今後の研究課題や計画を確認する	事前	研究成果の発表準備 (2h)
		事後	フィードバック事項の整理と再構築 (4h)
第 10 週	(第 17・18 講) 研究課題の深化I—履修者の専門職学位論文を発表し、さらなる研究課題を明らかにする	事前	研究発表の準備 (4h)
		事後	フィードバック事項の整理と再構築 (4h)
第 11 週	(第 19・20 講) 研究課題の深化II—履修者の専門職学位論文を発表し、さらなる研究課題を明らかにする	事前	研究発表の準備 (4h)
		事後	フィードバック事項の整理と再構築 (4h)
第 12 週	(第 21・22 講) 研究成果報告書執筆指導I—履修者の研究進捗や課題に応じて相談、討論する	事前	研究内容の検討 (4h)
		事後	学位論文の執筆検討 (4h)
第 13 週	(第 23・24 講) 研究成果報告書執筆指導II—履修者の研究進捗や課題に応じて相談、討論する	事前	研究内容の検討 (4h)
		事後	学位論文の執筆検討 (4h)
第 14 週	(第 25・26 講) 研究成果報告書執筆指導III—履修者の研究進捗や課題に応じて相談、討論する	事前	研究内容の検討 (4h)
		事後	学位論文の執筆検討 (4h)
第 15 週	(第 27・28 講) 研究成果報告書執筆指導IV—履修者の研究進捗や課題に応じて相談、討論する	事前	研究内容の検討 (4h)
		事後	学位論文の執筆検討 (4h)
第 16 週	(第 29・30 講) 研究発表の準備—履修者の研究成果を実装もしくは社会普及させるための課題や計画を討議する	事前	実装や普及の計画発表準備 (3h)
		事後	フィードバック事項の整理 (3h)
授業の進め方と方法			
上記目的・到達目標を達成するため、本授業は各自の研究経過の報告と、参加者相互の批判的討議を通して、研究に多角的検討を加え、厚みを増す進行を予定している。また、研究の段階に即して個別に協議のうえ、指導・助言を行う。授業外において履修者は各自の責任において研究を自主的に進捗させることを期待する。			
教科書・参考書			
教科書は指定しない。 参考書：伊丹 敬之 (2001)『創造的論文の書き方』, 有斐閣。 高橋 昌一郎 (2007)『哲学ディベート 〈倫理〉を〈論理〉する』, NHK ブックス, ほか			
評価方法			
報告担当週の報告内容・方法 30% 授業中のディスカッションへの貢献 20% 授業後・授業外に書き込んだコメントの内容 20% 各報告会・審査会時点での専門職学位論文の完成度 30%			
その他の重要事項			

担当教員のオフィスアワーおよび予約の方法については、初回の授業で説明する。
授業は原則オンラインのみにて開講する予定だが、履修者の希望により変更する可能性がある。また前期一部週はハイフレックスにて開講する計画。

2022 年度科目との読替え

なし。

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	○	○

授業名称	探究演習（社会教育）			科目コード	PEPD2410S
担当教員	荒木貴之	実施方法	ハイフレックス	単位数	2単位・2単位
配当年次	2年次	開講学期	前期・後期	曜日	木B
年間開講数	2回	授業種別	演習	授業区分	選択必修

授業の目的

本授業の目的は、1年次に行う探究基礎演習をふまえ、履修者が教育工学の理論や手法を用いて課題解決能力を高めるとともに、研究者に求められる研究成果の発表および質疑応答能力を身につけ、最終的に専門職学位論文を完成させることである。想定される研究テーマとしては、社会教育・生涯学習への教育工学の応用を中心として、社会教育経営、社会教育施策（演習）、社会教育人材の育成あるいはネットワーク化、ネットワーク上の教育・学習に関連する内容を歓迎するが、左記以外の研究を否定するものではない。全ての履修希望者は、あらかじめ研究内容について相談すること。

到達目標

- ① 履修者が、専門職学位論文を執筆し完成させること。
- ② 履修者が、口頭試問で研究成果を発表し、研究者からの質疑に適切に対応できること。
- ③ 履修者が、実務的な研究能力を身につけるとともに、高度専門職業人として、実践と理論を融合し、新たな知を社会実装できること。

授業計画

授業外の学習

授業計画		授業外の学習	
[前期] 第1週	(第1講) 前期イントロダクション 社会教育に関連した研究論文の精読と解説を通して、論文の構造を理解するとともに、今後の研究計画の見通しを立てる。	事前	社会教育に関連した論文の精読を通じた論文構造の理解 (3h)
		事後	社会教育に関連した論文の検討と相互レビュー (2h)
第2週	(第2講/第3講) 専門職学位論文の研究計画 専門職学位論文の精読と解説を通して、実践と理論を融合した新たな知の創造と社会実装について、検討する。	事前	専門職学位論文の精読を通じた論文構造の理解 (3h)
		事後	専門職学位論文の検討と相互レビュー (2h)
第3週	(第4講/第5講) 先行研究レビュー1 研究テーマに関連する先行研究をレビューし、研究の独自性、継続性、関連性を検討する。	事前	先行関連研究に関するリサーチワーク (3h)
		事後	先行研究レビューの検討 (2h)
第4週	(第6講/第7講) 先行研究レビュー2 研究テーマに関連する先行研究をレビューし、研究の独自性、継続性、関連性を検討する。	事前	先行関連研究に関するリサーチワーク (3h)
		事後	先行研究レビューの検討 (2h)
第5週	(第8講/第9講) 専門職学位論文の構造検討1 それぞれの履修者の専門職学位論文の進捗状況を発表し、研究と論文の構造を発表し、相互に検討する。	事前	専門職学位論文の構造の検討 (6h)
		事後	履修者同士の相互レビューとリサーチワーク (4h)
第6週	(第10講/第11講) 専門職学位論文の構造検討2 それぞれの履修者の専門職学位論文の進捗状況を発表し、研究と論文の構造を発表し、相互に検討する。	事前	専門職学位論文の構造の検討 (6h)
		事後	履修者同士の相互レビューとリサーチワーク (4h)
第7週	(第12講/第13講) 主要仮説の検討1 専門職学位論文で主張する仮説の妥当性について、相互に検討	事前	研究仮説の妥当性の検討 (4h)
		事後	履修者同士の相互レビューとリサーチワーク (4h)

	する。		チワーク (4h)
第 8 週	(第 14 講/第 15 講) 主要仮説の検討 2 専門職学位論文で主張する仮説の妥当性について、相互に検討する。	事前	研究仮説の妥当性の検討 (4h)
		事後	履修者同士の相互レビューとリサーチワーク (4h)
[後期] 第 1 週	(第 1 講) 後期イントロダクション 中間報告会の指摘事項を踏まえ、後期の研究計画の修正を行う。	事前	後期の研究計画の立案 (3h)
		事後	履修者同士の相互レビューとリサーチワーク (4h)
第 2 週	(第 2 講/第 3 講) 専門職学位論文の構造再検討 1 それぞれの履修者の専門職学位論文の進捗状況を発表し、研究と論文の構造を発表し、相互に検討する。	事前	専門職学位論文の構造の検討 (6h)
		事後	履修者同士の相互レビューとリサーチワーク (4h)
第 3 週	(第 4 講/第 5 講) 専門職学位論文の構造再検討 2 それぞれの履修者の専門職学位論文の進捗状況を発表し、研究と論文の構造を発表し、相互に検討する。	事前	専門職学位論文の構造の検討 (6h)
		事後	履修者同士の相互レビューとリサーチワーク (4h)
第 4 週	(第 6 講/第 7 講) 専門職学位論文指導 1 専門職学位論文の完成に向けて、論文の構造、仮説の妥当性、研究で明らかになる知見、結論等について、相互に検討する。	事前	専門職学位論文の執筆 (6h)
		事後	履修者同士の相互レビューとリサーチワーク (4h)
第 5 週	(第 8 講/第 9 講) 専門職学位論文指導 2 専門職学位論文の完成に向けて、論文の構造、仮説の妥当性、研究で明らかになる知見、結論等について、相互に検討する。	事前	専門職学位論文の執筆 (6h)
		事後	履修者同士の相互レビューとリサーチワーク (4h)
第 6 週	(第 10 講/第 11 講) 専門職学位論文指導 3 専門職学位論文の完成に向けて、論文の構造、仮説の妥当性、研究で明らかになる知見、結論等について、相互に検討する。	事前	専門職学位論文の執筆 (6h)
		事後	履修者同士の相互レビューとリサーチワーク (4h)
第 7 週	(第 12 講/第 13 講) 専門職学位論文指導 4 専門職学位論文の完成に向けて、論文の構造、仮説の妥当性、研究で明らかになる知見、結論等について、相互に検討する。	事前	専門職学位論文の執筆 (6h)
		事後	履修者同士の相互レビューとリサーチワーク (4h)
第 8 週	(第 14 講/第 15 講) 研究発表準備 最終口頭諮問に向けて、口頭発表練習を行う。	事前	プレゼンテーション作成 (9h)
		事後	履修者同士の相互レビューとリサーチワーク (4h)

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は、履修者の自発的・自律的な研究への取り組みを支援し、助言指導することが主となる。教育工学は、教育や学習をシステム化することにより、教育目標を効果的かつ効率的に達成することを目標であり、専門職学位論文の検討や執筆にあたっては、教育工学的アプローチをとるものとする。すなわち、履修者は研究計画を自主的に管理し、遂行することが求められる。また、研究者コミュニティによる学びを促進する観点から、自身の研究発表にコメントを得るだけでなく、他者の研究発表に対してもコメントを与えること。本探究演習の運営と進行は、履修者が主体的に行うものとする。

教科書・参考書

教科書：なし

参考書：

鈴木克明・中山実（2016）『職業人教育と教育工学（教育工学選書Ⅱ）』，日本教育工学会

評価方法

専門職学位論文，最終研究発表および研究活動などの状況により総合的に判断する（100%）

その他の重要事項

オフィスアワーの予約方法：電子メールにて希望日時を調整し、研究相談を実施する。

授業以外に月に1度、個別の研究相談（1時間）を設ける。クローズドな SNS を用いて、履修者同士が研究の進捗状況を共有し、学びの共同体として研究を相互に補完・推進する。

2022 年度科目との読替え

なし。

	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	○	○	○	○

授業名称	探究演習（地域社会論）			科目コード	PEPD2411S
担当教員	大谷 晃	実施方法	ハイフレックス	単位数	2単位・2単位
配当年次	2年次	開講学期	前期・後期	曜日	土B（1・2限）
年間開講数	2回	授業種別	演習	授業区分	選択必修

授業の目的

本授業の目的は、履修者が地域社会論の理論や関連する諸領域における知見を理解し、みずからのアプローチとして応用し、専門職学位論文を執筆するための能力を身につけることにある。大半の授業回において、各履修者の問題関心に基づいた報告とディスカッションの時間をとることで、履修者が自らの実務上の課題の社会的意義、地域社会論および周辺領域における学術的な意義を見出し、専門職学位論文を執筆できるようになることをめざす。

到達目標

- ① 履修者が、論証可能なリサーチ・クエスチョンを立てることができる。
- ② 履修者が、適切なリサーチ・デザインを立て、調査や実践を行うことができる。
- ③ 履修者が、地域社会論や関連領域のアプローチに基づき、自らの研究の社会的・学術的意義を説明することができる。
- ④ 履修者が、専門職学位論文を執筆し、完成することができる。

授業計画

授業外の学習

授業計画	授業外の学習	
【前期】 第1週	事前	これまでの研究成果のとりまとめ（2h）、シラバス確認（1h）
	事後	研究計画の執筆（3h）
第2週	事前	報告資料の準備（4h）
	事後	調査研究・論文執筆の進行（2h）
第3週	事前	報告準備または調査研究・論文執筆の進行（2h）、報告資料の予習（2h）
	事後	調査研究・論文執筆の進行（4h）
第4週	事前	報告準備または調査研究・論文執筆の進行（2h）、報告資料の予習（2h）
	事後	調査研究・論文執筆の進行（4h）
第5週	事前	報告準備または調査研究・論文執筆の進行（2h）、報告資料の予習（2h）
	事後	調査研究・論文執筆の進行（4h）
第6週	事前	報告準備または調査研究・論文執筆の進行（2h）、報告資料の予習（2h）
	事後	調査研究・論文執筆の進行（4h）
第7週	事前	報告準備または調査研究・論文執筆の進行（2h）、報告資料の予習（2h）
	事後	調査研究・論文執筆の進行（4h）
第8週	事前	報告準備または調査研究・論文執筆の進行（2h）、報告資料の予習（2h）

		事後	調査・研究、論文執筆の進行 (2h) 中間報告会発表資料の準備 (2h)
【後期】 第1週	(第1講) 中間報告会のレビューと進捗報告	事前	夏休みの研究成果のとりまとめ (2h)
		事後	研究計画の執筆 (4h)
第2週	(第2・3講) 専門職学位論文の進捗報告とディスカッション①	事前	報告準備または調査研究・論文執筆の進行 (2h)、報告資料の予習 (2h)
		事後	調査研究・論文執筆の進行 (2h)
第3週	(第4・5講) 専門職学位論文の進捗報告とディスカッション②	事前	報告準備または調査研究・論文執筆の進行 (2h)、報告資料の予習 (2h)
		事後	調査研究・論文執筆の進行 (4h)
第4週	(第6・7講) 専門職学位論文の進捗報告とディスカッション③	事前	報告準備または調査研究・論文執筆の進行 (2h)、報告資料の予習 (2h)
		事後	調査研究・論文執筆の進行 (4h)
第5週	(第8・9講) 専門職学位論文の進捗報告とディスカッション④	事前	報告準備または調査研究・論文執筆の進行 (2h)、報告資料の予習 (2h)
		事後	調査研究・論文執筆の進行 (4h)
第6週	(第10・11講) 専門職学位論文の進捗報告とディスカッション⑤	事前	報告準備または調査研究・論文執筆の進行 (2h)、報告資料の予習 (2h)
		事後	調査研究・論文執筆の進行 (4h)
第7週	(第12・13講) 専門職学位論文の進捗報告とディスカッション⑥	事前	報告準備または調査研究・論文執筆の進行 (2h)、報告資料の予習 (2h)
		事後	調査研究・論文執筆の進行 (4h)
第8週	(第14・15講) 最終審査会に向けた研究発表とディスカッション	事前	報告準備または調査研究・論文執筆の進行 (2h)、報告資料の予習 (2h)
		事後	調査研究・論文執筆の進行 (4h)

授業の進め方と方法

上記目的、到達目標を達成するために、本授業では論文執筆に必要な基礎的な知識の講義を交えつつ、履修者によるディスカッションを中心として進めていく。

本授業は、前後期ともに第1週をのぞき、2講連続(90分×2)で実施する。前期第2～4週については、学術的な論文執筆の方法論、地域社会論的な調査研究のリサーチ・デザインの方や調査方法論の解説を担当教員から行い、各回のテーマに合わせてディスカッションを行い、履修者の問題設定を明確化していく。

第5週目以降は、履修者による専門職学位論文執筆に向けた計画や成果についての報告と、それについての他の履修者および担当教員をまじえたディスカッションによって進行する。各週の報告担当者は事前に決定し、担当者となった履修者には報告資料の準備を課す。報告をふまえ、履修者同士の相互レビュー、担当教員からのコメントを行う。

教科書・参考書

【教科書】 指定しない

【参考書】 以下の文献を参照。また、それ以外にも履修者の関心に応じて適宜参考文献を提示する。

- 佐藤健二 (2014) 『論文の書き方』, 弘文堂。
- 野村康 (2017) 『社会科学の考え方——認識論、リサーチ・デザイン、手法』, 名古屋大学出版会。

- 似田貝香門・古城利明・岩崎信彦・矢澤澄子監修（2006）『地域社会論講座 第1巻～第3巻』，東信堂。

評価方法

- | | |
|---------------------------|-----|
| ● 報告担当週の報告内容・方法 | 30% |
| ● 授業中のディスカッションへの貢献 | 20% |
| ● 授業後・授業外に書き込んだコメントの内容 | 20% |
| ● 各報告会・審査会時点での専門職学位論文の完成度 | 30% |

その他の重要事項

担当教員のオフィスアワーおよび授業時間外での相談方法については、第1週の授業で説明する。

* 担当教員の連絡先：大谷晃（akira.otani@sentankyo.ac.jp）

2022年度科目との読替え

なし。

	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	○	○	○	○

授業名称	探究演習（社会人教育）			科目コード	PEPD2412S
担当教員	北村 士朗	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	2 年次	開講学期	前期・後期	曜日	火 A
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択必修

授業の目的

本授業の目的は、履修者が専門職学位論文を執筆し完成させ、実務教育研究科の修了要件を満たすことである。本演習では教育工学、経営学等の知見を活かし、社会人の教育（学習の外的支援）についての研究を行う。想定されるテーマのキーワードとしては、研修（研修評価）、人材育成、キャリア教育、情報教育、職場での教育・学習（OJT、ワークプレイスラーニング）、CoP（実践コミュニティ）、インストラクショナル・デザイン、ナレッジ・マネジメント、越境学習が挙げられる。また研究対象は社会人（有職者）を想定しているが、高等教育・専門教育や生涯教育も対象となり得る。履修を希望する者は、あらかじめ相談すること。

到達目標

- ① 創造性・新奇性・客観性・説得性を備えた専門職学位論文を完成させること。
- ② 選択した研究テーマの専門家として、その領域に関する代表的な諸理論、モデル、先行研究、議論等を口頭試問に耐えうるレベルで説明できるようになること。
- ③ 研究テーマとして設定した問題や課題について分析・解釈し、望ましさと実現可能性を兼ね備えた対処策を提案できるようになること。
- ④ 高度専門職業人としての研究活動の立案ができるようになること。

授業計画

授業計画		授業外の学習	
【前期】 第 1 週	(第 1 講) オリエンテーション、研究計画案の共有	事前	研究計画の策定 (3h)
		事後	リフレクションと相互レビュー(1h)
第 2 週	(第 2 講/第 3 講) 専門職学位論文の研究計画	事前	研究計画書の執筆 (3h)
		事後	リフレクションと相互レビュー(1h) リサーチワーク (4h)
第 3 週	(第 4 講/第 5 講) 研究進捗報告・相互レビュー	事前	論文執筆・報告準備(3h)
		事後	リフレクションと相互レビュー(1h) リサーチワーク (4h)
第 4 週	(第 6 講/第 7 講) 研究進捗報告・相互レビュー	事前	論文執筆・報告準備(3h)
		事後	リフレクションと相互レビュー(1h) リサーチワーク (4h)
第 5 週	(第 8 講/第 9 講) 研究進捗報告・相互レビュー	事前	論文執筆・報告準備(3h)
		事後	リフレクションと相互レビュー(1h) リサーチワーク (4h)
第 6 週	(第 10 講/第 11 講) 研究進捗報告・相互レビュー	事前	論文執筆・報告準備(3h)
		事後	リフレクションと相互レビュー(1h) リサーチワーク (4h)
第 7 週	(第 12 講/第 13 講) 研究進捗報告・相互レビュー	事前	論文執筆・報告準備(3h)

		事後	リフレクションと相互レビュー(1h) リサーチワーク (4h)
第 8 週	(第 14 講／第 15 講) 中間報告会に向けて準備・相互レビュー	事前	中間報告準備 (3h)
		事後	リフレクションと相互レビュー(1h) リサーチワーク (4h)
【後期】 第 1 週	(第 1 講) 後期オリエンテーション、研究計画の改訂	事前	前期研究計画の点検と改訂 (3h)
		事後	リフレクションと相互レビュー(1h)
第 2 週	(第 2 講／第 3 講) 研究進捗報告・相互レビュー	事前	論文執筆・報告準備(3h)
		事後	リフレクションと相互レビュー(1h) リサーチワーク (4h)
第 3 週	(第 4 講／第 5 講) 研究進捗報告・相互レビュー	事前	論文執筆・報告準備(3h)
		事後	リフレクションと相互レビュー(1h) リサーチワーク (4h)
第 4 週	(第 6 講／第 7 講) 研究進捗報告・相互レビュー	事前	論文執筆・報告準備(3h)
		事後	リフレクションと相互レビュー(1h) リサーチワーク (4h)
第 5 週	(第 8 講／第 9 講) 研究進捗報告・相互レビュー	事前	論文執筆・報告準備(3h)
		事後	リフレクションと相互レビュー(1h) リサーチワーク (4h)
第 6 週	(第 10 講／第 11 講) 研究進捗報告・相互レビュー	事前	論文執筆・報告準備(3h)
		事後	リフレクションと相互レビュー(1h) リサーチワーク (4h)
第 7 週	(第 12 講／第 13 講) 研究進捗報告・相互レビュー	事前	論文執筆・報告準備(3h)
		事後	リフレクションと相互レビュー(1h) リサーチワーク (4h)
第 8 週	(第 14 講／第 15 講) 最終審査会発表練習	事前	論文執筆・報告準備(3h)
		事後	リフレクションと相互レビュー(1h) 専門職学位論文提出稿完成 (4h)

授業の進め方と方法

- ・ 上記目的・到達目標を達成するため、本授業では前後期の各初回で講師によるオリエンテーションと研究計画案の共有および改訂を行った後、以降は 2 コマ(2 講)連続の演習で履修者自身による研究・執筆経過報告と履修者同士の相互レビューおよびディスカッションを行い、これらに対して担当教員が助言指導を中心とする研究活動の支援を行う。演習の進行は、履修者が行う。
- ・ 定期的なプログレスレポート (A4 サイズ 1~2 枚程度) を作成することを求める。
- ・ 授業実施方法は基本的にオンラインだが、一部ハイフレックスで実施する可能性がある。
- ・ 授業の内容や進行、経過報告の回数や時間は、履修者数や進捗状況などに応じて調整・変更する。

教科書・参考書

教科書は指定しない。参考書は以下のとり。その他、研究テーマや履修者の状況に合わせて参考文献等を紹介する。

- ・ 中原淳 (編著) 北村士朗ほか (著) (2006)『企業内人材育成入門』,ダイヤモンド社

- ・ S.M.ロス／G.R.モリソン著，向後千春ほか（訳）（2004）『教育工学を始めよう：研究テーマの選び方から論文の書き方まで』，北大路書房

評価方法

- ・ 各報告会・審査会時点での専門職学位論文の完成度（30%）
- ・ 報告担当週の報告内容・方法（30%）
- ・ プロGRESSレポート（20%）
- ・ 授業中のディスカッションおよび授業後の相互レビューへの貢献（20%）

以上の全てに6割以上得点することを単位取得条件とする。

その他の重要事項

- ・ 事前に「インストラクショナル・デザイン」「成人教育・学習論」を履修しておくことを強く推奨する。
- ・ コンタクト方法、オフィスアワーの予約、PROGRESSペーパーの提出頻度など、詳細は第1回演習時に履修者と話し合いながら決定する。
- ・ 必要に応じて、演習時間外にも指導を行うことがある。
- ・ 履修にあたって何か特別な配慮が必要な場合にはチャット等で担当者に連絡し、相談をすること。

2022年度科目との読替え

なし。

	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	○	○	○	○

授業名称	実践教育プロジェクト			科目コード	PEPF1501S
担当教員	本間正人	実施方法	オンライン	単位数	2単位
配当年次	1年次	開講学期	前期	曜日	金A
年間開講数	1回	授業種別	演習	授業区分	選択

授業の目的

本授業では、実務的内容を主題とした教育プログラム作成に関する基礎的なスキルの習得を目的とする。この目的の達成のために、本授業では (1) 教育プログラム作成に関する一般的理論を理解するとともに、実務的内容を主題とした教育プログラムの作成に関する方法論について理解する。またそれらの理解を元に (2) 実際に履修者が各自の専門分野で実務的内容を主題として、その人ならではの教育プログラムを開発することができるようになることを目的とする。

到達目標

- 1 教育プログラム作成に関する一般的理論や概念を説明することができる。
- 2 実務的内容を主題とした教育プログラムの作成に関する方法論を説明することができる。
- 3 教育プログラム作成に関する理論や概念を応用し、履修者自身の教育目的に対して適切かつ、その人ならではの教育プログラムを作成することができる。
- 4 他者及び自己の作成した教育プログラムを建設的に批判・改善できるようになる。

授業計画

授業外の学習

授業計画	授業外の学習
第1週 (第1講) イントロダクション:	事前 シラバスの内容確認 (0.5h)
	事後 コメントペーパーの提出 (1h) 授業内容の理解の確認 (1.5h)
第2週 (第2講) 教育プログラムのコースデザインの説明 (第3講) 教育プログラムのコースデザインの演習	事前 参考文献読解・授業資料確認 (3h)
	事後 コメントペーパーの提出 (1h) 教育プログラム (コース) 作成 (5h)
第3週 (第4講) 教授法の説明 (第5講) 教授法の演習	事前 参考文献読解・授業資料確認 (3h)
	事後 コメントペーパー提出 (1h) 授業内容の理解の確認 (2h)
第4週 (第6講) ワークショップデザインの説明 (第7講) ワークショップデザインの演習	事前 参考文献読解・授業資料確認 (3h)
	事後 コメントペーパー提出 (1h) 授業内容の理解の確認 (2h)
第5週 (第8講) 教材・学習環境デザインの説明 (第9講) 教材・学習環境デザインの演習	事前 参考文献読解・授業資料確認 (3h)
	事後 コメントペーパー提出 (1h) 授業内容の理解の確認 (2h)
第6週 (第10講) 学習評価の説明 (第11講) 学習評価の演習	事前 参考文献読解・授業資料確認 (3h)
	事後 コメントペーパー提出 (1h) 授業内容の理解の確認 (2h)
第7週 (第12講) 実務的教育プログラム設計の方法と課題 (第13講) クラスデザイン演習	事前 参考文献読解・授業資料確認 (3h)
	事後 コメントペーパー提出 (1h) 授業内容の理解の確認 (2h) 教育プログラム (クラス) 作成 (11h)
第8週 (第14講) コースデザイン・クラスデザイン発表と	事前 コース・クラスデザイン作成・発表準備 (3h)

	議論 (第 15 講) まとめと振り返り	事後	コメントペーパー提出 (1h) 発表内容・ディスカッションの復習 (3h)		
授業の進め方と方法					
<p>上記目的・到達目標を達成するため、本授業は、教育プログラムを適切にデザインするための一般的な理論や方法論について説明するとともに、実践に応用するための演習を行う。はじめに教育プログラム全体(コース)のデザインについて学んだ後に、プログラム内の各授業や研修の詳細なクラスデザインの方法を学ぶ。最終的には履修者はコースおよびクラスのプランを作成し発表するとともに、その内容について議論し吟味する。</p>					
教科書・参考書					
<p>教科書は使用しない。代表的な参考書として以下のものを紹介するが、その他いくつかの参考書を用いる予定であり授業中に適宜提示する。</p> <p>実務家教員 COE プロジェクト編 (2021)『実務家教員の理論と実践』, 社会情報大学院大学出版部. 中原 淳, 関根 雅泰, 島村 公俊, 林 博之 (共著) (2022) 研修開発入門 「研修評価」の教科書 「数字」と「物語」で経営・現場を変える.</p>					
評価方法					
<p>コメントペーパー：30% コースデザインのプラン：35% クラスデザインのプラン：35%</p>					
その他の重要事項					
初回授業時にオフィスアワーについて説明する。					
2022 年度科目との読替え					
なし。					
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④	
	○	-	○	○	

授業名称	インストラクショナル・デザイン			科目コード	PEPF1502S
担当教員	北村 士朗	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	前期	曜日	水 B
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、履修者が「インストラクショナル・デザイン (ID)」に関する主要な理論やモデルを用い、効果・効率・魅力が見込める授業や研修をデザインするためのスキルを身につけることにある。履修者は自らが持つ専門知識・ノウハウ・スキルを、どのように整理し、どのように構成し、どのような授業形態で、どのように学ばせれば、対象者(受講生)が学習できるのかといった観点に対し適切に授業設計できるようになる。

上記目的を達成するため、本授業では自身が実施することを想定した授業・研修の企画書および計画書をステップバイステップで制作する。なお、この計画書は「実務家教員のキャリア開発」の演習でも活用できる。

到達目標

- ① ID の概要や必要性、有用性について説明できる。
- ② ID の主要な理論・モデルについて概要や使用方を説明できる。
- ③ ID の理論・モデル・手法を用い、高い効果・効率・魅力が期待される授業・研修計画書を作成できる。

授業計画

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) オリエンテーション ～インストラクショナル・デザインって何?～	事前	シラバスの内容確認(0.5h)
		事後	リフレクションペーパーの提出と相互コメント(1h)
第 2 週	(第 2 講) 授業・研修の内容とプロセスをイメージする (第 3 講) 出口・入口をデザインする	事前	演習課題の事前準備・制作(3h)
		事後	リフレクションペーパーの提出、課題改訂と相互コメント(1h)
第 3 週	(第 4・第 5 講) テストを作成する	事前	演習課題の事前準備・制作(3h)
		事後	リフレクションペーパーの提出、課題改訂と相互コメント(1h)
第 4 週	(第 6 講) 授業・研修企画書を作成する (第 7 講) 授業・研修企画書を相互評価し改訂する	事前	演習課題の事前準備・制作(3h)
		事後	リフレクションペーパーの提出、課題改訂と相互コメント(1h)
第 5 週	(第 8 講) 授業・研修の構造を見きわめる (第 9 講) 学習を支援する作戦を立てる	事前	演習課題の事前準備・制作(3h)
		事後	リフレクションペーパーの提出、課題改訂と相互コメント(1h)
第 6 週	(第 10 講) 研修・授業の魅力を高める (第 11 講) 形成的評価の準備をする	事前	演習課題の事前準備・制作(3h)
		事後	リフレクションペーパーの提出、課題改訂と相互コメント(1h)
第 7 週	(第 12 講) 研修・授業計画書を作成する (第 13 講) 研修・授業計画書の相互レビューと改訂	事前	演習課題の事前準備・制作(3h)
		事後	リフレクションペーパーの提出、課題改訂と相互コメント(1h)
第 8 週	(第 14・15 講) 研修・授業計画書改定版の相互レビュー	事前	演習課題の事前準備・制作(3.5h)
		事後	課題改訂と相互コメント、(1h)

授業の進め方と方法				
<p>上記目的・到達目標を達成するため、本授業は、第 2 週目以降、2 講 (90 分×2) 連続で実施し、各講と事前・事後の学習は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ID に関する理論やモデルの解説と、それらを用いた演習課題の提示 (担当教員) ・ 演習課題の準備・制作 (履修者各自) ・ 課題に対するレビュー・ディスカッション (履修者相互) ・ レビュー結果を活かした課題の改訂と提出 (履修者各自) <p>で構成する。</p> <p>授業実施方法は基本的にオンラインだが、一部ハイフレックスで実施する可能性がある。</p> <p>また、授業の内容や進め方は、進捗状況や履修者数などに応じて調整・変更することがある。</p>				
教科書・参考書				
<p>【教科書】</p> <p>鈴木克明 (著) (2002) 『教材設計マニュアル—独学を支援するために』, 北大路書房</p> <p>上記教科書はタイトルに「教材設計」とあるが、内容の多くはインストラクショナル・デザインの基礎に関わるものであり、その対象は教材設計に限らない。本授業では教材ではなく授業・研修を設計していく。</p> <p>【参考書・参考文献】</p> <p>初回および毎回の授業で提示または配付する。</p>				
評価方法				
<ul style="list-style-type: none"> ● 授業・研修企画書 (第 4 週受講後に提出された改訂版 30%) ● 授業・研修計画書 (第 15 週受講後に提出された改訂版 30%) ● 各回の演習課題とリフレクションペーパーの内容 (20%) ● 授業貢献度 (ディスカッションや相互レビューへの貢献度、グループワーク等での積極性) (20%) <p>以上の全てを提出し、それぞれ 6 割以上得点することを単位取得条件とする。</p>				
その他の重要事項				
<p>「実務家教員のキャリア開発」の履修前に本科目を履修することを強く推奨する。</p> <p>受講にあたり、何か特別な配慮を必要とする場合にはメール等で担当者に連絡し、相談をすること。</p>				
2022 年度科目との読替え				
なし				
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	—	○	○	○

授業名称	成人教育・学習論			科目コード	PEPF2503S
担当教員	北村 士朗	実施方法	オンライン	単位数	2 単位
配当年次	2 年次	開講学期	後期	曜日	水 A
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、受講者が成人、特に働く社会人の学習や教育に関する理論、モデルや先行研究を自らの学習と教育活動に活かせるようになることである。

具体的には、受講者自身が成人学習者として成長すること、そして成人受講者に対する教育活動（大学等での授業、企業等での人材育成活動など）をデザインする際に、受講者の年齢や立場等によって生じる特性に合わせた教育的配慮ができるようになることを目指す。

本授業では、まず成人学習に関する主要な理論やモデル類を理解するために、それらを用いて成人学習者としての自分自身を分析することで、成人学習者に何が必要かを検討する。その上で、成人教育すなわち成人学習者の支援をどのように考え、デザインすべきかを学ぶ。

加えて、成人の学習動機に大きく影響するキャリア開発や、ナレッジ・マネジメントや越境学習など組織における学習と関わりの深い事項にも触れる。

到達目標

- ① 成人の学習・教育についての現状や課題について説明できる。
- ② 成人の学習・教育に関する主要な理論やモデル、留意点、議論について説明できる。
- ③ 成人学習者である自身の学習を理論・モデルに沿って分析し、改善案を策定できる。
- ④ 自身が成人教育の企画・設計・実施を行う際に工夫・留意すべきポイントを挙げるができる。

授業計画

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) 成人の学習と教育を俯瞰する ～自分自身を通して成人学習を考える～	事前	シラバスの内容確認 (0.5h)
		事後	リフレクションペーパーの提出と相互コメント (1h)
第 2 週	(第 2 講) 成人の学習目的～何のために学ぶのか～ (第 3 講) 成人の学習目的 (演習)	事前	演習の事前準備(2h)
		事後	リフレクションペーパーの提出と相互コメント(1h)
第 3 週	(第 4 講) 成人学習と学習モデル～どのように学ぶのか～ (第 5 講) 成人学習と学習モデル (演習)	事前	演習の事前準備(2h)
		事後	リフレクションペーパーの提出と相互コメント(1h)
第 4 週	(第 6 講) 成人の学習動機～学習を促すもの・妨げるもの～ (第 7 講) 成人の学習動機 (演習)	事前	演習の事前準備(2h)
		事後	リフレクションペーパーの提出と相互コメント(1h)
第 5 週	(第 8 講) 自発的な成人学習者へ～自らを見定め、律する～ (第 9 講) 自発的な成人学習者へ (演習)	事前	演習の事前準備(2h)
		事後	リフレクションペーパーの提出と相互コメント(1h) 中間レポートの提出(3h)
第 6 週	(第 10 講) 成人教育のデザイン～成人の学習を支援する～ (第 11 講) 成人教育のデザイン (演習)	事前	演習の事前準備(2h)
		事後	リフレクションペーパーの提出と相互コメント(1h)

第7週	(第12講) 組織での学びをデザインする	事前	演習の事前準備(2h)		
	(第13講) 組織での学びをデザインする (演習)	事後	リフレクションペーパーの提出と相互コメント(1h)		
第8週	(第14・15講) 個人発表と振り返り	事前	発表準備(4h)		
		事後	最終レポートの提出と相互コメント(3.5h)		
授業の進め方と方法					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 上記目的・到達目標を達成するため、本授業は、第2週目以降、2講(90分×2)連続で実施する。 ・ 毎回の教員からの話題提供(授業内容)に基づいてクラス内でディスカッションを行う。 ・ 授業の内容や進行方法は、進捗状況や履修者数などに応じて調整・変更することがある。 					
教科書・参考書					
教科書は指定しない。初回および毎回の授業で参考書・参考資料を提示する。					
評価方法					
<ul style="list-style-type: none"> • 中間レポートの内容 (30%) • 最終レポートの内容 (30%) • リフレクションペーパー (各回の振り返り) の内容 (20%) • 授業貢献度 (ディスカッションや演習、相互コメントでの貢献度、グループワーク等での積極性、) (20%) <p>以上の全てを提出し、それぞれ6割以上得点することを単位取得条件とする。</p>					
その他の重要事項					
<p>教育実践科目「実務家教員のキャリア開発」の受講前に本科目を履修することを強く推奨する。</p> <p>受講にあたり、何か特別な配慮を必要とする場合にはメール等で担当者に連絡し、相談をすること。</p>					
2023年度科目との読替え					
なし。					
本科目と対応するディプロマ・ポリシー		DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
		—	○	○	○

授業名称	実務家教員のキャリア開発			科目コード	PEPF2504S
担当教員	北村 士朗	実施方法	一部ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	2 年次	開講学期	後期	曜日	水 B
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択

授業の目的

本授業は、実務家教員としてのキャリア開発のために、キャリアイメージを具体化するとともに、授業の実践力と評価能力を身につけることを目的とする。この目的の達成のために、履修者は自身が想定している実務家教員ポストに求められる要件・実績等を確認した上で、模擬授業・研修を実施する。

模擬授業・研修では、教育実践科目「インストラクショナル・デザイン」で立案した（またはそれと同等レベルの）授業・研修を題材とし、履修者は講師役を交代で務める他、受講者・評価者の立場で他の模擬授業・研修を評価する。講師の立場での実践、受講者・評価者の立場での評価の双方を体験することで、登壇時のスキルに加え、互いの実践の優れている点や要改善点、伸び代を自らの教育実践に取り入れる能力、形成的評価を行い自らの授業を改善する能力を伸長させることも目指す。

到達目標

- ① 自身の実務家教員としてのキャリアプランの方向性を説明できるようになること
- ② 自身が有する専門知識・ノウハウ・スキルに関する授業・研修について、シラバスの内容をプレゼンテーションし、その効果・効率・魅力をアピールできるようになること
- ③ 上記授業・科目のコアとなる部分を模擬授業として実施し、効果・効率・魅力をアピールできるようになるとともに、形成的評価を行い、授業改善案を策定できるようになること。
- ④ 他者が行った模擬授業に対し、適切な評価と建設的批判ができるようになること。

授業計画

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) オリエンテーション～実務家教員になるために～	事前	シラバスの精読 (0.5h)
		事後	授業内容の整理 (1h) リフレクションペーパー提出 (0.5h)
第 2 週	(第 2・3 講) 実務家教員としてのキャリアプラン (演習)	事前	演習準備 (2h)
		事後	授業内容の整理 (1h) リフレクションペーパー提出 (1h)
第 3 週	(第 4・5 講) 授業・研修の実践と評価 (演習) 1	事前	演習準備 (2h)
		事後	授業内容の整理 (1h) リフレクションペーパー提出 (1h)
第 4 週	(第 6・7 講) 授業・研修実践と評価 (演習) 2	事前	演習準備 (2h)
		事後	授業内容の整理 (1h) リフレクションペーパー提出 (1h)
第 5 週	(第 8・9 講) 授業・研修実践と評価 (演習) 3	事前	演習準備 (2h)
		事後	授業内容の整理 (1h) リフレクションペーパー提出 (1h)
第 6 週	(第 10・11 講) 授業・研修実践と評価 (演習) 4	事前	演習準備 (2h)
		事後	授業内容の整理 (1h) リフレクションペーパー提出 (1h)

第7週	(第12・13講) 授業・研修実践と評価(演習)5	事前	演習準備(2h)		
		事後	授業内容の整理(1h) リフレクションペーパー提出(1h)		
第8週	(第14・15講) 振り返り～より良い実践に向けて～	事前	演習準備(2h)		
		事後	授業内容の整理(1h) リフレクションペーパー提出(1h)		
授業の進め方と方法					
<p>上記目的・到達目標を達成するため、第2週では自身が想定している実務家教員のポストに求められる要件・実績等を確認していく演習を行い、第3週以降は①自らが行おうとする授業・研修のシラバスの発表、②オリエンテーション部分(大学での授業第1回、研修初日の冒頭約10分間を想定)の模擬授業、③自身の専門性・独自性を最もアピールできる部分(約10分間)の模擬授業を段階的に行っていく。講師役以外の履修者は評価役を務め、各模擬授業・研修後に履修者同士のディスカッション、担当教員による講師役・評価役双方に対するコメントとフィードバックを行う。</p> <p>授業は基本的にオンラインで実施するが、対面授業を体験するために一部ハイフレックスで実施する可能性がある。また、学期中に3回程度の発表や模擬授業・研修を行うことが求められるが、授業・演習の内容や進め方、各自の演習回数は、進捗状況や履修者数などに応じて調整・変更することがある。</p>					
教科書・参考書					
教科書は指定しない。初回および毎回の授業で参考書・参考資料を提示する。					
評価方法					
<ul style="list-style-type: none"> ● 演習①シラバスの内容(20%) ● 演習②模擬オリエンテーションの内容(20%) ● 演習③模擬授業の内容(20%) (演習①～③は評価役の評価結果も勘案する) ● 授業中のディスカッションへの貢献度、評価コメントの内容(20%) ● リフレクションペーパーの内容(20%) <p>以上の全てを提出し、それぞれ6割以上得点することを単位取得条件とする。</p>					
その他の重要事項					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 模擬授業・研修では題材とする授業・研修計画ができていることが求められるため、「インストラクショナル・デザイン」を事前に履修しておくことを強く推奨する。また「成人教育・学習論」も、演習における成人学習者向けの教育的配慮を検討し議論するために事前に履修しておくことを推奨する。 ・ やむを得ない事情で授業を欠席する場合、事前に担当教員まで連絡すること。 ・ 授業でわからないこと、不明なこと、担当教員に知っておいて欲しいこと等あれば、遠慮なく担当教員まで連絡すること。 					
2022年度科目との読替え					
なし。					
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④	
	○	—	○	○	

授業名称	社会教育演習			科目コード	PEPF2505S
担当教員	荒木貴之	実施方法	対面	単位数	2 単位
配当年次	1・2 年次	開講学期	後期	曜日	木 A
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、文献講読、シンポジウム参加、実地調査、プレゼンテーション、レポート作成等を通じて、地域社会やさまざまなコミュニティで行われている「人づくり・つながりづくり・地域づくり」に関する社会教育実践の性格と背景を客観的に把握し、あわせて現実的な提言を行うことを通じて、社会教育人材に求められる社会教育の実践能力の育成を図る。

到達目標

- ① 履修者が、社会教育施設、社会教育行政と関連する制度、社会教育をめぐる連携のあり方に関して、社会教育人材に求められる基本的な視点と知識を得ることができる。
- ② 履修者が、社会教育人材としての視点と知識を生かして、自治体が企画実施する実際の社会教育事業に対して、客観的把握と実践的提言を行うことができる。
- ④ 履修者が、社会教育事業を構想し、実現することができる。

授業計画

授業外の学習

授業計画	授業外の学習
第 1 週 (第 1 講) 社会教育人材 (社会教育主事及び社会教育士、学芸員、司書等) の職務と求められる役割の実際	事前 社会教育施設の体系と各種施設の役割に関するリサーチワーク (3h)
	事後 社会教育施設の現状と課題に関する検討と相互レビュー (2h)
第 2 週 (第 2 講) 事業計画立案の実際 1 (演習) (第 3 講) 事業計画立案の実際 2 (演習) モデル自治体や社会教育施設における社会教育に関する現状を把握し、学習課題を抽出する。	事前 モデル自治体 (社会教育施設) の総合教育計画や年間事業計画に関するリサーチワーク (3h)
	事後 モデル自治体 (社会教育施設) の学習課題の検討と相互レビュー (2h)
第 3 週 (第 4 講) 事業計画立案の実際 3 (演習) (第 5 講) 事業計画立案の実際 4 (演習) モデル自治体や社会教育施設における社会教育に関する事業計画を検討し、立案する。	事前 モデル自治体 (社会教育施設) の社会教育計画に関するリサーチワーク (3h)
	事後 モデル自治体 (社会教育施設) の社会教育に関する事業計画の検討と相互レビュー (2h)
第 4 週 (第 6 講) 予算・調達の実際 1 (演習) (第 7 講) 予算・調達の実際 2 (演習) モデル自治体や社会教育施設における社会教育に関する「ヒト・モノ・カネ」の調達計画を検討し、立案する。	事前 ふるさと納税やクラウドファンディングの現状と課題に関するリサーチワーク (3h)
	事後 「ヒト・モノ・カネ」の調達計画の検討と相互レビュー (2h)
第 5 週 (第 8 講) ゲスト講義 (シンポジウム参加) 1 (第 9 講) ゲスト講義 (シンポジウム参加) 2 自治体等が主催するシンポジウムに参加し、「人づくり・つながりづくり・地域づくり」に関する現状と課題を把握する。	事前 モデル自治体が定めた地域総合計画に関するリサーチワーク (3h)
	事後 モデル自治体の「人づくり・つながりづくり・地域づくり」に関する現状と課題に関する相互レビュー (2h)
第 6 週 (第 10 講) 事業計画広報の実際 1 (演習) (第 11 講) 事業計画広報の実際 2 (演習)	事前 モデル自治体 (社会教育施設) が行う社会教育の広報活動に関するリサーチワーク (3h)

	モデル自治体や社会教育施設における社会教育に関する広報計画を検討し、プレゼンテーションを行う。	事後	プレゼンテーションの検討と相互レビュー (2h)		
第7週	(第12講) 自治体(社会教育施設)への提言1(演習) (第13講) 自治体(社会教育施設)への提言2(演習) モデル自治体や社会教育施設に対して、社会教育の振興に関する提言を行い、自治体職員等から評価を受ける。	事前	自治体(社会教育施設)へのプレゼンテーション作成(8h)		
		事後	プレゼンテーションの成果と課題に関する相互レビュー(2h)		
第8週	(第14講) 社会教育人材に求められる専門性の検討 (第15講) これからの社会教育のあり方の検討	事前	社会教育人材に求められる専門性に関するリサーチワーク(3h)		
		事後	今後の社会教育のあり方に関する検討と相互レビュー(2h)		
授業の進め方と方法					
上記目的・到達目標を達成するため、本授業は、ワークショップやグループ討議など、アクティブ・ラーニングの手法を用いた参加型による学習を適宜行う。また、社会教育が目指す「人づくり・かかわりづくり・地域づくり」の観点から、実際の自治体で行われている社会教育の取り組みに対して、実地調査を行った上で現実的な提言を行い、自治体職員等からフィードバックを受ける。開講時期は夏季集中期間を基本とするが、自治体等が企画するシンポジウム参加や実地調査等は、開講時期や講義の順序性に関わらず、適宜実施する。					
教科書・参考書					
教科書：なし 参考書：生涯学習・社会教育行政研究会(2023)『生涯学習・社会教育行政必携(令和6年版)』, 第一法規、日本青年館公益事業部「社会教育」編集部(月刊)『社会教育』, 日本青年館					
評価方法					
課題、リアクションペーパー、アンケート等(40%) プレゼンテーション及びレポート「社会教育総合計画の策定」(60%)					
その他の重要事項					
オフィスアワーの予約方法：電子メールにて希望日時を調整し、研究相談を実施する。 授業実施方法の詳細など					
2022年度科目との読替え					
なし					
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④	
	○	○	-	○	

自由科目

社会構想大学院大学の専門職学位課程に所属する学生は、他研究科で開講される授業のうち、必修科目・選択必修科目を除く授業を「自由科目」として履修できます。自由科目の単位は、修了単位数に算入することはできませんが、成績表に記載されます。単年度に履修できる単位数には、自由科目も含まれます。なお、履修希望者が多数となった場合には、開講元課程の院生による履修を優先します。

オフィスアワー

本学常勤教員のオフィスアワーは下表の通りです。当該時間帯は対面ないし Teams でのご相談に対応するため、各教員が研究室で待機しています。履修や学習方法、研究に関するご相談など、自由にご活用ください。各授業担当教員もメールや Teams 等でオフィスアワーの設定が可能ですので、各教員へ個別にお問い合わせください。Teams のチャットを用いて教員に連絡する場合は、アプリ上部の検索ウインドウにメールアドレス（次ページ以降参照）の@より前の文字列を記入してください。

教員名	所属	前期	後期
橋本 純次	CD	随時（ガイダンス資料参照）	随時（ガイダンス資料参照）
中川 哲	CD	木 A 17:00-18:00	水 A 17:00-18:00
徳宮 俊貴	CD	火 A 18:00-19:00 火 B 18:00-19:00	火 A 18:00-19:00 火 B 18:00-19:00
齋藤 崇徳	PE	月 A 18:00-19:00 月 B 18:00-19:00	月 A 18:00-19:00 月 B 18:00-19:00
大谷 晃	PE	火 A 18:00-20:00	火 A 18:00-20:00
富井 久義	SD	水 A 18:00-19:00 火 B 18:00-19:00	水 A 18:00-19:00 火 B 18:00-19:00

※「CD」は「コミュニケーションデザイン研究科」,

「PE」は「実務教育研究科」,

「SD」は「社会構想研究科」を指す。

教員メールアドレス一覧（実務教育研究科）

職位	氏名	メールアドレス（Teams アカウントも同様）
学長	吉國 浩二	（事務局にお問い合わせください）
学監・研究科長	川山 竜二	（事務局にお問い合わせください）
教授	藏田 實	minoru.kurata@socialdesign.ac.jp
教授	廣政 愁一	shuichi.hiromasa@sentankyo.ac.jp
教授	田原 祐子	yuko.tahara@socialdesign.ac.jp
教授	荒木 貴之	takayuki.araki@socialdesign.ac.jp
教授	北村 士朗	shiro.kitamura@sentankyo.ac.jp
特任教授	松本 朱美	akemi.matsumoto@sentankyo.ac.jp
専任講師	齋藤 崇徳	takanori.saito@socialdesign.ac.jp
助教	大谷 晃	akira.otani@sentankyo.ac.jp
兼担教員	坂本 文武	f.sakamoto@socialdesign.ac.jp
兼担教員	富井 久義	h.tommy@sentankyo.ac.jp
兼担教員	橋本 純次	j.hashimoto@socialdesign.ac.jp
兼担教員	中川 哲	satoshi.nakagawa@socialdesign.ac.jp
客員教授	本間 正人	masato.honma@socialdesign.ac.jp
客員准教授	石崎 友規	tomonori.ishizaki@socialdesign.ac.jp

科目等履修生

科目等履修生として登録された方は、正規の院生と同様に社会構想大学院大学の施設・設備・LMSを利用することができます。ただし、学外の学割等を受けることはできません。

学則・その他規則は正規院生と同様に適用されます。授業時間帯・実施方法・録画データの配信については、P.2以降をご確認ください。

(1) 科目等履修生番号・登録証

科目等履修生として登録されると、8桁の科目等履修生番号が付与されます。本学専門職学位課程修了生であっても、新たな科目等履修生番号が付与されますので、ご注意ください。複数年度において科目等履修生として在籍する者は、登録期間が連続している場合のみ、同一の科目等履修生番号となります。

発行される登録証は科目等履修生であることを証明するものであり、同時に、入館セキュリティカード、図書室利用証としての機能を兼ねています。紛失しないよう十分注意し常に携帯するとともに、本学教職員から要求があったときはこれを提示しなければなりません。**登録証の再交付（再発行）は、理由の如何を問わず、実費（5,500円）を請求いたします。**

(2) Microsoft365 アカウント

科目等履修生には大学院の Microsoft365 アカウントを付与いたします。アカウントドメインは【@nd.socialdesign.ac.jp】です。事前にお送りする設定マニュアルに従って、授業開始までに Microsoft365 および Teams の設定を完了してください。Microsoft365 アカウントは登録学期末まで利用することが可能です。

なお、複数年度において科目等履修生として在籍する者は、登録期間が連続している場合のみ、同一のアカウントとなります。また、本学専門職学位課程修了生として科目等履修生へ申し込まれた方は、修了生アカウントを引き続き、科目等履修生として利用いただきます。

(3) 履修登録

科目等履修生として登録を許可された段階で、申し込み時の申請科目への履修が登録されます。そのため、追加の履修登録手続きは必要ありません。授業開始後一週間、オリエンテーションのチームに登録されますが、ご自身の申請した授業のみ視聴するようにしてください。オリエンテーションが終わりますと、新たに登録された授業のチームが割り当てられます。

(4) 成績評価

各学期の終了後、成績通知書の送付をもって修了となります。Microsoft365 アカウント停止後の成績証明書については、事務局へお問い合わせください。

なお、本学専門職学位課程修了生につきましては、正規院生としての成績証明書と、科目等履修生としての成績証明書は別に発行されます。

研究生

研究生として登録された学生は、正規学生と同等に社会構想大学院大学の施設・設備・LMS を利用することができます。ただし、学外の学割等を受けることはできません。

研究指導については、指導担当教員に直接お問い合わせください。

(1) 研究生番号・登録証

研究生として登録されると、8桁の研究生番号が付与されます。本学専門職学位課程修了生であっても、新たな研究生番号が付与されますので、ご注意ください。

発行される登録証は研究生であることを証明するものであり、同時に、入館セキュリティカード、図書室利用証としての機能を兼ねています。紛失しないよう十分注意し常に携帯するとともに、本学教職員から要求があったときはこれを提示しなければなりません。**登録証の再交付(再発行)は、理由の如何を問わず、実費(5,500円)を請求いたします。**

(2) Microsoft365 アカウント

研究生は、専門職学位課程の修了生アカウントを引き続きご利用いただけます。

(3) 聴講

研究生は、指導教員が研究指導上必要と認めた場合に限り、専門職学位課程の科目を聴講することができます。指導教員からの指示のうえで聴講を希望する場合は、授業担当教員に直接連絡を取り、聴講の許可を得てください。聴講の可否については、授業担当教員から事務局へ連絡するよう、依頼してください。履修希望者が多数となった場合には、開講元課程の院生による履修を優先します。

なお、聴講によって単位を習得することはできません。

(4) 延長

研究生の在籍期間は1年以内ですが、研究生が研究の継続を希望する場合、在籍期間の延長が認められる場合があります。延長期間は1年以内とし、再度の延長が許可されることもあります。